

2025 年 度

た ば こ 耕 作 資 材 委 託 試 験 公 開 公 報

〔2024 年 度（年 作）実 施〕

第 5 6 号

同 付 録

Vol. 56（2024）

一般財団法人 葉たばこ財団

目 次

2024年度たばこ耕作資材委託試験 委託先一覧	1
2024年度たばこ耕作資材委託試験 供試器材一覧表	2
2024年度たばこ耕作資材委託試験結果総括コメント	3
2024年度たばこ耕作資材委託試験総括コメント決定会議概要	7
2024年度たばこ耕作資材委託試験成績	
I. 機械・乾燥の部	8

付録の部

（その1）理由書により2025年度試験を実施しないことに決定した資器材 ..	33
（その2）2024年度に試験した機械の仕様および図面	38
（その3）農薬試験成績書審査（2024年9月～2025年2月）	44
（その4）変更申請の承認を受けた資器材（2024年4月～2025年3月）	114

2024年度試験委託先一覧

試 験 実 施 機 関	略 称
日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所	葉 た ば こ 研
福島県農業総合センター	福 島 C
日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部	東 日 本 原
日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部	西 日 本 原

注1) 日本たばこ産業株式会社の産地試験実施場所については、下表の表記とした。

産 地 試 験 実 施 場 所	表 記
ひのくにふれあいセンター(熊本県合志市)	(ひのくにC)
上記以外の産地	(県 名)

2024年度委託試験供試資器材一覧表

I 機械・乾燥の部

1. 機械・乾燥

供試器材名	資材内容	調査項目	対象	試験実施機関 (実施場所)	掲載頁
熱回収型コンテナバルク 乾燥機 (機械室部分) CVD-ES-125-K-MC (三州産業)	乾燥機火炉に蓄熱装置を 装着することにより省エネ 効果を高めた設計	乾燥効果 外観品質 その他	乾燥	西日本原 (熊本県)	9
熱回収型キャビネットバ ルク乾燥機 (機械室部分) CAB-E-123-2-P-K (木原製作所)	乾燥機火炉に蓄熱装置を 装着することにより省エネ 効果を高めた設計	乾燥効果 外観品質 その他	乾燥	西日本原 (熊本県)	16
フルタ循環バルク乾燥機 (機械室部分) FRBC-20-K (フルタ電機)	プレートフィンを乾燥機火 炉の胴回りに溶接一体化 することで熱交換率を高め ることにより、燃費向上を図 る装置	乾燥効果 外観品質 その他	乾燥	西日本原 (沖縄県)	24

2024年度たばこ耕作資材委託試験 総括コメント

農薬の部

殺 虫 剤

資材名および試験対象	試験依頼社	総 括 コ メ ン ト
トアロー水和剤CT 薬効・薬害 (ハスモンヨトウ)	OATアグリオ(株)	薬効・薬害:500倍希釈液 1回 茎葉散布で薬害はなく、効果が認められる(終了)。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2023(1)、2024(1)
		収穫3日前までの500倍希釈液 1回 茎葉散布で可である。
ビーラム粒剤 薬効・薬害 (ネコブセンチュウ) 官能検査	バイエルクロップサイエンス(株)	薬効・薬害:本畑移植2日前までの20kg/10a 1回 作条土壌混和处理で薬害はなく、効果が認められる(終了)。 10kg/10a 1回 作条土壌混和处理で薬害はなく、効果が認められる(例数不足)。 官能検査:20kg/10a 1回 作条土壌混和处理で、喫味に対する影響は認められない(終了)。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2023(1)、2024(1)
		本畑移植2日前までの20kg/10a 1回 作条土壌混和处理で可である。
ベリマークSC 薬効・薬害 (ネキリムシ)	エフエムシー・ケミカルズ(株)	薬効・薬害:400倍希釈液 1回苗床茎葉散布で薬害がなく、効果が認められる(終了)。 官能検査:苗床処理のため省略。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2024(2)
		本畑移植当日までの400倍希釈液 1回苗床茎葉散布で可である。
ベリマークSC 薬効・薬害 (ハリガネムシ)	エフエムシー・ケミカルズ(株)	薬効・薬害:400倍希釈液 1回苗床茎葉散布で薬害がなく、効果が認められる(例数不足)。 官能検査:苗床処理のため省略。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2024(1)
ロムダンフロアブル 薬効・薬害 (ヨトウムシ) 官能検査	日本曹達(株)	薬効・薬害:2,000倍希釈液 1回茎葉散布で薬害はなく、効果が認められる(終了)。 官能検査:収穫14日前及び7日前の2,000倍希釈液 2回茎葉散布で喫味に影響は認められなかった(終了)。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2024(2)
		収穫14日前及び7日前の2,000倍希釈液 2回茎葉散布で可である。

農薬の部

殺 虫 剤

資材名および試験対象	試験依頼社	総 括 コ メ ン ト
ブロフレアSC (MIE-1209フロアブル) 薬効・薬害 (タバコアオムシ) 官能検査	三井化学クロップ& ライフソリューション(株)	薬効・薬害:2,000倍及び4,000倍希釈液 1回茎葉散布で 薬害が無く、効果が認められる(2016年度終了)。 官能検査:収穫14日前及び7日前の2,000倍希釈液 2回茎 葉散布で喫味に影響は認められなかった(終了)。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2016(2)
		収穫14日前及び7日前の2,000倍希釈液 2回茎葉散布で 可である。
ブロフレアSC (MIE-1209フロアブル) 薬効・薬害 (ヨトウムシ) 官能検査	三井化学クロップ& ライフソリューション(株)	薬効・薬害:2,000倍及び4,000倍希釈液 1回茎葉散布で 薬害が無く、効果が認められる(2016年度終了)。 官能検査:収穫14日前及び7日前の2,000倍希釈液 2回茎 葉散布で喫味に影響は認められなかった(終了)。
		[備考]薬効・薬害の試験年(例数):2016(2)
		収穫14日前及び7日前の2,000倍希釈液 2回茎葉散布で 可である。

機械・乾燥の部

乾 燥

資材名および試験対象	試験依頼社	総 括 コ メ ン ト
熱回収型コンテナバルク乾燥機 (機械室部分) CVD-ES-125-K-MC 乾燥効果	三州産業㈱	操作性、動作、および乾葉の外観品質に特段の問題なく、燃料の低減効果が認められた。 乾燥装置として使用可である。 ただし、燃料低減効果については、乾燥施設の設置環境等が大きく影響することに留意する必要がある。 <div>合格</div>
熱回収型キャビネットバルク乾燥機 (機械室部分) CAB-E-123-2-P-K 乾燥効果	㈱木原製作所	操作性、動作、および乾葉の外観品質に特段の問題はなかった。 燃料低減効果については、本葉では認められたが中葉では認められなかった。 更に試験が必要である。
フルタ循環バルク乾燥機 (機械室部分) FRBC-20-K 乾燥効果	フルタ電機㈱	操作性、動作、および乾葉の外観品質に特段の問題なく、燃料の低減効果が認められた。 乾燥装置として使用可である。 ただし、燃料低減効果については、乾燥施設の設置環境等が大きく影響することに留意する必要がある。 <div>合格</div>

2024年度たばこ耕作資材委託試験 総括コメント決定会議概要

(中 間)

1. 会議主催者 (一財)葉たばこ財団
2. 開催日 2024年10月8日
3. 開催場所 ビジョンセンター浜松町 5F会議室
4. 出席有識者 (一財)葉たばこ財団 審議委員
服部 信義 元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長
(農業機械)
長谷川 勉 元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長
(栽培生理、病害虫防除)
横山 昌雄 元(公財)日本植物調節剤研究協会 専務理事
(植物生長調節剤・除草剤)
鈴木 智則 元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長
(殺菌剤、殺虫剤、病害虫防除)
(一財)葉たばこ財団 専門委員
古賀 一治 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 主任研究員
(殺菌剤、殺虫剤、植物調整剤、病害虫防除)
岩本 啓秀 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員
(殺虫剤、植物調整剤、病害虫防除)
長村 一男 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員
(栽培生理、苗床資材、機械・乾燥、本畑資材、肥料・土壌改良剤)
山内 俊 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副主任研究員
(栽培生理、苗床資材、機械・乾燥、本畑資材、肥料・土壌改良剤)

(最 終)

1. 会議主催者 (一財)葉たばこ財団
2. 開催日 2025年2月6日
3. 開催場所 ビジョンセンター浜松町 4K会議室
4. 出席有識者 (一財)葉たばこ財団 審議委員
服部 信義 元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長
長谷川 勉 元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長
横山 昌雄 元(公財)日本植物調節剤研究協会 専務理事
鈴木 智則 元日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副所長
(一財)葉たばこ財団 専門委員
古賀 一治 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 主任研究員
岩本 啓秀 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員
長村 一男 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 研究員
山内 俊 日本たばこ産業(株)葉たばこ研究所 副主任研究員

※カッコ内は各委員の専門分野

I 機 械 、 乾 燥 の 部

1. 乾 燥

- 1 試験対象名 乾燥効果
- 2 供試器材名 熱回収型コンテナバルク乾燥機(三州産業株式会社)
型式 CVD-ES-125-K-MC
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:小暮 謙仁)
- 4 試験実施場所 熊本県宇城市小川町中小野631 徳永龍司氏
- 5 試験方法
- 1) 供試品種 第1黄色種 F80
- 2) 試験区別
- 1区 対照(慣行) コンテナバルクⅢ型乾燥機 2段吊り 8.3㎡
型式:SCD125-8.3-2-P-MC
- 2区 試験 熱回収型コンテナバルク乾燥機 2段吊り 8.3㎡
型式:CVD-ES-125-K-MC
- 3) 試験回数 中葉・本葉 各1回

4) 吊込葉の状況

(1)吊込葉の性状

葉分 (収穫回期)	区分	収穫	心止後 日数	熟度			葉長	葉幅	葉色
				未熟	適熟	過熟			
中葉 (2回期)	1区	月日 6月4日	日 25	% 35(5.5)	% 51(4)	% 14(3)	cm 66.8	cm 32.2	4.4
	2区	6月6日	27	32(5.5)	60(4)	8(3)	69.6	31.3	4.4
本葉 (総かぎ)	1区	7月17日	68	39(5)	60(4)	1(3)	70.7	24.5	4.4
	2区	7月18日	69	35(5)	59(4)	6(2.5)	68.5	25.3	4.3

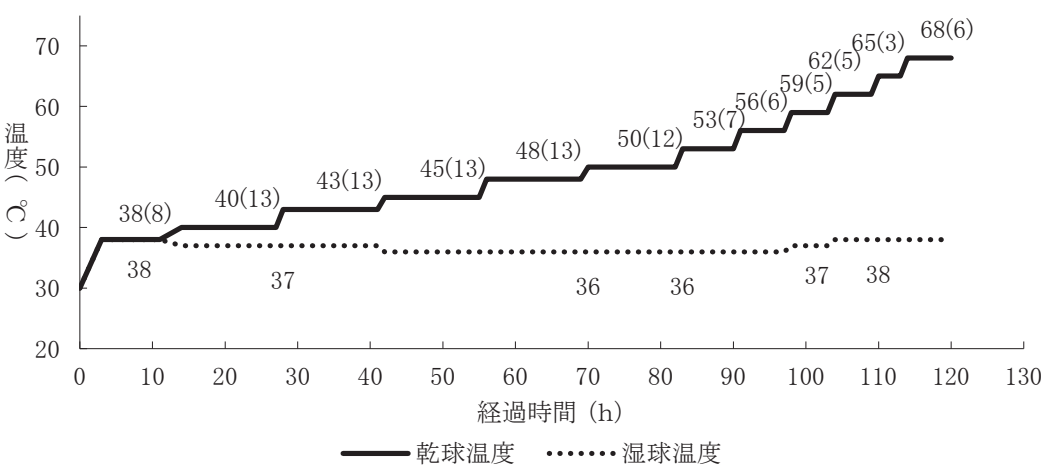
注1) 熟度欄のカッコ内は、基準としたカールスケール値を示す。

注2) 葉色はカールスケール値。

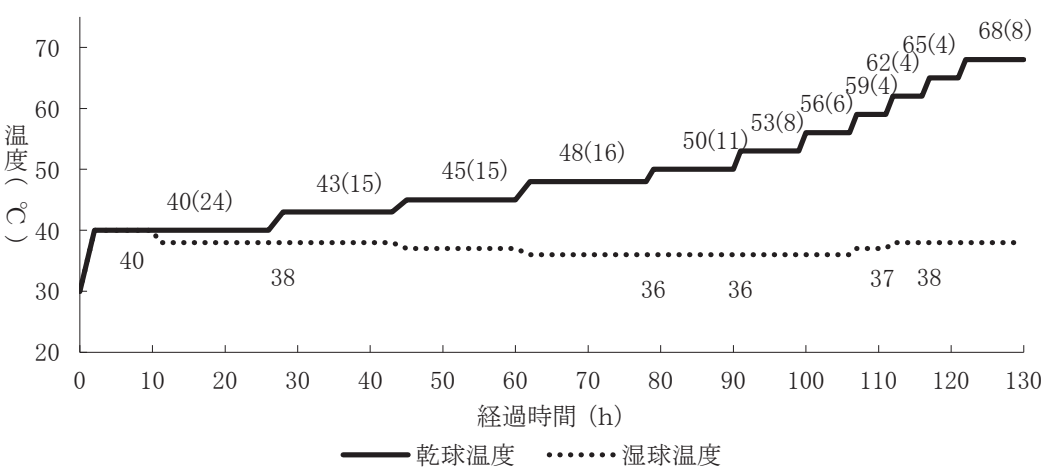
(2)使用吊具 針ラック

5) 温湿度操作条件(プログラム)

(1)中葉 1、2区共通 ※カッコ内の数値は工程時間(但し、昇降温時間は含まない)



(2)本葉 1、2区共通 ※カッコ内の数値は工程時間(但し、昇降温時間は含まない)



6 試験成績

1) 乾燥機使用実績

葉分	区別	吊込 月日	生葉吊上量			乾葉 歩留	乾燥 時間	燃料 消費量	電力 消費量
			1連重 kg/連	連数	重量 kg				
中葉	1区	6月4日	16.8	50	842	10.3	120	126.9	140.5
	2区	6月6日	16.8	50	840	10.3	120	114.7	124.6
本葉	1区	7月18日	22.0	50	1101	16.8	130	120.1	150.7
	2区	7月19日	21.8	50	1089	18.1	130	109.0	134.3

2) 温湿度経過

(1)乾湿球温度の測定位置

各段の中央部分で、下段は葉先位置、上段は葉元上部の空間、および外気の3か所。

(2)中葉

1区(測定月日:6/5～6/10):別紙1

2区(測定月日:6/7～6/12):別紙2

(3)本葉

1区(測定月日:7/18～7/23):別紙3

2区(測定月日:7/19～7/24):別紙4

3) 乾燥期間

葉分	区別	黄変期		色沢固定期		中骨乾燥期		合計 時間
		温度ステージ	時間	温度ステージ	時間	温度ステージ	時間	
中葉	1区	開始～43℃	41h	45～50℃	41h	53～68℃	38h	120h
	2区	開始～43℃	41h	45～50℃	41h	53～68℃	38h	120h
本葉	1区	開始～43℃	43h	45～50℃	47h	53～68℃	40h	130h
	2区	開始～43℃	43h	45～50℃	47h	53～68℃	40h	130h

4) 乾葉の外観性状

葉分	区別	外 観 性 状
中葉	1区	熟不(疑似熟れ)、青くすみ、葉元薄肉もろめ
	2区	熟不(疑似熟れ)、青くすみ、葉元薄肉もろめ
本葉	1区	日焼け消耗
	2区	日焼け消耗

5) その他

(1)乾燥経過

・乾燥経過については、1区2区ともに中葉・本葉の上・下段とも温度推移は同等であり、両区の差はなかった。

(2)操作性, その他

・1区と同様、操作性に違いは認められなかった。

7 結果の要約

1) 中葉の乾燥は、対照区と比較し燃料消費量は12.3リットル少なく(90.4%)、電力消費量は15.9kwh少なかった(88.7%)。

本葉の乾燥は、対照区と比較し燃料消費量は11.1リットル少なく(90.8%)、電力消費量は16.4kwh少なかった(89.1%)。

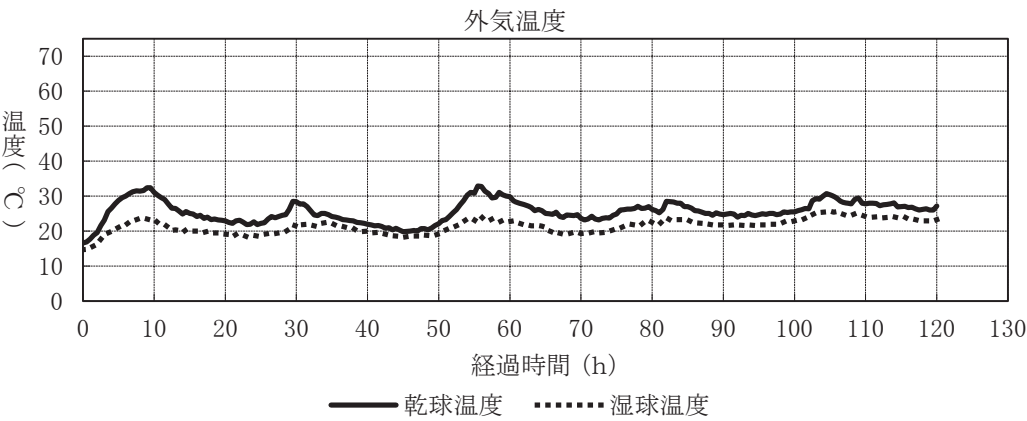
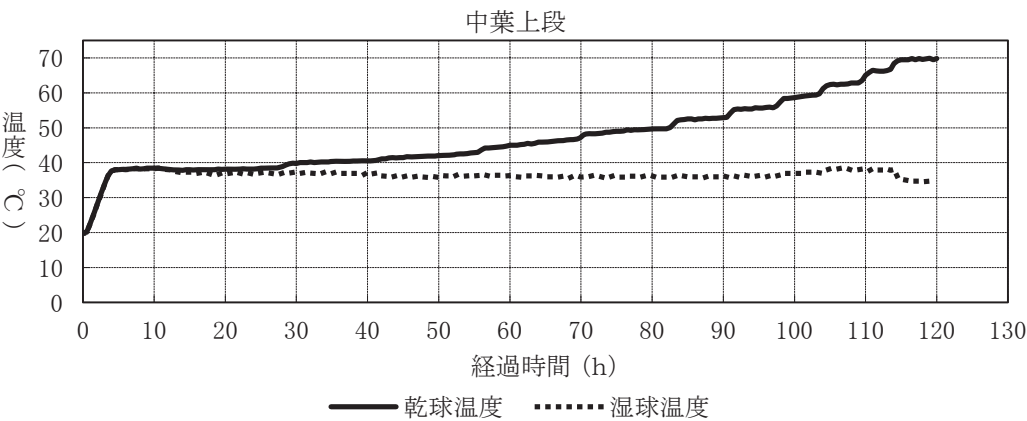
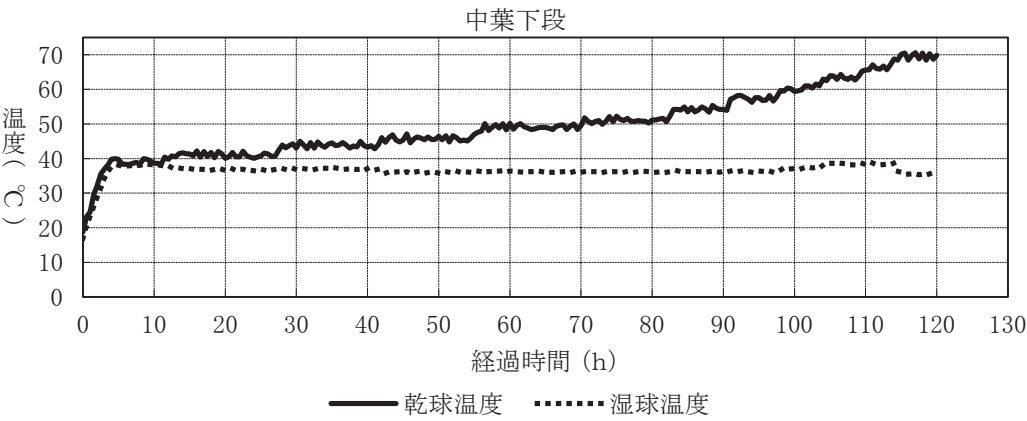
2) 乾葉の外観性状では、中葉は熟度、色沢ともに同等であった。

本葉は1区2区ともに日焼け消耗傾向であったが、これは作柄に起因するもので、乾燥に起因するものではないと判断した。

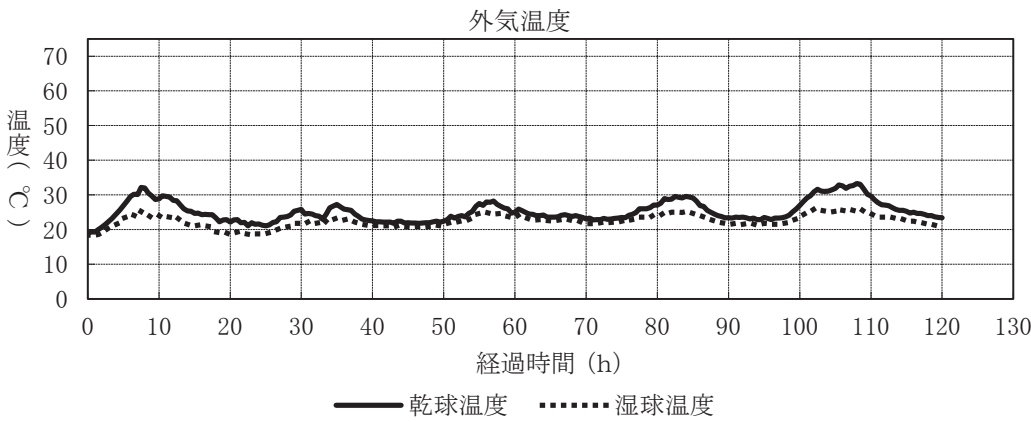
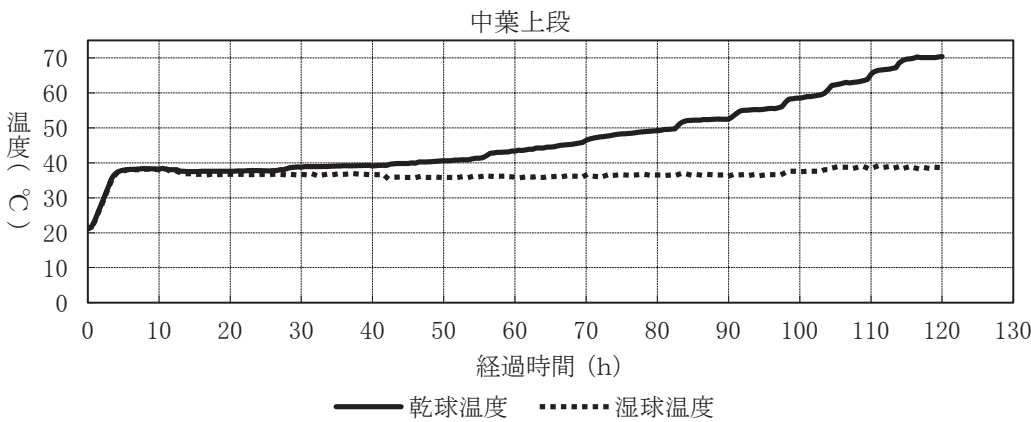
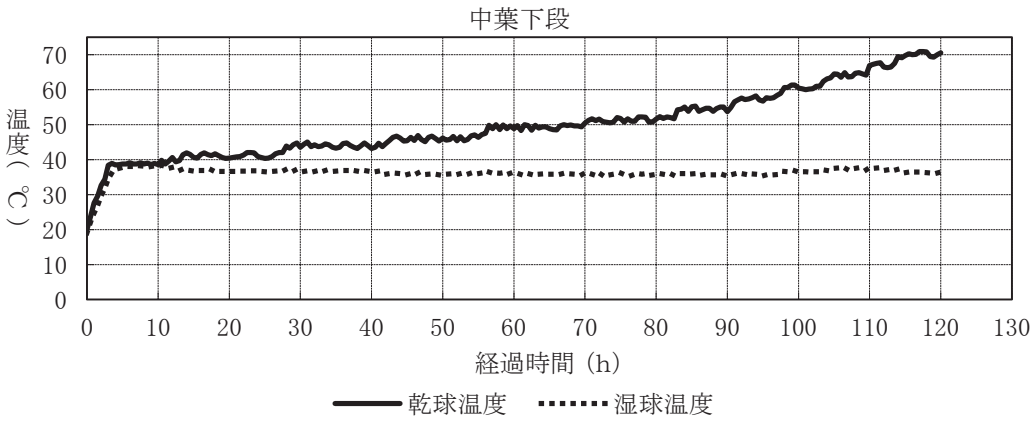
乾燥による葉たばこ品質への影響はなかった。

3) 操作性、動作に問題はなかった。

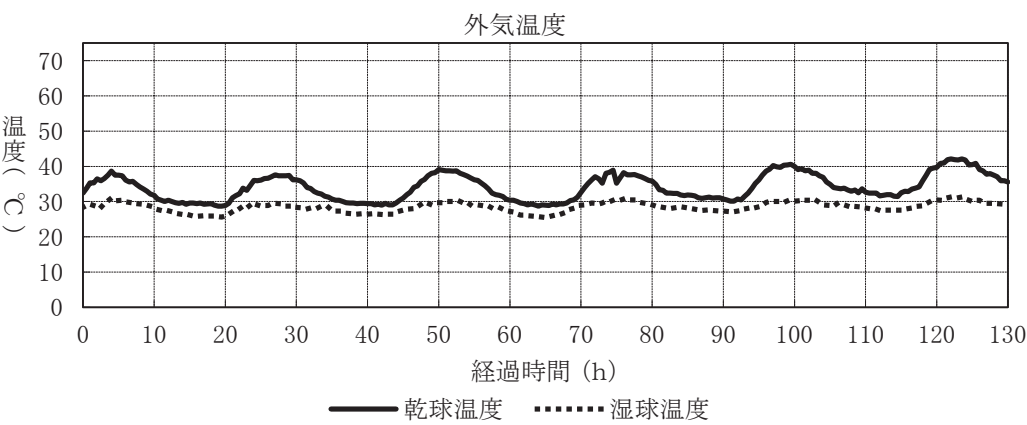
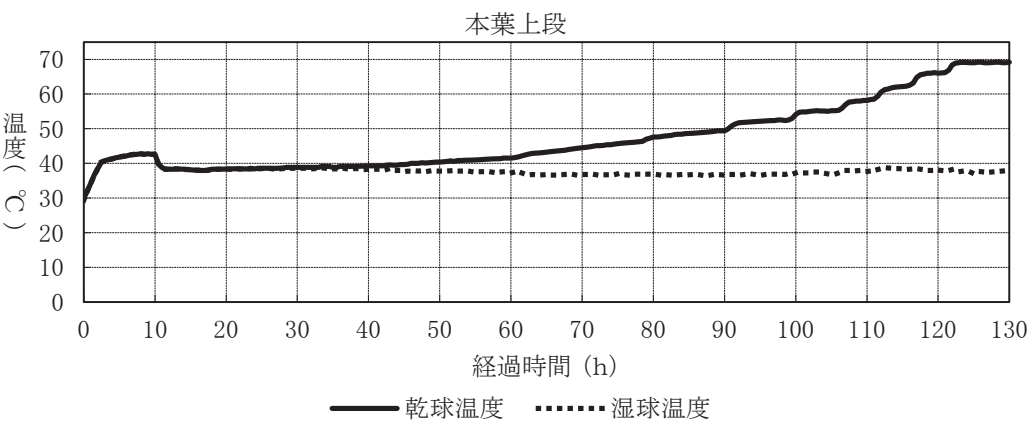
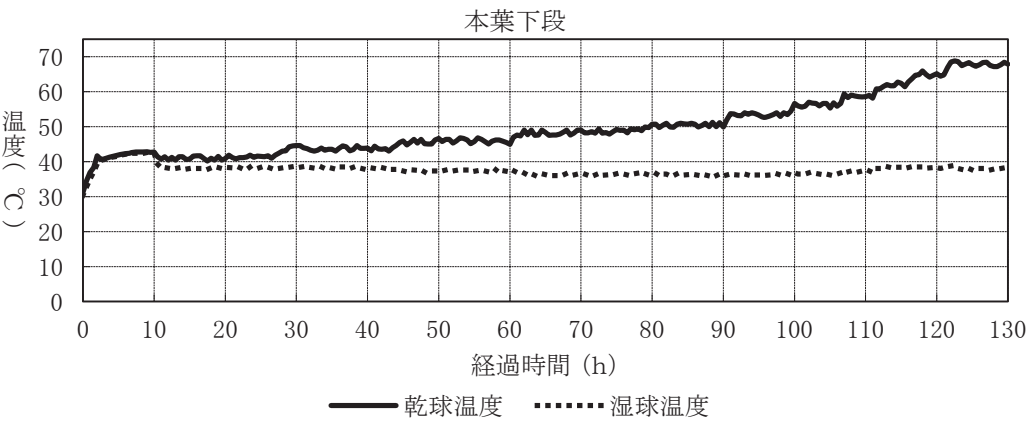
別紙1 温湿度経過:中葉1区(測定月日:6/5~6/10)



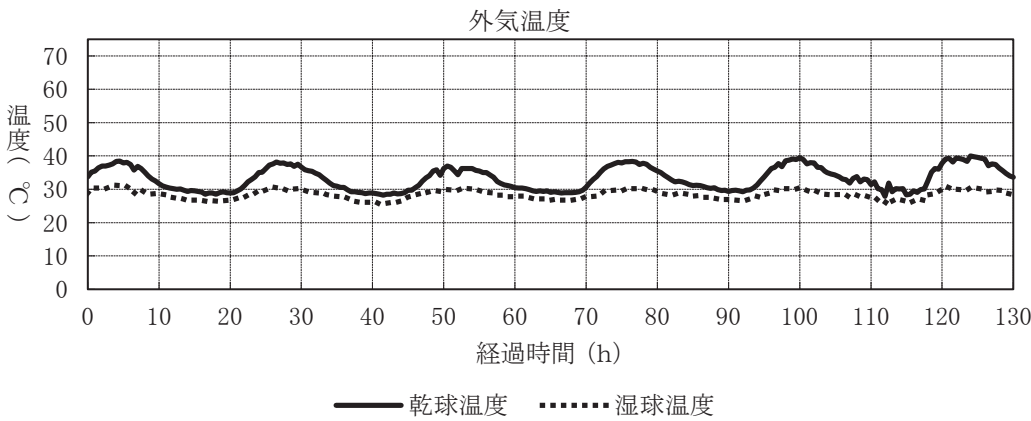
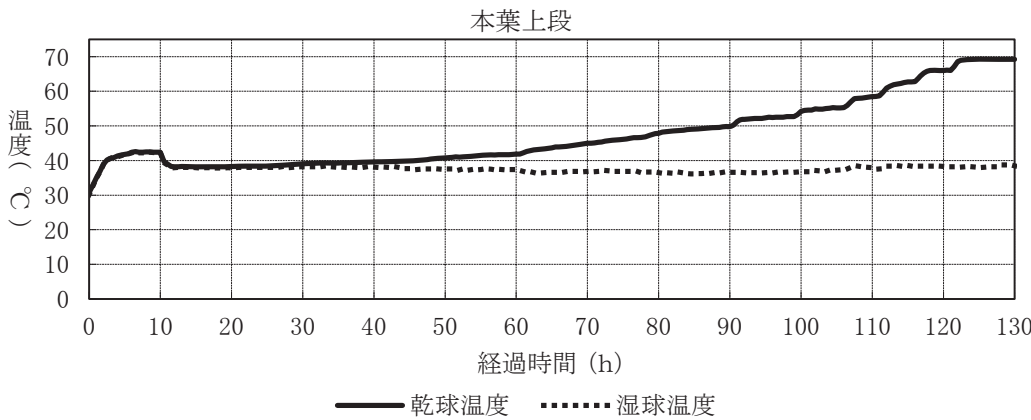
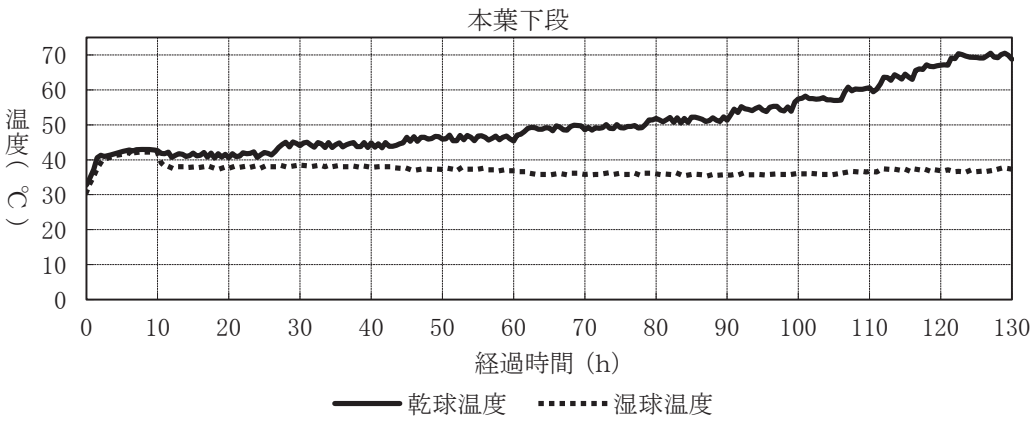
別紙2 温湿度経過:中葉2区(測定月日:6/7~6/12)



別紙3 温湿度経過:本葉1区(測定月日:7/18~7/23)



別紙4 温湿度経過:本葉2区(測定月日:7/19~7/24)



- 1 試験対象名 乾燥効果
- 2 供試器材名 熱回収型キャビネットバルク乾燥機(株式会社木原製作所)
型式 CAB-E-123-2-P-K
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:小暮 謙仁)
- 4 試験実施場所 熊本県山鹿市鹿央町千田1902-1 小田陽介氏
- 5 試験方法
- 1) 供試品種 第1黄色種 F80
- 2) 試験区別
- 1区 対照(慣行) キャビネットバルク乾燥機 2段吊り 8.3㎡
型式:CAB-CT-123-8.3-2-P
- 2区 試験 熱回収型キャビネットバルク乾燥機 2段吊り 8.3㎡
型式:CAB-E-123-2-P-K
- 3) 試験回数 中葉・本葉 各1回

4) 吊込葉の状況

(1)吊込葉の性状

葉 分 (収穫回期)	区分	収穫	心止後 日 数	熟度			葉長	葉幅	葉色
				未熟	適熟	過熟			
中 葉 (2回期)	1区	月日 6月3日	日 22	% 27(4)	% 59(3.5)	% 14(3)	cm 69.4	cm 33.2	3.6
	2区	6月4日	23	21(4)	63(3.5)	16(3)	67.3	32.6	3.5
本 葉 (総かぎ)	1区	7月22日	69	10(5)	85(4)	5(2.5)	71.0	25.7	4.0
	2区	7月21日	70	5(5)	87(4)	9(2.5)	70.7	24.8	3.9

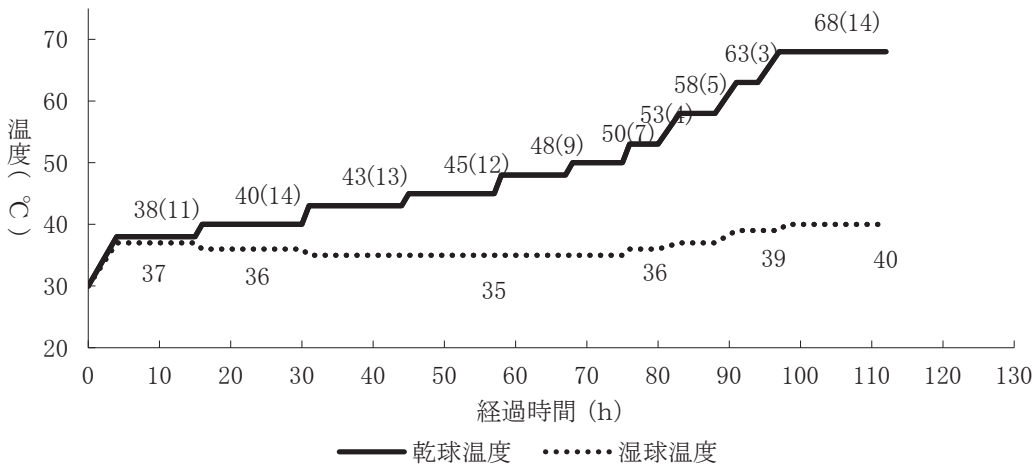
注1)熟度欄のカッコ内は、基準としたカールスケール値を示す。

注2)葉色はカールスケール値。

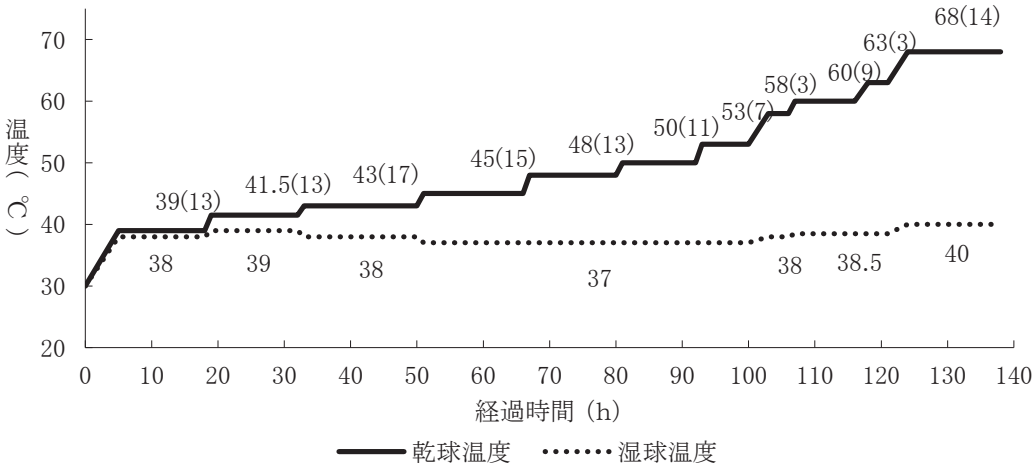
- (2)使用吊具 針ラック

5) 温湿度操作条件(プログラム)

(1)中葉 1、2区共通 ※カッコ内の数値は工程時間(但し、昇降温時間は含まない)



(2)本葉 1、2区共通 ※カッコ内の数値は工程時間(但し、昇降温時間は含まない)



6 試験成績

1) 乾燥機使用実績

葉分	区別	吊込 月日	生葉吊込量			乾葉 歩留	乾燥 時間	燃料 消費量	電力 消費量
			1連重 kg/連	連数	重量 kg				
中葉	1区	6月4日	21.6	40	864	9.6	112	110.1	115.8
	2区	6月5日	21.8	40	872	10.2	112	116.7	108.4
本葉	1区	7月23日	24.8	40	992	19.8	138	98.7	140.2
	2区	7月22日	24.6	40	984	19.5	138	87.6	129.0

2) 温湿度経過

(1) 乾湿球温度の測定位置

各段の中央部分で、下段は葉先位置、上段は葉元上部の空間、および外気の3か所。

(2) 中葉

1区(測定月日:6/4～6/9):別紙1

2区(測定月日:6/5～6/10):別紙2

(3) 本葉

1区(測定月日:7/23～7/29):別紙3

2区(測定月日:7/22～7/28):別紙4

3) 乾燥期間

葉分	区別	黄変期		色沢固定期		中骨乾燥期		合計 時間
		温度ステージ	時間	温度ステージ	時間	温度ステージ	時間	
中葉	1区	開始～45℃	57h	45～53℃	23h	58～68℃	32h	112h
	2区	開始～45℃	57h	45～53℃	23h	58～68℃	32h	112h
本葉	1区	開始～45℃	66h	45～53℃	34h	53～68℃	38h	138h
	2区	開始～45℃	66h	45～53℃	34h	53～68℃	38h	138h

4) 乾葉の外観性状

葉分	区別	外 観 性 状
中葉	1区	熟度不足(疑似熟れ)、色沢中庸、葉元薄肉もろめ
	2区	熟度不足(疑似熟れ)、色沢中庸、葉元薄肉もろめ
本葉	1区	充実不足
	2区	熟度不足、青くすみ、組織中庸

5) その他

(1) 乾燥経過

- ・中葉での試験では、1区、2区ともに上・下段の温度推移は同等であり、両区の差はなかった。
- ・本葉での試験では、乾球温度は1区2区ともに上・下段の温度推移は同等であり、両区の差はなかったが、2区の湿球温度において、上下段ともデータロガーの設置不備による温度推移に差異が見られた。しかし、乾燥機本体の運転への影響はなかった。

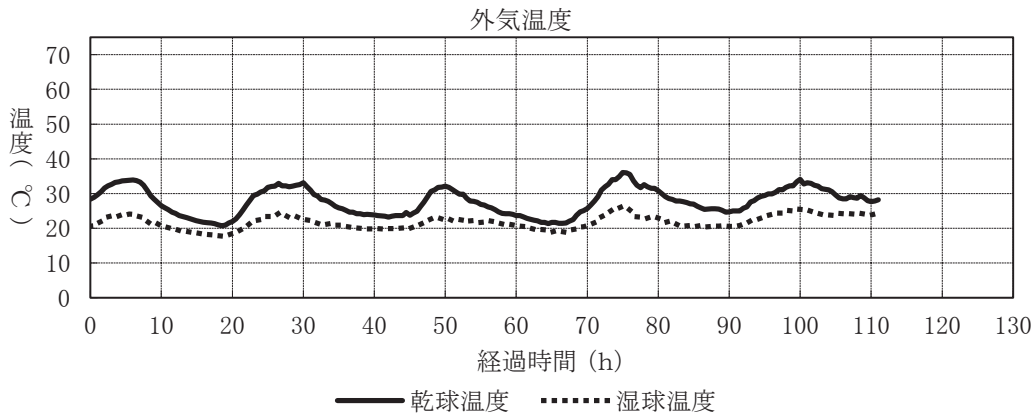
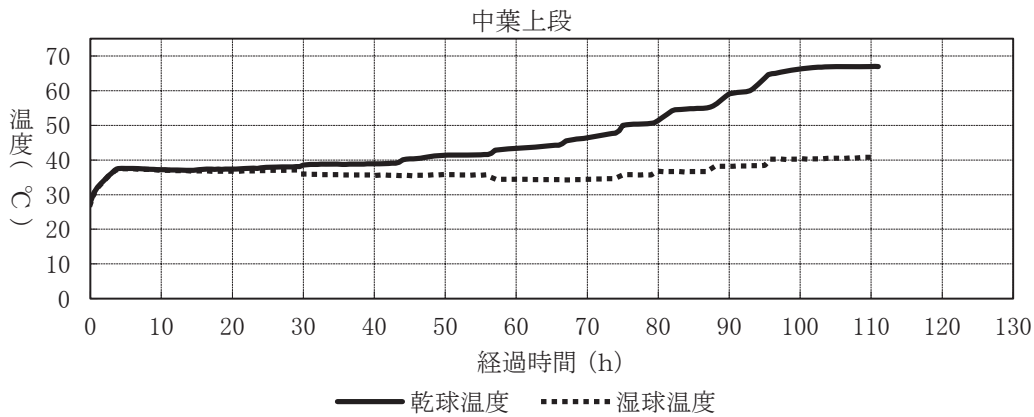
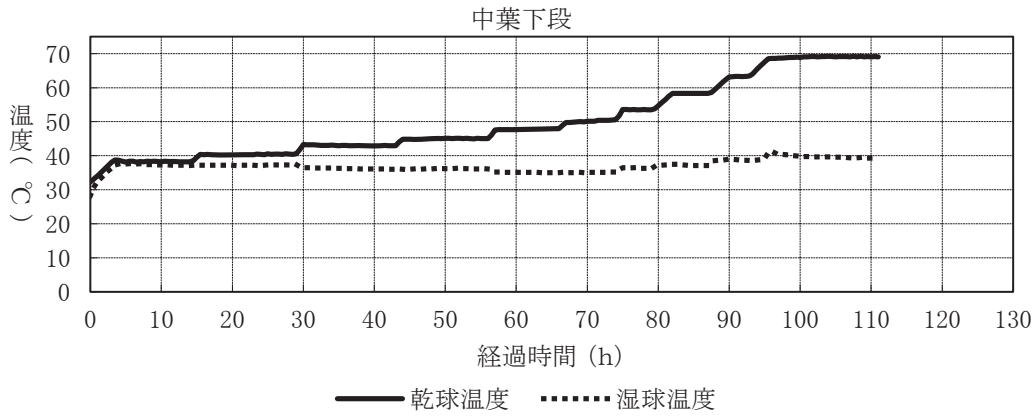
(2) 操作性, その他

- ・1区と同様、操作性に違いは認められなかった。

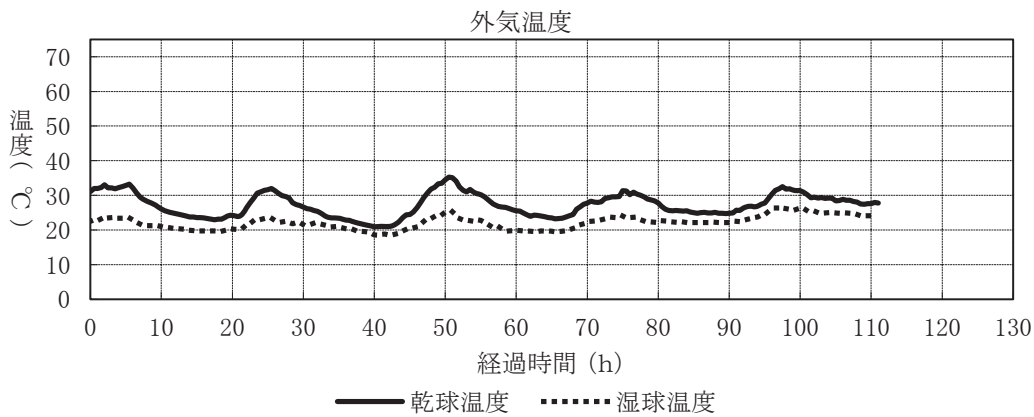
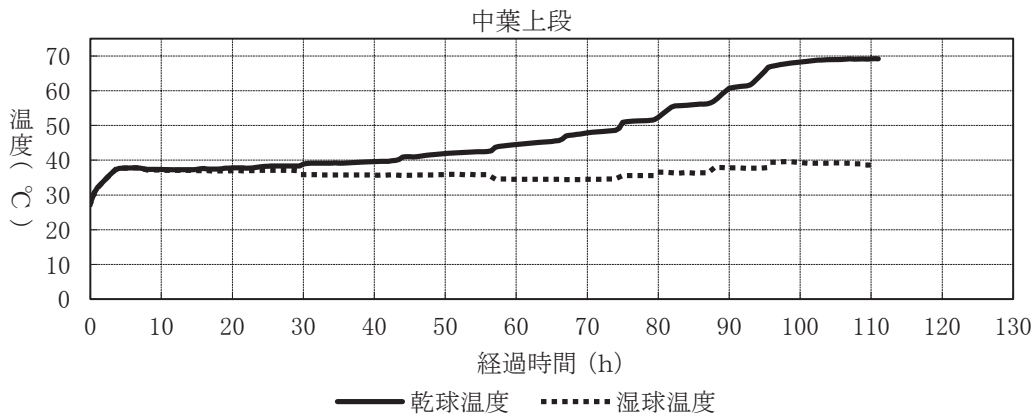
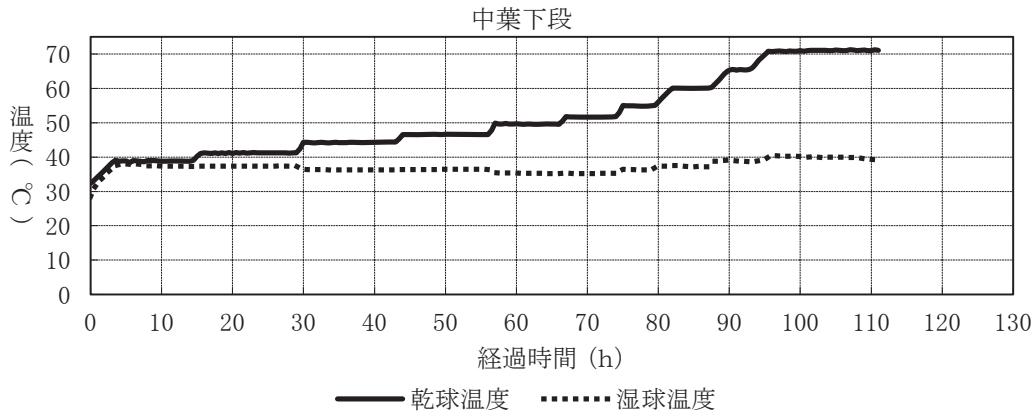
7 結果の要約

- 1) 中葉の乾燥は、対照区と比較し燃料消費量は6.6リットル多く(106.0%)、電力消費量は7.4kwh少なかった(93.6%)。
本葉の乾燥は、対照区と比較し燃料消費量は11.1リットル少なく(88.8%)、電力消費量は11.2kwh少なかった(92.0%)。
- 2) 乾葉の外観性状では、中葉は熟度、色沢ともに同等であった。
本葉は1区で充実不足、2区で熟度不足、青くすみ、組織中庸であったが、これは作柄に起因するもので、乾燥に起因するものではないと判断した。
乾燥による葉たばこ品質への影響はなかった。
- 3) 操作性、動作に問題はなかった。

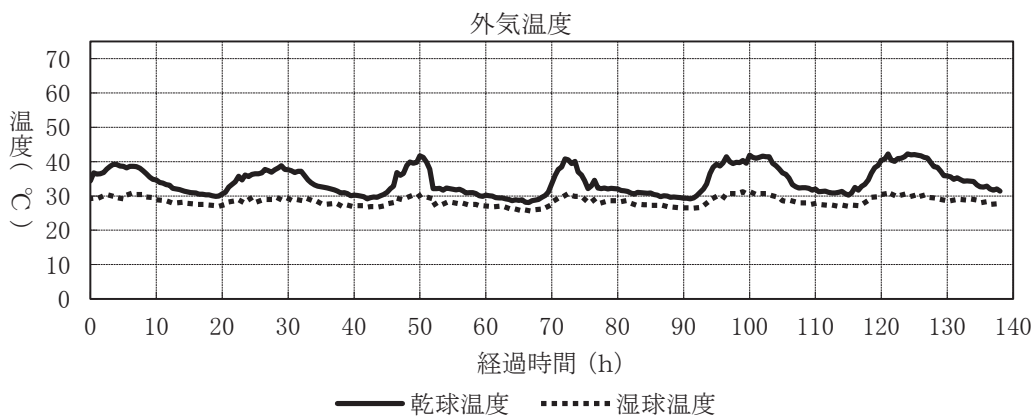
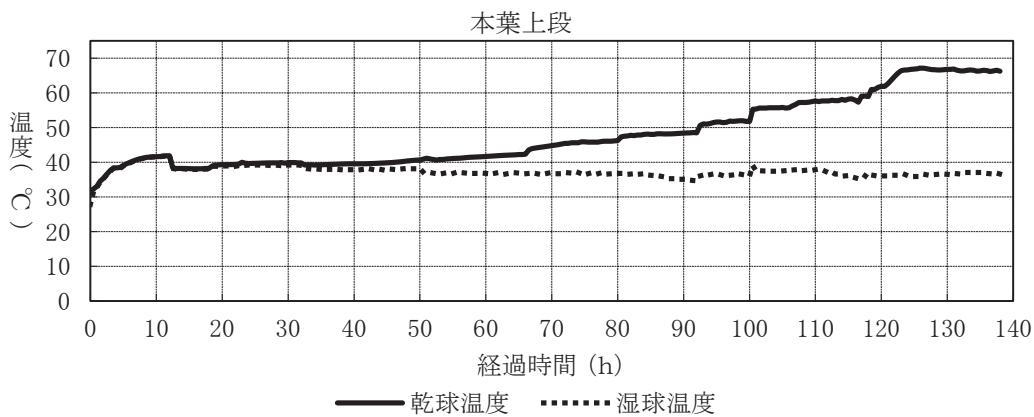
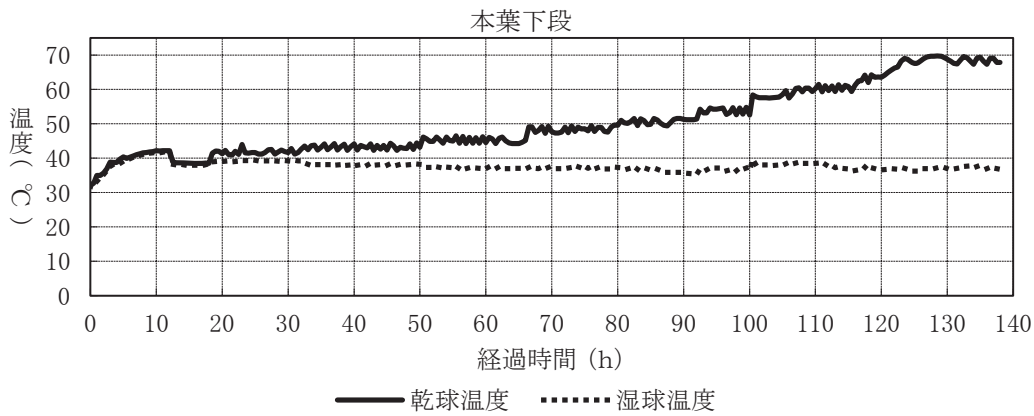
別紙1 温湿度経過:中葉1区(測定月日:6/4~6/9)



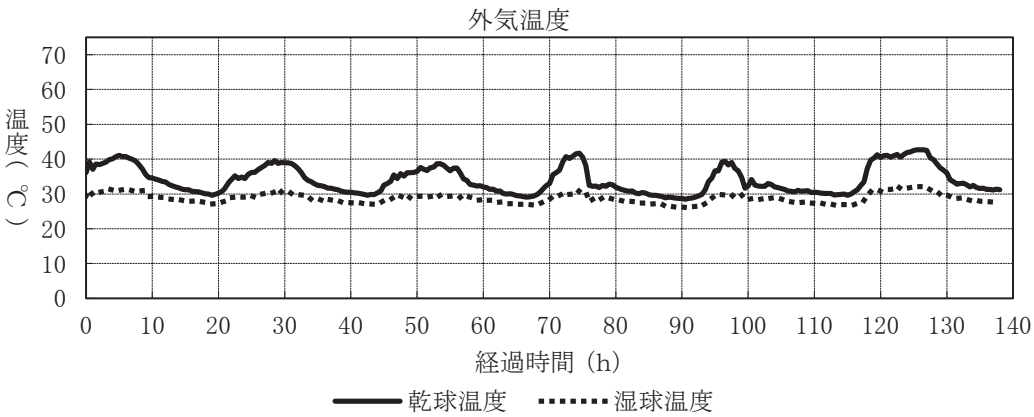
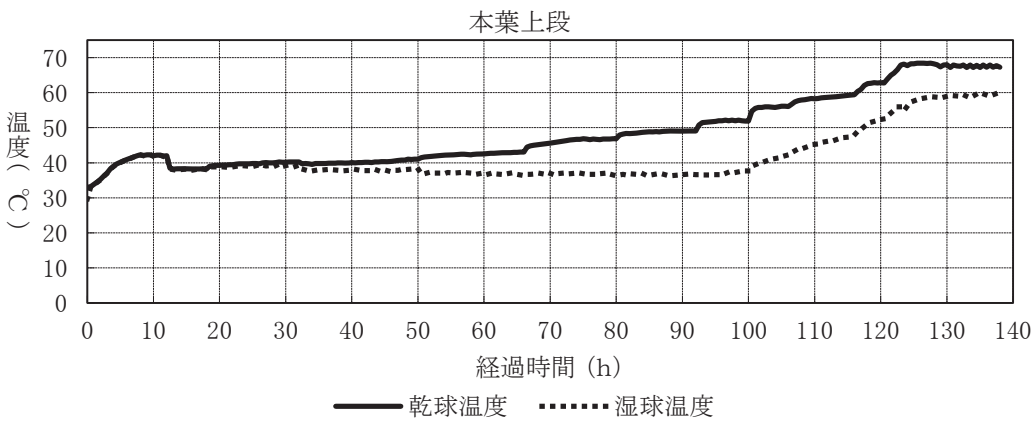
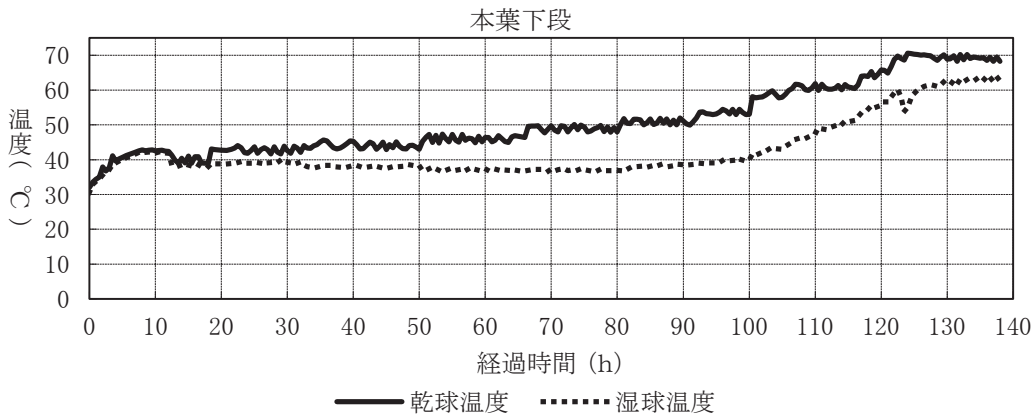
別紙2 温湿度経過:中葉2区(測定月日:6/5~6/10)



別紙3 温湿度経過:本葉1区(測定月日:7/23~7/29)



別紙4 温湿度経過:本葉2区(測定月日:7/22~7/28)



- 1 試験対象名 乾燥効果
- 2 供試器材名 フルタ循環バルク型乾燥機(フルタ電機株式会社)
型式 FRBC-20-K
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:小島 慎之介)
- 4 試験実施場所 沖縄県宮古島市上野野原1190-204 上野村葉たばこ施設組合

5 試験方法

1) 供試品種 第2黄色種 NS1

2) 試験区別

- 1区 対照(慣行) フルタ循環バルク型乾燥機 2段吊り 19.8㎡
型式 FC19-280-19.8-P
- 2区 試験 フルタ循環バルク型乾燥機 2段吊り 19.8㎡
型式 FRBC-20-K

3) 試験回数 中葉・本葉 各1回

4) 吊込葉の状況

(1)吊込葉の性状

葉分 (収穫回期)	区分	収穫	心止後 日数	熟度			葉長	葉幅	葉色
				未熟	適熟	過熟			
中葉 (2回期)	1区	月日	日	%	%	%	cm	cm	
	2区	4月7日	14	22(5.5)	68(4.5)	5(2.5)	54.8	27.8	4.7
本葉 (総かぎ)	1区	5月20日	57	22(4.0)	66(3.5)	12(2.5)	73.6	26.3	3.4
	2区	5月20日	57	20(4.0)	72(3.5)	8(2.5)	72.4	23.6	3.4

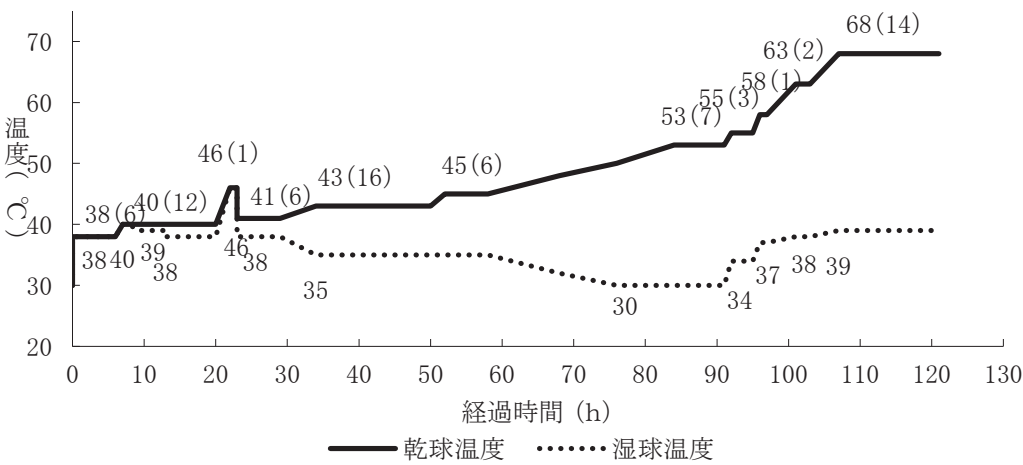
注1) 熟度欄のカッコ内は、基準としたカラースケール値を示す。

注2) 葉色はカラースケール値。

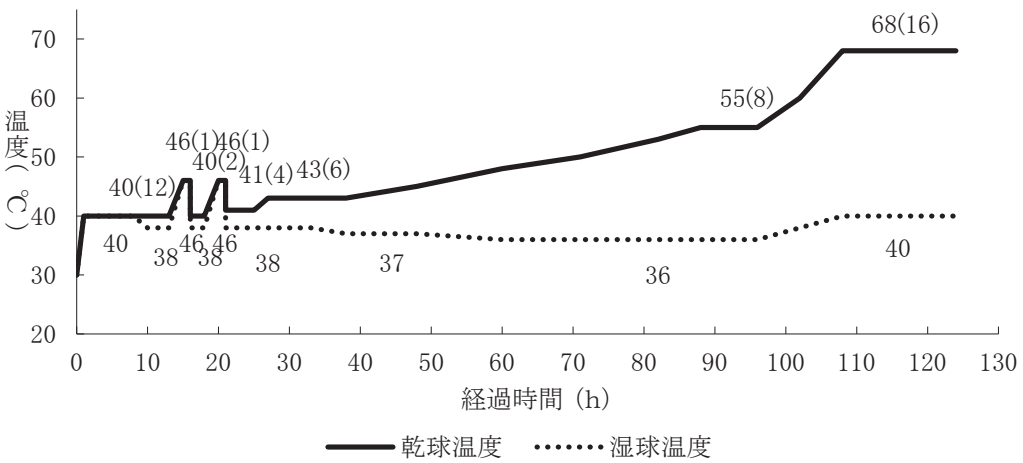
(2)使用吊具 針ラック

5) 温湿度操作条件(プログラム)

(1)中葉 1、2区共通 ※カッコ内の数値は工程時間(但し、昇降温時間は含まない)



(2)本葉 1、2区共通 ※カッコ内の数値は工程時間(但し、昇降温時間は含まない)



6 試験成績

1) 乾燥機使用実績

葉分	区別	吊込 月日	生葉吊込量			乾葉 歩留	乾燥 時間	燃料 消費量	電力 消費量
			1連重	連数	重量				
中葉	1区	4月8日	22.9	96	2202	9.8	121	351.2	288.5
	2区	4月8日	21.1	96	2024	10.2	121	296.3	273.2
本葉	1区	5月21日	24.4	96	2340	20.2	124	264.6	355.5
	2区	5月21日	25.5	96	2444	20.4	124	254.9	334.7

2) 温湿度経過

(1)乾湿球温度の測定位置

各段の中央部分で、下段は葉先位置、上段は葉元上部の空間、および外気の3か所。

(2)中葉(測定月日:4/8～4/13)

1区:別紙1 2区:別紙2

(3)本葉(測定月日:5/21～5/26)

1区:別紙3 2区:別紙4

3) 乾燥期間

葉分	区別	黄変期		色沢固定期		中骨乾燥期		合計 時間
		温度ステージ	時間	温度ステージ	時間	温度ステージ	時間	
中葉	1区	開始～43℃	50h	43～50℃	26h	50～68℃	45h	121h
	2区	開始～43℃	50h	43～50℃	26h	50～68℃	45h	121h
本葉	1区	開始～45℃	48h	45～53℃	34h	53～68℃	42h	124h
	2区	開始～45℃	48h	45～53℃	34h	53～68℃	42h	124h

4) 乾葉の外観性状

葉分	区別	外 観 性 状
中葉	1区	熟度、色沢ともに中庸、組織やや葉元もろめ、一部合葉混じり
	2区	熟度、色沢ともに中庸、組織やや葉元もろめ、一部合葉混じり
本葉	1区	熟度不足、青くすみ、組織中庸、やや葉伸び
	2区	熟度不足、青くすみ、組織中庸

5) その他

(1)乾燥経過

・乾燥経過については、1区2区ともに中葉・本葉の上・下段とも温度推移は同等であり、両区の差はなかった。

(2)操作性, その他

・1区と同様、操作性に違いは認められなかった。

7 結果の要約

1) 中葉の乾燥は、対照区と比較し燃料消費量は54.9リットル少なく(84.4%)、電力消費量は15.3kwh少なかった(94.7%)。

2) 本葉の乾燥は、対照区と比較し燃料消費量は9.8リットル少なく(96.3%)、電力消費量は20.8kwh少なかった(94.1%)。

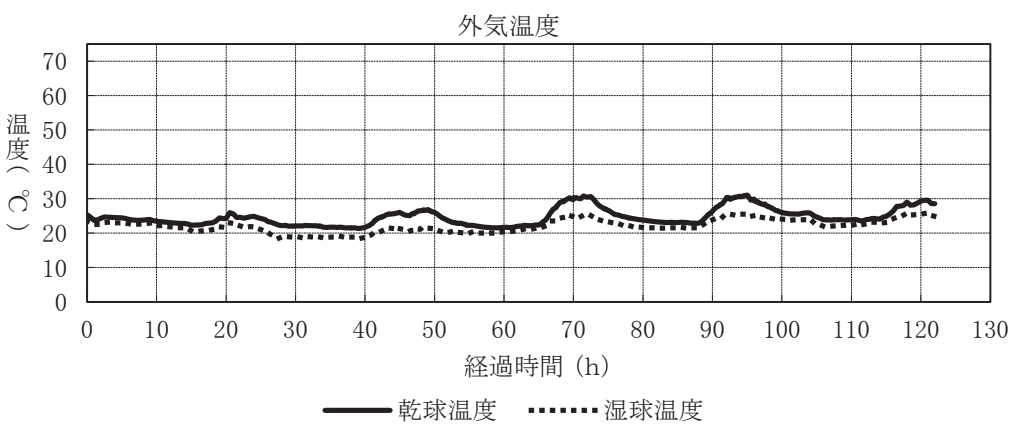
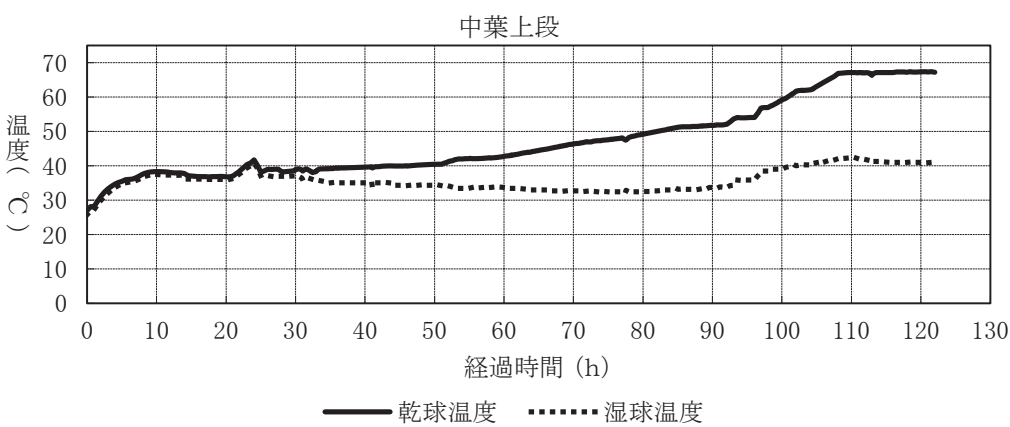
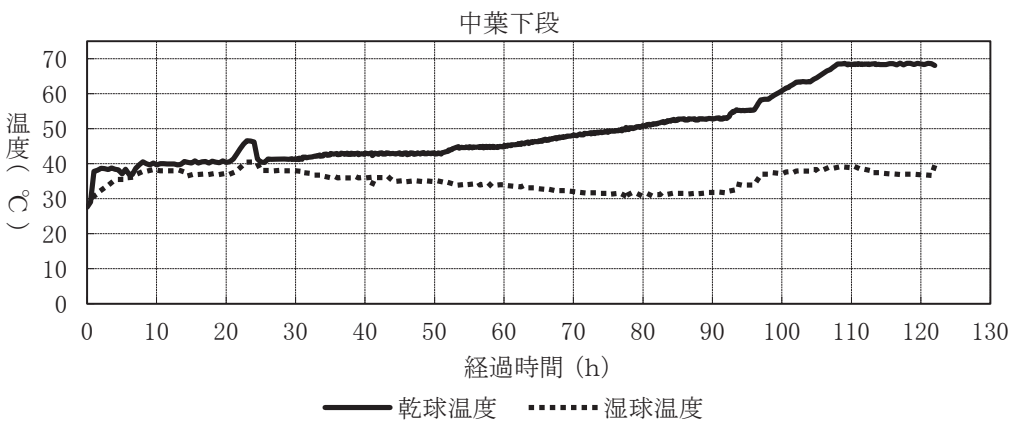
3) 乾葉の外観性状では、中葉は熟度、色沢ともに同等であった。

本葉は熟度、色沢ともに同等であり、1区の方がやや伸び傾向だったが、これは作柄に起因するもので、乾燥に起因するものでないと判断した。

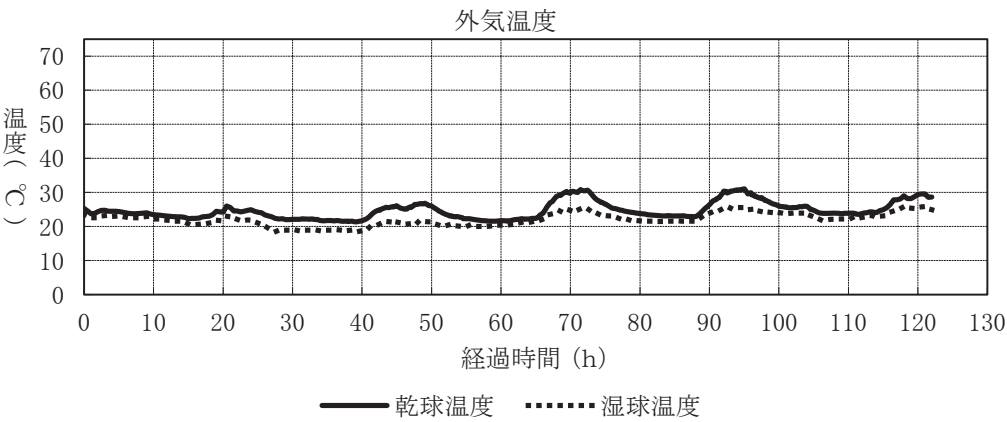
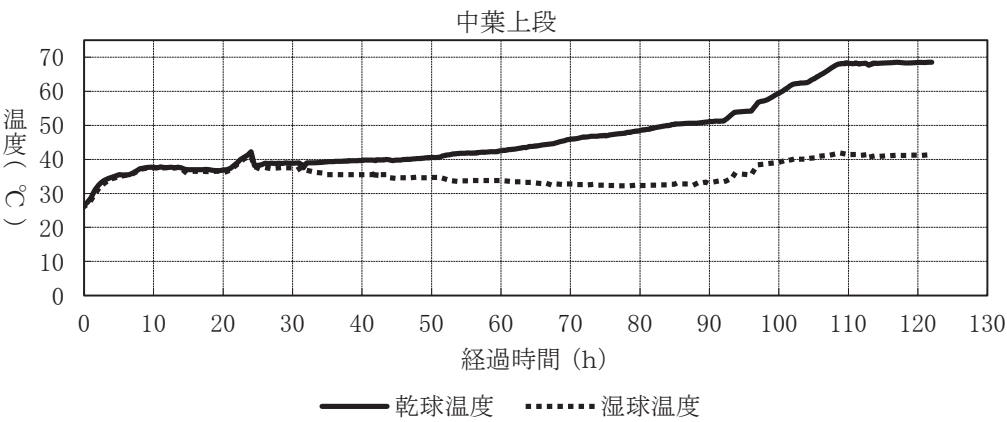
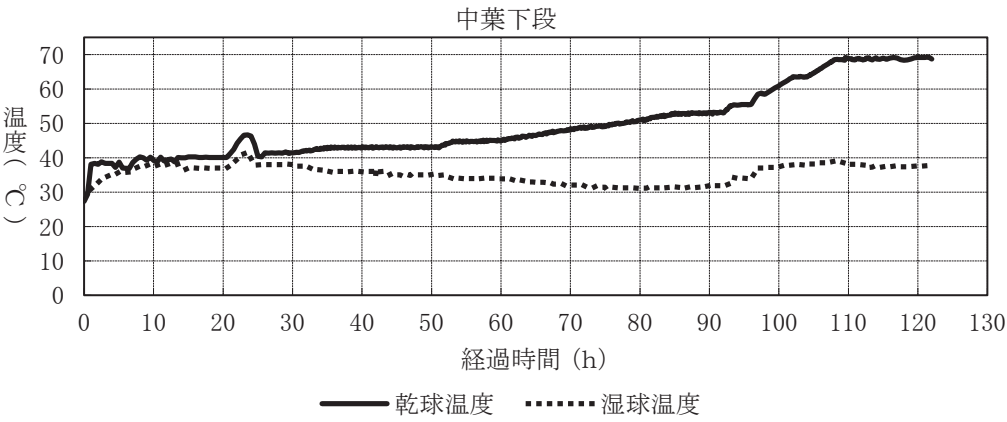
乾燥による葉たばこ品質への影響はなかった。

4) 操作性、動作に問題はなかった。

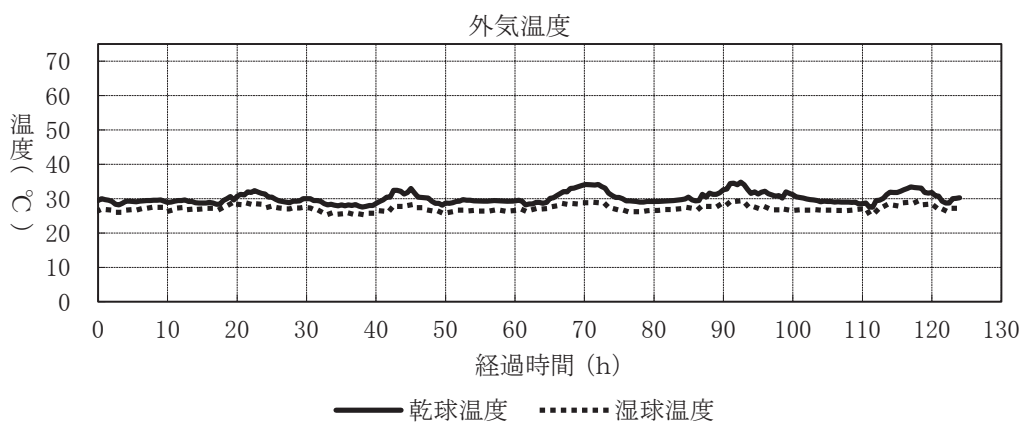
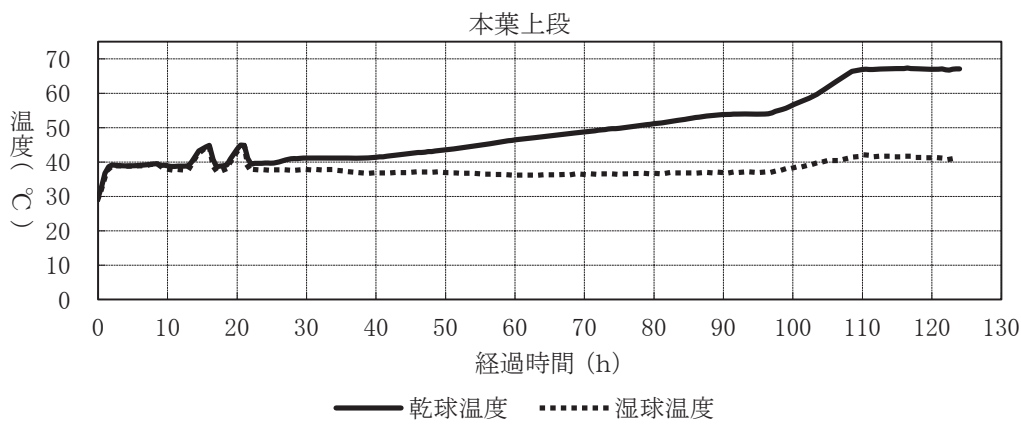
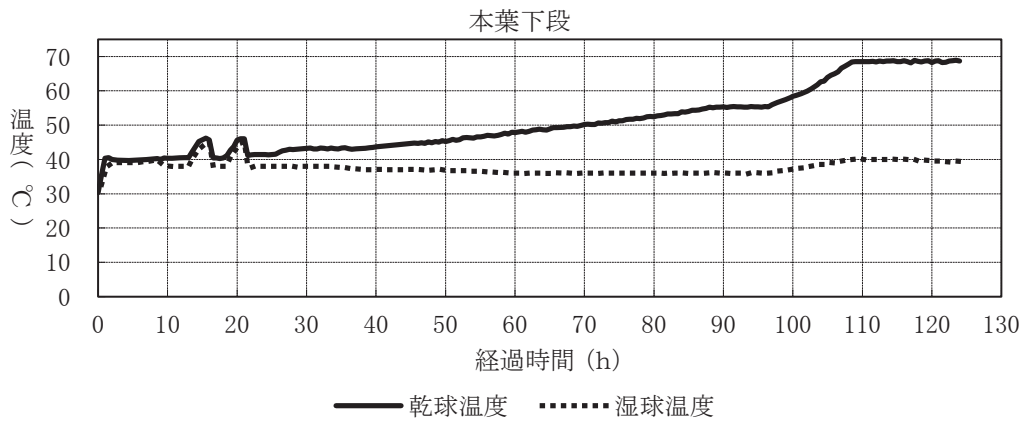
別紙1 温湿度経過:中葉1区



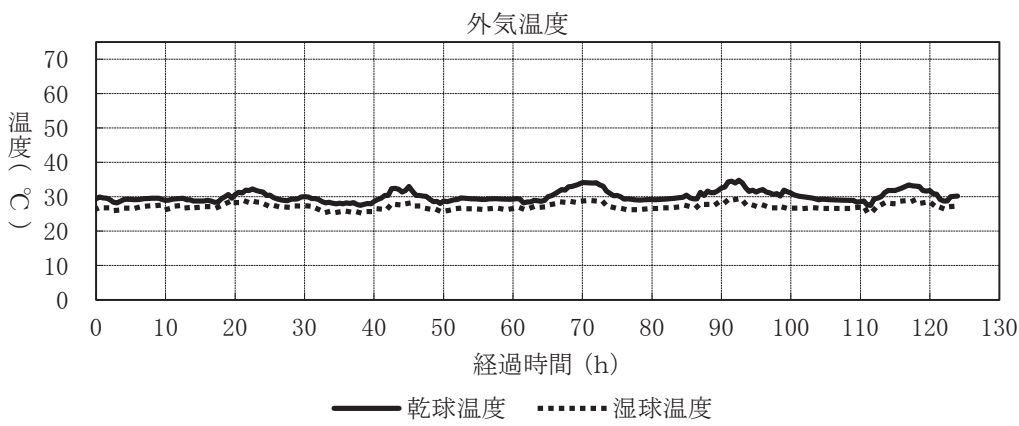
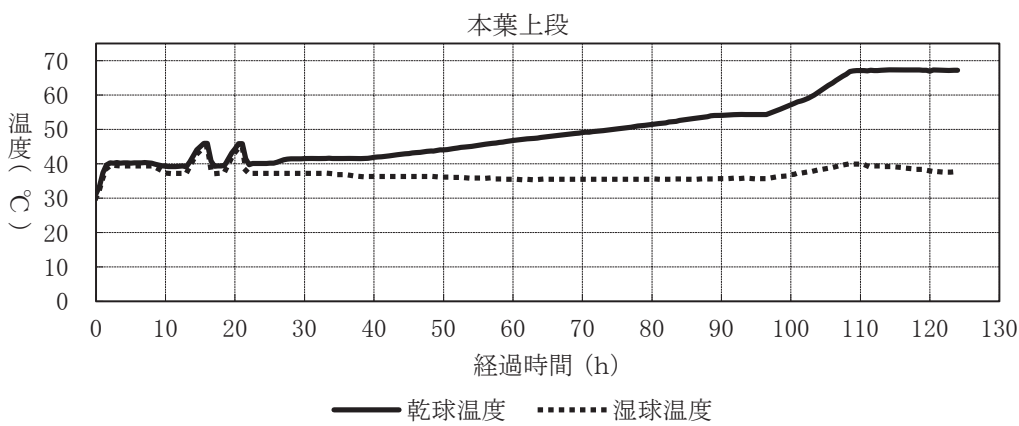
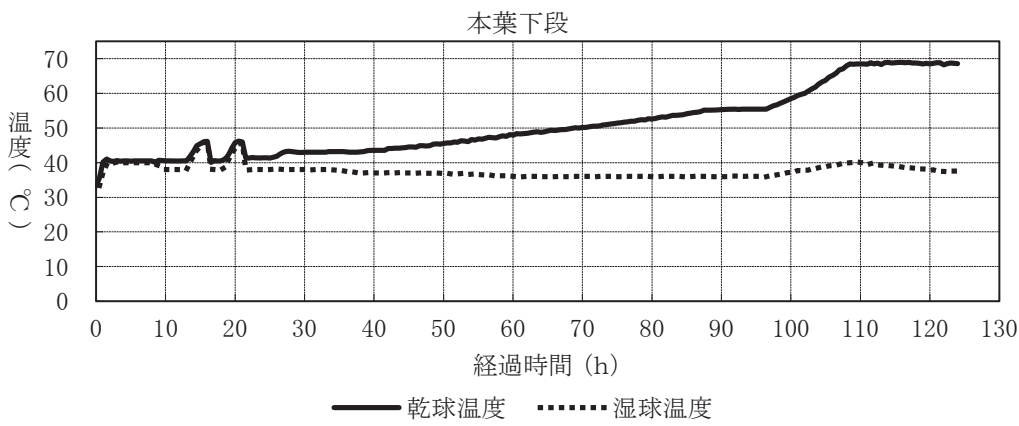
別紙2 温湿度経過:中葉2区



別紙3 温湿度経過:本葉1区



別紙4 温湿度経過:本葉2区



第56号 付録の部

(その1) 理由書により2025年度試験を実施しないことに決定したもの

(その2) 2024年度に試験した機械の仕様および図面

(その3) 農薬試験成績書審査(2024年9月～2025年2月)

(その4) 変更申請の承認を受けた資器材(2024年4月～2025年3月)

第56号 付録の部(その1)

理由書により2025年度試験を実施しないことに決定したもの

苗床・乾燥資材

コーティング5+1 〈タキロンシーアイ(株)〉	33
スカイコート 〈タキロンシーアイ(株)〉	35

第56号 付録の部(その2)

2024年度に試験した機械の仕様および図面

乾燥機

熱回収型コンテナバルク乾燥機（機械室部分）	38
CVD-ES-125-K-MC 〈三州産業(株)〉	
熱回収型キャビネットバルク乾燥機（機械室部分）	40
CAB-E-123-2-P-K 〈(株)木原製作所〉	
フルタ循環バルク乾燥機（機械室部分）	42
FRBC-20-K 〈フルタ電機(株)〉	

第56号 付録の部(その3)

農薬試験成績書審査

殺虫剤

トアロー水和剤CT 〈OATアグリオ(株)〉	44
ビーラム粒剤 〈バイエルクロップサイエンス(株)〉	51
ベリマークSC 〈エフエムシー・ケミカルズ(株)〉	73
ロムダンフロアブル 〈日本曹達(株)〉	86
ブロフレアSC 〈三井化学クロップ&ライフソリューション(株)〉	104

第56号 付録の部(その4)

変更申請の承認を受けた資器材

乾燥機

大型熱回収型コンテナバルク乾燥機(機械室部分) 〈三州産業(株)〉	114
熱回収型コンテナバルク乾燥機 〈三州産業(株)〉	120
大型熱回収型コンテナバルク乾燥機 〈三州産業(株)〉	126
バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤) 〈(株)木原製作所〉	133
バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤) 〈三州産業(株)〉	137

理由書

資 材 名	コーティング5+1
試験対象	乾燥効果
処理年月日	2024年12月5日
試験を受託しない理由	本資材の乾燥効果ならびに育苗資材として、他作物の施用例や過去知見などの技術説明書等からたばこ耕作への作業上の問題はなく、葉たばこ品質への明らかな悪影響を及ぼす懸念がないと判断できるため、試験の必要はない。 よって、使用可である。 <div>合 格</div>

たばこ耕作資材試験依頼書

住 所 〒108-6031 東京都港区港南2丁目15番1号

会社名 タキロンシーアイ株式会社

次のとおり試験を依頼いたします。

品 名 (型式等)		コーティング5+1(農業用ポリオレフィンフィルム)
製 造 元 (住所・会社名)		タキロンシーアイ株式会社 東京都港区港南2丁目15番1号
特許または実用新案番号 (申請中を含む)		特に無し
本 機 材 の 特 徴		防滴剤を塗布しており、結露水のボタ落ちを抑えます。 すっきりした透明感がり、光線透過が良好です。 5層構造と特殊樹脂配合により、優れた強度があります。
主な仕様	1)仕様の内容	厚さ:0.075mm 幅:135～1000cm 厚さ:0.1mm 幅:100～1000cm
	2)図面	添付資料(製品図面)
	3)主な特徴	添付資料(製品カタログ、取扱説明書)
既往の 成績	1)タ バ コ	一部の耕作者様でご使用いただいています。
	2)他 作 物	多くの作物で使用いただいている実績がございます。
試 験 依 頼 の 目 的		葉タバコの育苗や乾燥時にご使用されるハウスで、従来のフィルムと同様にご使用いただけるものとして提案いたします。
試験依頼 の内容	本畑・苗床・ポット・ 室内試験の区分 施用量、時期、方 法、回数、濃度等	特に無し
	希望試験地 および規模	特に無し
備 考	・技術説明書(添付資料)の内訳… 製品図面、製品カタログ、取扱説明書、品質証明書	

品質証明書

2024年 6月 19日
タキロンシーアイ株式会社

品 種 : コーティング5+1

サ イ ズ : 0.10mm

上記の商品は、下表の 数値を 満足する事を証明致します。

品 名	コーティング5+1	
寸 法	製品幅 (cm)	呼称幅以上
	製品長さ(m)	呼称長さ以上
性 能	試 験 項 目	初 期 物 性 値
	引張切断強さ ** (N)	8. 0 以 上
	伸 び ** (%)	3 0 0 以 上
	直角形引裂強さ * (N)	5. 0 以 上
	**印は社内試験方法、* 印の試験方法は JIS-K-6732 に準ずる	
その他	<ul style="list-style-type: none">五層構造で破れにくく 強度的に優れています。フィルム内面に防滴剤をコーティング処理してありますので、防滴持続効果が優れています。 <p>※ コート皮膜の損傷により、防滴性能が著しく損なわれますので 取扱いに注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">台風等によりフィルムが傷つき破れることがあります。イオウ系農薬の使用により、著しく性能の低下を引き起こす 恐れがありますので、使用はおひかえください。品質向上を追求し設計・製造品質の小修正は継続して行っ ておりますが、上記性能は常に維持されております。	

以 上

理由書

資 材 名	スカイコート
試験対象	乾燥効果
処理年月日	2024年12月5日
試験を受託しない理由	<p>本資材の乾燥効果ならびに育苗資材として、他作物の施用例や過去知見などの技術説明書等からたばこ耕作への作業上の問題はなく、葉たばこ品質への明らかな悪影響を及ぼす懸念がないと判断できるため、試験の必要はない。よって、使用可である。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">合 格</div>

たばこ耕作資材試験依頼書

住 所 〒108-6031 東京都港区港南2丁目15番1号

会社名 タキロンシーアイ株式会社

次のとおり試験を依頼いたします。

品 名 (型式等)		スカイコート(農業用ポリオレフィンフィルム)
製 造 元 (住所・会社名)		タキロンシーアイ株式会社 東京都港区港南2丁目15番1号
特許または実用新案番号 (申請中を含む)		特に無し
本 機 材 の 特 徴		透明性・防滴性・防霧性・保湿性・強度など、ハウス用フィルムに求められる諸性能において、バランスが取れた農POフィルムです。
主な仕様	1)仕様の内容	厚さ:0.05、0.075、0.1mm 幅:100～1000cm(0.05mmは100～800cm)
	2)図面	添付資料(製品図面)
	3)主な特徴	添付資料(製品カタログ、取扱説明書)
既往の 成績	1)タ バ コ	一部の耕作者様でご使用いただいています。
	2)他 作 物	多くの作物で使用いただいている実績がございます。
試 験 依 頼 の 目 的		葉タバコの育苗や乾燥時にご使用されるハウスで、従来のフィルムと同様にご使用いただけるものとして提案いたします。
試験依頼 の内容	本畑・苗床・ポット・ 室内試験の区分 施用量、時期、方 法、回数、濃度等	特に無し
	希望試験地 および規模	特に無し
備 考	・技術説明書(添付資料)の内訳… 製品図面、製品カタログ、取扱説明書、品質証明書	

品質証明書

2024年 6月 19日
タキロンシーアイ株式会社

品 種 : スカイコート

サ イ ズ : 0. 10mm

上記の商品は、下表の 数値を 満足する事を証明致します。

品 名	スカイコート	
寸 法	製品幅 (cm)	呼称幅以上
	製品長さ (m)	呼称長さ以上
性 能	試 験 項 目	初 期 物 性 値
	引張切断強さ ** (N)	8. 0 以 上
	伸 び ** (%)	3 0 0 以 上
	直角形引裂強さ * (N)	5. 0 以 上
	**印は社内試験方法、* 印の試験方法は JIS-K-6732 に準ずる	
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 台風等によりフィルムが傷つき破れることがあります。・ イオウ系農薬の使用により、著しく性能の低下を引き起こす恐れがありますので、使用はおひかえください。・ 品質向上を追求し設計・製造品質の小修正は継続して行っておりますが、上記性能は常に維持されております。	

以 上

2024/9/6

タキロンシーアイ(株)

製品図面

【スカイコート】

ブランド印字の例

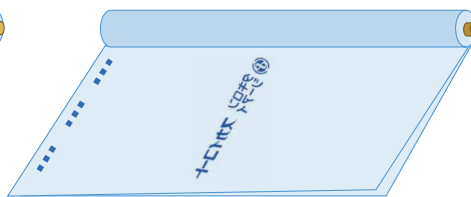
⑤ **タキロン** スカイコート・0.1・MD

文字の正しく読める方がハウスの外側です。 (農PO) <OUTSIDE>
MADE IN JAPAN

フィルム巻き形状の例



(シングル巻き)



(ダブル巻き)

【コーティング5+1】

ブランド印字の例

⑤ **タキロン** コーティング5+1・0.1・IF

(5層)・文字の正しく読める方がハウスの外側です。 (農PO) <OUTSIDE>
MADE IN JAPAN

フィルム巻き形状の例



(シングル巻き)



(ダブル巻き)

※両製品ともフィルムには表裏がありますのでご注意ください。

以上

仕 様 書

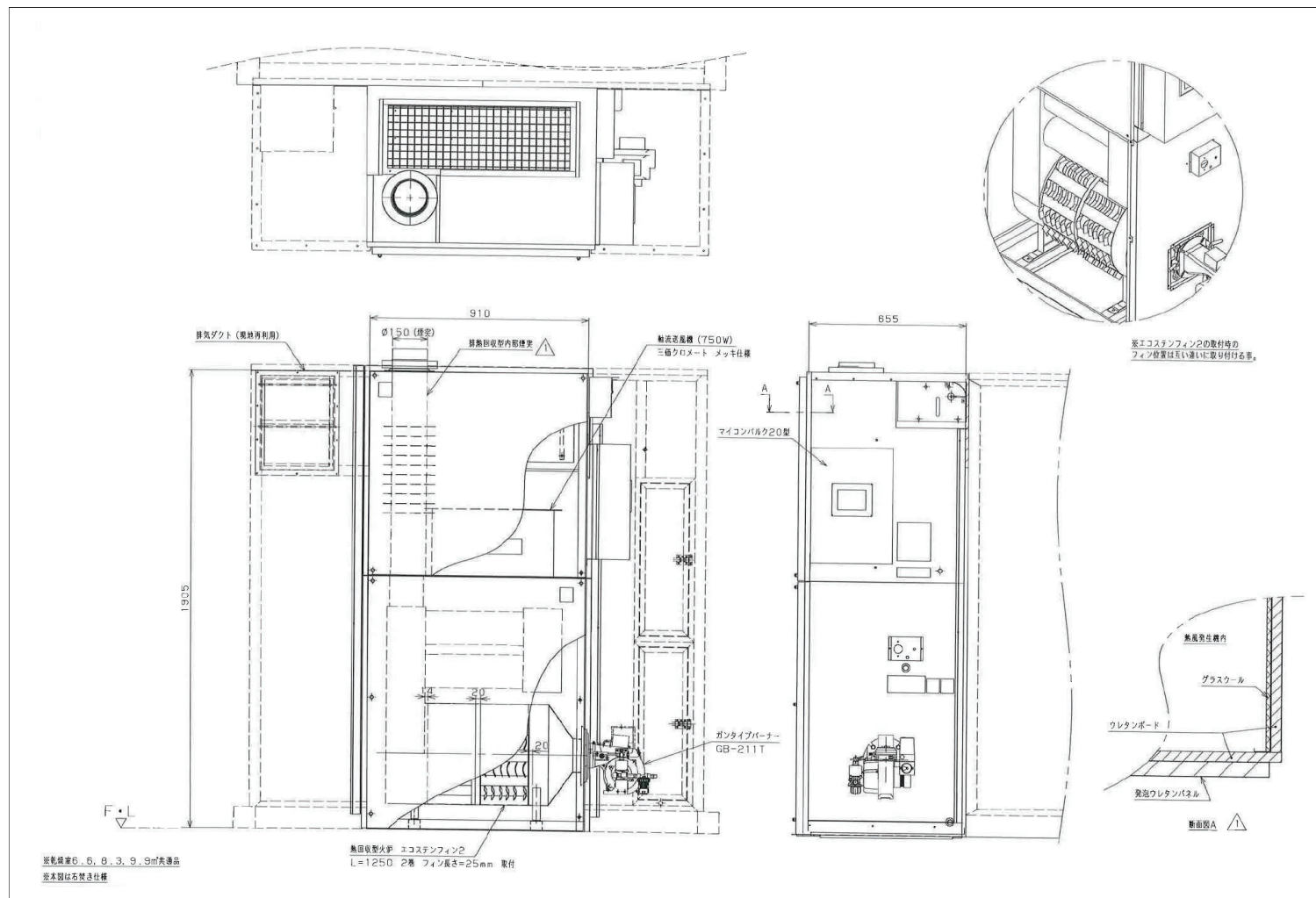
三州産業株式会社

名 称			熱回収型コンテナバルク乾燥機（機械室部分）
型 式			CVD－ES－125－K－MC
機 有	機 械 室	床 面 積	0. 6㎡
発 生 機 器	送 風 機	名 称	コンデンサ型単相又は三相誘導電動機静翼型軸流送風機（1台）
		定 格 出 力	単相200V － 750W 三相200V － 750W
		風 量	125m³/min
		静 圧	147Pa（15mmAq）
		電 流	単相200V － 7. 3A（※2） 三相200V － 4. 0A
	燃 焼 器	名 称	ガンタイプバーナ
		使用燃料	灯油 JIS K2203－1号
		燃 焼 量	3. 8L/H（1. 0G/H）
		電動機出力	200V 20W（0. 35A / 0. 4A）※1
		点 火 装 置	1次側 200V 0. 9A 2次側 15KV 23mA
制 御 装 置		型式：MC－0101（マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤）による制御 ①乾球制御：バーナによるON－OFF制御 ②湿球制御：自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置	
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉（ステンレス製フィン搭載型）	
入 力 合 計		単相200V ： 1. 4KW（8. 55A / 8. 6A）※1 三相200V ： 1. 3KW（5. 25A / 5. 3A）	

※1「/」で表す数値はそれぞれ電源周波数の50/60Hzの値を表します

※2 電源周波数が50Hz 地域のみインバーター駆動による周波数制御

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります



熱回収型コンテナバルク乾燥機（機械室部分）【三州産業】

仕 様 書

株式会社 木原製作所

名 称			熱回収型キャビネットバルク乾燥機(機械室部分)
型 式			CAB-E-123-2-P-K
規格	機械室寸法	mm	幅900×奥行700×高さ2087
	設置床面積	m ²	センター設置型:0.63 / L設置型:1.38
	内部断熱構造		全面25mm厚断熱グラスウール張り(飛散防止構造)
	燃焼炉		3パス式・熱回収装置付き
送風機	型 式		DF-75
	定格電圧・出力	V・W	200 ・ 750
	絶縁階級		H種
	送風機騒音値	db	80.5
	静 圧	Pa	200
	風 量	m ³ /min	123
バーナー	型 式		OM-0NKT1
	使用燃料消費量	L/h	3.06 (+-8%)
	定格電圧・出力	V・W	200 ・ 20
操作盤	型 式		CPC-40(共通操作盤)
	定格電圧	V	200
	内臓装置		・液晶タッチパネルプログラム運転装置 (乾球、湿球、行程時間) ・自動昇温 ・自動排湿
	安全装置		・異常高温防止 ・異常高湿防止 ・過電流防止 ・警報装置 ・避雷装置 ・過熱防止装置 ・燃焼監視装置
装 排 置 湿	開閉制御		比例式
	定格電圧・出力	V・W	200 ・ 4

※本仕様は、燃焼効率向上のため変更の可能性があります。

Technical drawings of the H-1000 heat exchanger unit, showing dimensions and material specifications.

Top View (平面図): Shows a square unit with a width of 900 mm and a height of 700 mm. A detail callout 'A' is shown on the right side.

Front View (正面図): Shows the unit's profile with a total height of 2087 mm. The top section has a height of 860 mm and a width of 900 mm. The bottom section has a height of 1200 mm. A detail callout 'A' is shown on the right side. The unit is labeled with '送風機 750W (DF-75)' and '燃焼炉 (熱回収装置付き)'. The bottom section is labeled '熱回収装置'.

Side View (側面図): Shows the unit's profile with a width of 700 mm. The top section is labeled '燃焼炉上段' and the bottom section is labeled '燃焼炉下段'. A detail callout 'A' is shown on the right side. The unit is labeled with '燃焼炉上段' and '燃焼炉下段'.

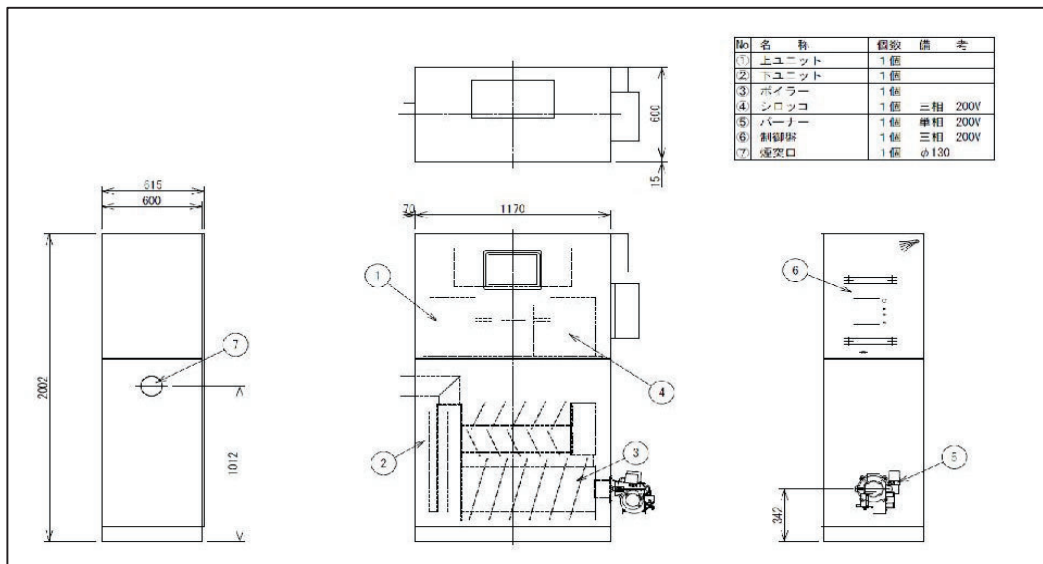
Detail A (A部詳細図): Shows a cross-section of the unit with a scale of S=1:3. The material specifications are: 内面カバー板: ガルバリウム鋼板 (ガラスウール用耐火防止・発熱反射) and 25mm厚断熱ガラスウール.

- 41 -

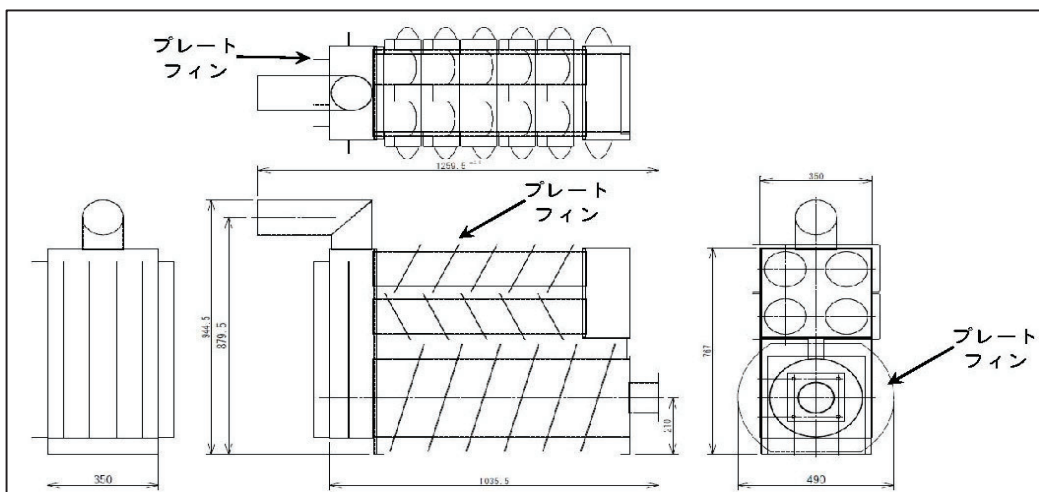
仕 様 書

品名	フルタ循環バルク乾燥機 設備改善 機械室ユニット
型式	FRBC-20-K
送風機	シロッコ送風機
風量	100/130m ³ /min(50/60Hz)
静圧	44/35mmAq(50/60Hz)
電源電圧	三相 200V(50/60Hz)
消費電力	3200/2400W(50/60Hz)
バーナ	ガンタイプバーナ
電源電圧	三相 200V(50/60Hz)
使用燃料	白灯油
燃油量	ノズルサイズ 1.25G/60° 燃油量 5.4ℓ/h
ボイラー	プレートフィン図では6枚斜め傾斜、放熱管部に20枚、鏡板部6枚 燃油消費量の低減率:15%程度低減
熱出力	54.7kW(47,000kcal)
消費電力	100W
制御盤	プログラムコントローラー
電源電圧	三相 200V(50/60Hz)
消費電力	20W
安全装置	燃焼安全制御装置(プロテクトリレー) 過熱防止装置(缶体サーモ 80℃(on-off)) 電動機過負荷保護装置

機械室



熱回収燃焼炉



フルタ循環バルク乾燥機(機械室部分)【フルタ電機】

農薬試験成績書審査

資 材 名	トアロー水和剤C T
審査依頼成績書	薬効・薬害試験：2023年度及び2024年度実施各1件
審査依頼試験成績書を適正と判断する理由	審査依頼された試験成績書は、当財団の定めるたばこ耕作資材試験実施要領に基づき実施され、記載されていることから、薬効・薬害の試験結果を確認する成績書として適正であると判断する。
本成績書の結果の概要	トアロー水和剤C T 500倍希釈液 1回 茎葉散布のハスモンヨトウ防除効果は認められた。薬害の発生は認められなかった。
備考	

農 薬 試 験 成 績 書 審 査 依 頼 書

住 所 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1
会社名 O A Tアグリオ株式会社

次のとおり審査を依頼いたします。

品 名 (旧名称)	トアロー水和剤C T	
製 造 元 (住所・会社名)	東京都千代田区神田小川町1-3-1 O A Tアグリオ株式会社	
農 薬 登 録 済 内 容 (申請中を含む)	別添農薬登録票参照	
本 農 薬 の 特 徴	チョウ目害虫の幼虫に対し選択的に作用し、安定した効果を発揮。合成ピレスロイド剤、有機リン剤等に抵抗性のコナガにも有効。チョウ目以外の昆虫には影響はほとんどなく、マメコバチ、マルハナバチ、ミツバチなどの有用昆虫にも悪影響を与えない。チリカブリダニ、クモ、寄生蜂などの天敵にも悪影響を与えない。水産動植物及び鳥類に対して安全性が高い。薬臭・汚れがほとんどない。有機農産物の日本農林規格（有機JAS）に適合する農薬である。	
成分組成	1) 主 成 分 (物質名・構造式・含有率)	パチルス チューリングゲンシス菌の産生する結晶毒素 7.0% (力価として…70B. m. t. x. 単位/mg)
	2) 助 剤 (物質名・含有率)	鉱物質微粉、界面活性剤等 93.0%
理化学的 性状	1) 物 理 性	淡褐色水和性粉末
	2) 化 学 性	有効成分の結晶毒素は蛋白質。強酸、強アルカリによりアミノ酸となる。紫外線によって徐々に分解し、窒素・水・炭酸ガスとなる。
	3) 毒 性	○人畜毒性 普通物 ○水産動植物に対する影響 この登録に係る使用方法では該当がない。
既往の 成績	1) タ バ コ	アオムシ・ヨトウムシ 薬効・薬害試験、官能検査試験：1983年 官能検査試験：1984年 2倍量薬害、官能検査試験：2015年
	2) 他 作 物	雑穀類（アワノメイガ）、野菜類（ヨトウムシ、アオムシ、コナガ）、果樹類（ハマキムシ類）茶（チャノコカクモンハマキ、ヨモギエダシヤク）、樹木類（アメリカシロヒトリ、イラガ類）等
審査依頼 の内容	試験種類及び試験数	薬効・薬害試験（ハスモンヨトウ）：2件
	試験実施年	薬効・薬害試験：2023年度、2024年度
	試験実施機関	日本たばこ産業株式会社 薬たばこ研究所
備 考 (添付資料)	・技術説明書（添付資料）の内訳… 薬効・薬害試験成績（ハスモンヨトウ、第4黄色種 つくば1号、2023年） 薬効・薬害試験成績（ハスモンヨトウ、第1バーレー種 JT-バーレー19、2024年）	

- 1 試験対象 ハスモンヨトウ (薬効・薬害)
 ・対象病害虫 *Spodoptera litura*
- 2 供試器材 トアロー水和剤CT (OATアグリオ)
 ・有効成分 バチルス・チューリンゲンシス菌の産生する結晶毒素 7.0%
 ・Lot No. 0E97A
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所 (担当者: 諸熊 大輔)
- 4 試験実施場所 栃木県小山市 (葉たばこ研究所内本畑)

5 試験方法

- 1) 供試品種 第4黄色種 つくば1号
- 2) 試験区別
- | | | | | | |
|----|-------------|----------|----------|----|------|
| 1区 | 無処理 | | | | |
| 2区 | トアロー水和剤CT | 500倍希釈液 | 180ℓ/10a | 1回 | 茎葉散布 |
| 3区 | ○ ランネート45DF | 1000倍希釈液 | 180ℓ/10a | 1回 | 茎葉散布 |
- 3) 供試面積 各区 0.12 a 合計 0.36 a

ボーダー	ボーダー
2区 (Ⅰ)	2区 (Ⅱ)
ボーダー	ボーダー
3区 (Ⅰ)	3区 (Ⅱ)
ボーダー	ボーダー
1区 (Ⅰ)	1区 (Ⅱ)
ボーダー	ボーダー
2区 (Ⅲ)	
ボーダー	
3区 (Ⅲ)	
ボーダー	
1区 (Ⅲ)	
ボーダー	

- 4) 処理方法・時期
- 2、3区は背負式動力噴霧器を用いて、6月23日に所定濃度および所定量の薬液を全葉の表裏にむらなく散布した。
- 5) 調査方法・時期
- 本試験は放飼試験で実施した。6月21日に、ハスモンヨトウ3齢幼虫を1株あたり3頭ずつ放飼した。その後、6月23日 (薬剤散布直前)、6月26日 (薬剤散布3日後)、6月30日 (薬剤散布7日後) および7月7日 (薬剤散布14日後) の計4回の被害調査と6月26日、6月30日および7月7日の計3回の薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌 種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	黒ボク 土	壤土	20 cm	普通

7) 耕種概要

播 種	仮 植	施肥・ 畦立て	移 植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日	月日	月日	月日	月日	月日	折衷 高畦
3.8	3.29	3.30	4.19	5.24	6.16	

8) 対象害虫の発生状況

葉たばこ研究所内で増殖したハスモンヨトウの放飼により試験した。

9) その他病害の発生状況

その他の病害虫の発生はなかった。

6 試験成績

表ー1 処理後の気象(小山アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備 考
	℃	℃	℃	h	mm	
2023.6. 23	20.5	23.9	16.3	0.0	0.0	被害調査、薬剤散布
24	24.1	29.5	20.6	5.9	2.0	
25	25.5	30.8	20.7	9.7	0.0	
26	25.2	29.4	21.8	0.8	0.0	被害調査、薬害発生調査
27	25.0	27.8	22.5	0.1	0.5	
28	25.5	31.9	22.1	2.9	6.0	
29	26.2	32.4	21.3	9.4	0.0	被害調査、薬害発生調査
30	25.8	29.0	23.0	0.1	1.0	
2023.7. 1	26.1	28.9	23.1	0.0	1.0	
2	26.8	33.3	21.6	10.2	0.0	
3	26.9	32.9	22.5	8.5	0.0	
4	25.2	29.8	21.2	6.0	1.5	
5	24.5	27.6	21.9	0.0	0.0	
6	26.9	32.9	21.7	6.9	0.0	
7	28.5	36.0	22.3	10.9	0.0	被害調査、薬害発生調査

表－2 ハスモンヨトウ防除効果

試験区別	散布後 日数	調査 株数	被害指数別株数				被害程度		防除 効果	薬害
			0	1	3	5	観察値	補正被害 指数		
○ 1区 無処理 2区 トアロー 3区 ランネート	散布 直前	本	本	本	本	本			%	
		60	38	22	0	0	7.3	—	—	—
		63	40	15	8	0	12.4	—	—	—
○ 1区 無処理 2区 トアロー 3区 ランネート	散布 3日後	63	35	23	5	0	12.1	—	—	—
		60	10	40	10	0	23.3	3.19	—	—
		63	18	35	10	0	20.6	1.66	48.0	無し
○ 1区 無処理 2区 トアロー 3区 ランネート	散布 7日後	63	27	24	12	0	19.0	1.57	50.8	無し
		60	2	21	32	5	47.3	6.48	—	—
		63	16	34	13	0	23.2	1.87	71.1	無し
○ 1区 無処理 2区 トアロー 3区 ランネート	散布 14日後	63	24	25	13	1	21.9	1.81	72.1	無し
		60	0	10	38	12	61.3	8.40	—	—
		63	13	30	20	0	28.6	2.31	72.5	無し
○ 1区 無処理 2区 トアロー 3区 ランネート	散布 14日後	63	21	26	15	1	24.1	1.99	76.3	無し

注)被害指数の判定をたばこ耕作資材試験実施要領「ヨトウムシ(ヨトウガ)、タバコアオムシ(タバコガ等)」の項目をもとに、以下の基準で行った。

被害指数0: 無食害の株、あるいは軽度の食痕が1～2枚の葉に止まる。

被害指数1: 1～3枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

被害指数3: 4～8枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

あるいは、激しく食害された葉(食害部30%以上)が2、3枚認められる。

被害指数5: 9株以上の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる株、激しく食害された葉(食害部が30%以上)が認められる株、あるいは心葉が激しく食害された株。

7 結果の要約

トアロー水和剤CT500倍希釈液の散布によって、ハスモンヨトウに対しての防除効果が確認された。対照剤であるランネート45DF1000倍希釈の散布と比較して、その効果はほぼ同等程度であった。

薬害の発生は認められなかった。

- 1

試験対象

ハスモンヨトウ（薬効・薬害）
- ・対象病害虫

Spodoptera litura
- 2

供試器材

トアロー水和剤CT (OATアグリオ)
- ・有効成分

バチルス・チューリンゲンシス菌の産生する結晶毒素 7.0%
- ・Lot No.

2J75B
- 3

試験実施機関

日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所 (担当者: 諸熊大輔)
- 4

試験実施場所

栃木県小山市 (葉たばこ研究所内本畑)
- 5

試験方法

1) 供試品種

第1バーレー種 JT-バーレー19

2) 試験区別

1区 無処理

2区 トアロー水和剤CT 500倍希釈液 1800/10a 1回 茎葉散布

3) 供試面積

各区 0.12 a 合計 0.36 a

	ボーダー
	1区(Ⅱ)
	ボーダー
	ボーダー
	2区(Ⅱ)
	ボーダー
	ボーダー
	1区(Ⅲ)
	ボーダー
	ボーダー
	2区(Ⅲ)
	ボーダー
	ボーダー
ボーダー	
2区(Ⅰ)	
ボーダー	
ボーダー	
1区(Ⅰ)	
ボーダー	

- 4) 処理方法・時期

2区は背負式動力噴霧器を用いて、7月19日に所定濃度および所定量の薬液を全葉の表裏にむらなく散布した。
- 5) 調査方法・時期

ハスモンヨトウの発生が少なかったため、7月17日に各株にハスモンヨトウ3齢幼虫を3頭ずつ放飼した。

7月19日(薬剤散布直前)、7月22日(薬剤散布3日後)、7月26日(薬剤散布7日後)、8月2日(薬剤散布14日後)の計4回の被害調査と、7月22日、7月26日、8月2日の計3回の薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌 種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	黒ボク 土	壤土	cm 20	普通

7) 耕種概要

播 種	仮 植	施肥・ 畦立て	移 植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日	月日	月日	月日	月日	月日	折衷 高畦 マルチ
3.8	3.29	3.30	4.19	5.23	6.16	

8) 対象害虫の発生状況

ハスモンヨトウの自然発生が少なかったため放飼試験を行った。

9) その他病害の発生状況

特になし

6 試験成績

表－1 処理後の気象(小山アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水 量	備 考
	℃	℃	℃	h	mm	
2024.7. 19	28.8	32.8	25.1	2.7	0.0	被害調査、薬剤散布
20	30.2	36.0	26.0	10.2	0.0	
21	30.1	35.1	25.8	9.5	0.0	
22	29.8	37.8	24.2	9.8	22.5	
23	30.0	36.7	23.8	12.6	0.0	被害調査、薬害発生調査
24	29.6	36.6	25.6	7.8	0.0	
25	29.1	37.1	23.4	8.5	14.0	
26	28.3	36.0	23.7	6.5	6.5	
27	28.4	35.7	24.1	6.9	20.0	被害調査、薬害発生調査
28	30.2	35.8	25.0	5.8	0.0	
29	31.3	38.9	26.4	8.9	0.0	
30	30.5	36.3	26.1	9.0	0.0	
31	28.5	34.6	25.8	8.2	0.5	
2024.8. 1	28.1	33.5	24.3	10.4	0.0	
2	28.6	34.1	24.6	11.9	0.0	被害調査、薬害発生調査

表ー2 ハスモンヨトウ防除効果

試験区別	散布後 日数	調査 株数	被害指数別株数				被害程度		防除 効果	葉害
			0	1	3	5	観察値	補正被害指数		
1区 無処理	散布 直前	本	本	本	本	本			%	
2区 トアロー 水和剤CT		60	33	24	3	0	11.0	—	—	—
1区 無処理	散布 3日後	60	11	30	19	0	29.0	2.64	—	—
2区 トアロー 水和剤CT		60	18	31	11	0	21.3	1.14	56.8	無し
1区 無処理	散布 7日後	60	3	25	30	2	41.7	3.79	—	—
2区 トアロー 水和剤CT		60	14	32	14	0	24.7	1.32	65.2	無し
1区 無処理	散布 14日後	60	0	8	33	19	67.3	6.12	—	—
2区 トアロー 水和剤CT		60	10	32	18	0	28.7	1.53	75.0	無し

注)被害指数の判定をたばこ耕作資材試験実施要領「ヨトウムシ(ヨトウガ)、タバコアオムシ(タバコガ等)」の項目をもとに、以下の基準で行った。

被害指数0: 無食害の株、あるいは軽度の食痕が1～2枚の葉に止まる。

被害指数1: 1～3枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

被害指数3: 4～8枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

あるいは、激しく食害された葉(食害部30%以上)が2、3枚認められる。

被害指数5: 9株以上の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる株、激しく食害された葉(食害部が30%以上)が認められる株、あるいは心葉が激しく食害された株。

7 結果の要約

トアロー水和剤CT500倍希釈液の茎葉散布によって、ハスモンヨトウに対して効果が認められた。

また、葉害の発生は認められなかった。

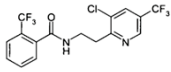
農薬試験成績書審査

資 材 名	ビーラム粒剤
審査依頼成績書	薬効・薬害試験（2件）：2023年度及び2024年度実施各1件、 官能検査（3件）：2022年度実施2件、2023年度実施1件
審査依頼試験成績書を適正と判断する理由	審査依頼された試験成績書は、当財団の定めるたばこ耕作資材試験実施要領に基づき実施され、記載されていることから、薬効・薬害及び官能検査の各試験結果を確認する成績書として適正であると判断する。
本成績書の結果の概要	○薬効・薬害試験 ビーラム粒剤 20kg/10a 本畑移植12日前及び2日前の作条土壌混和の各1回処理で、ネコブセンチュウ防除効果は認められた。薬害の発生は認められなかった。 ○官能検査 ビーラム粒剤 20kg/10a 本畑移植12日前、5日前及び2日前の作条土壌混和の各1回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
備考	

農 薬 試 験 成 績 書 審 査 依 頼 書

住 所 〒100-8262 東京都千代田区丸の内1-6-5
会社名 バイエルクロップサイエンス株式会社

次のとおり審査を依頼いたします。

品 名（旧名称）	ビーラム粒剤（ネマクリーン粒剤）	
製 造 元 （住所・会社名）	バイエルクロップサイエンス株式会社 東京都千代田区丸の内1-6-5	
農 薬 登 録 済 内 容 （申請中を含む）	別添付農薬登録票を参照	
本 農 薬 の 特 徴	有効成分フルオピラム含有のビーラム粒剤は、は種前・定植前に処理する事によってネコブセンチュウやネグサレセンチュウ等を防除できる薬剤。	
成分組成	1) 主 成 分 （物質名・構造式・含有率）	フルオピラム 0.50% 
	2) 助 剤 （物質名・含有率）	
理化学的性状	1) 物 理 性	淡褐色細粒
	2) 化 学 性	別添 技術資料参照
	3) 毒 性	○人畜毒性 普通物相当
既往の成績	1) タ バ コ	-
	2) 他 作 物	ばれいしょ・かんしょ・やまのいも・さといも・しょうが・にんじん・だいこん・ごぼう・にんにく・きく
審査依頼の内容	試験種類及び試験数	薬効・薬害試験（ネコブセンチュウ）：2件、官能検査：3件
	試験実施年	2022年、2023年、2024年
	試験実施機関	日本たばこ産業株式会社
備 考 （添付資料）	・技術説明書（添付資料）の内訳… 技術資料	

- 1 試験対象 ネコブセンチュウ(薬効・薬害)
 ・対象病害虫 ネコブセンチュウ (*Meloidogyne* spp.)

- 2 供試器材 ビーラム粒剤(バイエルクロップサイエンス)
 ・有効成分 フルオピラム 0.50%
 ・Lot No. 25.10PD21K000085440

- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:柿原)

- 4 試験実施場所 宮崎県宮崎市

- 5 試験方法
 - 1) 供試品種 第1黄色種 JT-黄色80

 - 2) 試験区別

1区	無処理	
2区	ビーラム粒剤	20kg/10a 1回 植付前作条土壤混和
3区	○ バイデートL粒剤	37kg/10a 1回 植付前作条土壤混和

 - 3) 供試面積 各区 1.8 a(0.6 a×3反復) 合計 5.4 a

【試験区配置図】

1区	1区	1区	試験 区外	試験 区外	試験 区外	試験 区外	試験 区外	2区	2区	2区	3区	3区	3区
----	----	----	----------	----------	----------	----------	----------	----	----	----	----	----	----

- 4) 処理方法・時期

2及び3区は、2月28日に、手作業で畦立予定の土壤表面に所定量の試験剤を作条に散布した。
その後、成畦被覆機を用いて土壤と混和しながら畦立し被覆した。

- 5) 調査方法・時期

たばこ耕作試験実施要領に基づき、3月28日(本畑移植16日後)に薬害発生調査を行った。
4月27日(移植46日後、大土寄時期)及び5月11日(移植60日後、開花時期)の計2回の生育調査、
7月12日(移植122日後)にネコブ指数調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌 種類	土性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	赤ホヤ	壤土	30 ^{cm}	良

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
1月20日	2月19日	2月28日	3月12日	8月19日	5月9日	折衷マルチ

8) 対象病害の発生状況

外観上、地上部への明瞭な病徴はみられなかった。

9) その他病虫害の発生状況

栽培後期にタバコ立枯病が散見されたが、試験への影響はなかった。

6 試験成績

表－1 処理後の気象(田野アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
2023年3月上旬	11.2	21.5	0.1	79.1	11.0	葉害発生調査:3月28日
2023年3月中旬	13.1	22.9	1.8	57.5	63.5	
2023年3月下旬	14.9	24.1	7.0	31.9	118.5	
2023年4月上旬	15.3	22.6	3.9	50.6	92.0	
2023年4月中旬	17.2	27.6	8.9	57.0	54.0	生育調査:4月27日
2023年4月下旬	15.6	22.1	7.1	45.6	71.0	
2023年5月上旬	17.8	25.1	7.2	64.8	38.0	生育調査:5月11日
2023年5月中旬	19.3	30.5	10.8	65.8	59.0	
2023年5月下旬	21.0	32.1	12.0	70.9	32.0	
2023年6月上旬	20.5	29.9	15.1	37.4	496.0	
2023年6月中旬	22.1	29.9	17.1	32.6	107.0	ネコブ調査:7月12日
2023年6月下旬	25.4	33.1	18.7	46.9	35.0	
2023年7月上旬	26.7	34.2	20.9	32.1	351.5	
2023年7月中旬	27.9	34.5	22.6	67.6	9.0	

表－2 薬剤処理前の試験畑のネコブセンチュウ密度

試験区別	ネコブセンチュウ数
全区	14.6

- ・試料採取月日:2023年2月23日
- ・乾土50gあたりのネコブセンチュウ数

表ー3 大土寄時期生育調査結果(4月27日調査、移植46日後)

試験区別	草丈	最大葉				備考
		葉長	葉幅	位置	葉色	
	cm	cm	cm	枚目		
1区 無処理	43.3	59.6	23.7	7.8	6.9	斉一
2区 ビーラム粒剤	42.1	58.6	25.0 ⁺	7.1 ⁻	7.8 ⁺	斉一
3区 バイデートL粒剤	44.8	57.1	24.3	7.5	7.4 ⁺	斉一

注1) 表中の値は調査株30本(反復あたり10本)の平均値、葉色はカラースケール値
注2)"+"、"- "印は無処理に対して5%水準で有意差があることを示す。

表ー4 開花時期生育調査結果(5月11日調査、移植60日後)

試験区別	開花 月日	草丈	最大葉				備考
			葉長	葉幅	位置	葉色	
	月日	cm	cm	cm	枚目		
1区 無処理		115.7	68.2	25.7	9.0	7.6	斉一
2区 ビーラム粒剤	5/2	115.1	69.1	26.6	8.3 ⁻	6.6 ⁻	斉一
3区 バイデートL粒剤		115.8	66.8	27.7	8.4 ⁻	6.3 ⁻	斉一

注1) 表中の値は調査株30本(反復あたり10本)の平均値、葉色はカラースケール値
注2)"+"、"- "印は無処理に対して5%水準で有意差があることを示す。

表ー5 ネコブセンチュウ防除効果-(7月12日調査、移植122日後)

試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				発病率 (%)	ネコブ 指数	防除率 (%)	薬害
			0	1	3	5				
1区 無処理	I	10	0	0	6	4	100.0	76.0	-	-
	II	10	0	0	2	8	100.0	92.0		
	III	10	0	0	7	3	100.0	72.0		
	合計	30	0	0	15	15	100.0	80.0		
2区 ビーラム 粒剤	I	10	3	7	0	0	70.0	14.0	78.3	なし
	II	10	0	10	0	0	100.0	20.0		
	III	10	1	9	0	0	90.0	18.0		
	合計	30	4	26	0	0	86.7	17.3		
3区 バイデートL 粒剤	I	10	0	8	2	0	100.0	28.0	61.7	なし
	II	10	0	7	3	0	100.0	32.0		
	III	10	0	7	3	0	100.0	32.0		
	合計	30	0	22	8	0	100.0	30.7		

注1) 以下の基準・計算式で、ネコブ指数の判定、防除率の算出を行った。

被害指数0:健全根、指数1:ゴールが1/4未満の根

指数3:ゴールが1/4以上1/2未満の根

指数5:ゴールが1/2以上の根

$$\text{ネコブ指数} = \frac{\sum (\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

$$\text{防 除 率 (\%)} = \frac{\text{無処理区のネコブ指数} - \text{処理区のネコブ指数}}{\text{無処理区のネコブ指数}} \times 100$$

注2) 薬害については、3月28日に、植物体(生育不良、萎れ等)を対象に調査した。

7 結果の要約

ビーラム粒剤 20kg/10a 1回 作条土壌混和处理のネコブセンチュウ防除効果は認められ、その効果は対照剤のバイデール粒剤 37kg/10a 1回 作条土壌混和处理と比較して優った。薬害の発生は認められなかった。

- 1 試験対象 ネコブセンチュウ(薬効・薬害)
 ・対象病害虫 ネコブセンチュウ (*Meloidogyne* spp.)
- 2 供試器材 ビーラム粒剤(バイエルクロップサイエンス)
 ・有効成分 フルオピラム 0.50%
 ・Lot No. 25.10PD21F00027
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:永井)
- 4 試験実施場所 宮崎県宮崎市
- 5 試験方法
- 1) 供試品種 第1黄色種 JT-黄色80
- 2) 試験区別
- | | | | |
|----|--------|----------|--------------|
| 1区 | 無処理 | | |
| 2区 | ビーラム粒剤 | 10kg/10a | 1回 植付前作条土壤混和 |
| 3区 | ビーラム粒剤 | 20kg/10a | 1回 植付前作条土壤混和 |
- 3) 供試面積 各区 0.78 a (0.26 a×3反復) 合計 2.34 a

【試験区配置図】

3区 (Ⅲ)	1区 (Ⅲ)	試験 区外	2区 (Ⅰ)
2区 (Ⅲ)	試験 区外	1区 (Ⅱ)	3区 (Ⅰ)
試験 区外	2区 (Ⅱ)	3区 (Ⅱ)	1区 (Ⅰ)

畦方向

- 4) 処理方法・時期
- 2及び3区は、3月8日に、手作業で畦立予定の土壤表面に所定量の試験剤を作条に散布した。
その後、成畦被覆機を用いて土壤と混和しながら畦立し被覆した。
- 5) 調査方法・時期
- たばこ耕作試験実施要領に基づき、4月3日(本畑移植24日後)に薬害発生調査を行った。
4月25日(移植46日後、大土寄時期)及び5月9日(移植60日後、開花時期)の計2回の生育調査、
7月9日(移植121日後)にネコブ指数調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌 種類	土性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	赤ホヤ	壤土	40 ^{cm}	良

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
1月22日	2月15日	3月8日	3月10日	－	5月15日	折衷 マルチ

8) 対象病害の発生状況

外観上、地上部への明瞭な病徴はみられなかった。

9) その他病虫害の発生状況

栽培後期にタバコ立枯病が散見されたが、試験への影響はなかった。

6 試験成績

表－1 処理後の気象(田野アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水 量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
2023年3月上旬	8.9	15.8	1.2	74.3	30.0	薬剤処理・畦立:3月8日
2023年3月中旬	11.4	20.9	2.3	75.4	56.0	
2023年3月下旬	15.5	25.9	0.7	64.5	99.5	
2023年4月上旬	16.3	25.9	6.6	33.7	107.5	薬害発生調査:4月3日
2023年4月中旬	16.9	23.6	9.9	36.9	71.0	
2023年4月下旬	19.4	26.9	11.7	30.6	100.5	
2023年5月上旬	17.9	24.5	10.2	35.4	126.5	生育調査:4月25日 生育調査:5月9日
2023年5月中旬	18.7	28.3	10.8	70.3	32.0	
2023年5月下旬	20.5	28.8	13.4	38.9	196.0	
2023年6月上旬	20.6	28.4	14.7	56.4	78.5	
2023年6月中旬	22.6	30.6	17.5	44.9	286.5	
2023年6月下旬	25.2	31.9	19.8	13.6	299.5	
2023年7月上旬	29.1	35.1	22.6	97.5	21.0	ネコブ調査:7月9日

表－2 薬剤処理前の試験畑のネコブセンチュウ密度

試験区別	ネコブセンチュウ数
全区	17.2

- ・試料採取月日:2024年2月7日
- ・乾土50gあたりのネコブセンチュウ数

表－3 大土寄時期生育調査結果(4月25日調査、移植46日後)

試験区別	草丈	最 大 葉				備考
		葉長	葉幅	位置	葉色	
	cm	cm	cm	枚目		
1区 無処理	36.6	63.6	27.1	6.9	7.6	斉一
2区 ビーラム粒剤 10 kg	41.4 ⁺	64.1	28.6 ⁺	5.8 ⁻	7.5	斉一
3区 ビーラム粒剤 20 kg	38.7	64.4	28.9 ⁺	7.0	7.7	斉一

注1) 表中の値は調査株30本(反復あたり10本)の平均値、葉色はカラースケール値
注2)"+"、"- "印は無処理に対して5%水準で有意差があることを示す。

表－4 開花時期生育調査結果(5月9日調査、移植60日後)

試験区別	開花 月日	草丈	最 大 葉				備考
			葉長	葉幅	位置	葉色	
	月日	cm	cm	cm	枚目		
1区 無処理		118.6	75.9	31.8	13.4	7.9	斉一
2区 ビーラム粒剤 10 kg	5月8日	122.9	77.3	31.4	12.5 ⁻	7.8	斉一
3区 ビーラム粒剤 20 kg		117.9	76.7	32.6	13.4	7.8	斉一

注1) 表中の値は調査株30本(反復あたり10本)の平均値、葉色はカラースケール値
注2)"+"、"- "印は無処理に対して5%水準で有意差があることを示す。

表－5 ネコブセンチュウ防除効果(7月9日調査、移植121日後)

試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				発病率 (%)	ネコブ 指数	防除率 (%)	薬害
			0	1	3	5				
1区 無処理	I	10	0	8	2	0	100.0	28.0	-	-
	II	10	1	9	0	0	90.0	18.0		
	III	10	6	2	2	0	40.0	16.0		
	合計	30	7	19	4	0	76.7	20.7		
2区 ビーラム 粒剤 10kg	I	10	3	7	0	0	70.0	14.0	74.2	なし
	II	10	9	1	0	0	10.0	2.0		
	III	10	10	0	0	0	0.0	0.0		
	合計	30	22	8	0	0	26.7	5.3		
3区 ビーラム 粒剤 20 kg	I	10	3	7	0	0	70.0	14.0	77.4	なし
	II	10	10	0	0	0	0.0	0.0		
	III	10	10	0	0	0	0.0	0.0		
	合計	30	23	7	0	0	23.3	4.7		

注1) 以下の基準・計算式で、ネコブ指数の判定、防除率の算出を行った。

被害指数0:健全根、指数1:ゴールが1/4未満の根

指数3:ゴールが1/4以上1/2未満の根

指数5:ゴールが1/2以上の根

ネコブ指数 =
$$\frac{\Sigma(\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

防 除 率 (%) =
$$\frac{\text{無処理区のネコブ指数} - \text{処理区のネコブ指数}}{\text{無処理区のネコブ指数}} \times 100$$

注2) 薬害については、4月3日に、植物体(生育不良、萎れ等)を対象に調査した。

7 結果の要約

ビーラム粒剤 10kg/10a 1回 作条土壌混和处理のネコブセンチュウ防除効果はみられた。

ビーラム粒剤 20kg/10a 1回 作条土壌混和处理のネコブセンチュウ防除効果はみられた。

葉害の発生は認められなかった。

1 試験対象 官能検査

- 2 供試器材 ビーラム粒剤(バイエルクロップサイエンス)
 ・有効成分 フルオピラム 0.50%
 ・Lot No. PD21A00002

- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当:遠山)

- 4 試料採取場所 福島県郡山市 福島県農業総合センター所内圃場

5 試験方法

- 1) 供試品種 第1バーレー種 たいへい

2) 試験区別及び供試面積

試験区別	区 別	濃 度	処理量	処理回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	3.5 a
2 区	ビーラム粒剤	—	20 kg/10a	作条土壤混和 1回	1.7 a

3) 処理方法

2区は、4月20日(移植5日前)に、手作業で畦立予定の土壤表面に所定量の試験剤を作条に散布した。その後、成畦被覆機を用いて土壤と混和しながら畦立し被覆した。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壤種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	灰色 低地土	壤土	30 ^{cm}	普通

5) 栽培概要

- (1)施肥量 N :14.0、P2O5 :26.0、K2O :34.0
 (2)畦株間距離 130cm×33cm (2,331本/10a)
 (3)被覆方法 折衷マルチ(シルバー、全期間)
 (4)移植月日 2022年4月25日
 (5)土寄月日 なし
 (6)心止月日 2022年7月1日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
各区共通	オルトラン水和剤	1,500倍	90 L/10a	5月19日

7) 試料採取

試料の着位	試験 区別	薬 剤 処 理※		試 料 採 取		薬剤処理から収穫まで		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区 共通	4月20日	晴	7月5日	曇	76	30	290.5
上 葉	各区 共通	4月20日	晴	8月9日	晴	111	49	470.5

※1区は薬剤処理なし。

8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

9) 官能検査 2023年1月10日から1月17日の間、東日本原料本部において調査した。

6 試験成績

表－1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
4月20日	10.7	17.0	2.9	8.2	0.0	薬剤処理(中葉区、上葉区共通) 移植
4月21日	14.7	22.0	5.7	7.3	1.0	
4月22日	15.2	20.0	11.4	9.5	3.5	
4月23日	15.4	22.2	9.1	3.5	0.0	
4月24日	14.7	20.3	7.7	3.3	0.0	
4月25日	18.2	27.1	7.5	9.3	0.0	
4月26日	18.0	23.2	11.7	0.5	0.5	
4月27日	15.9	20.4	10.3	3.2	2.5	
4月28日	12.9	19.4	8.1	6.9	0.0	
4月29日	7.4	13.7	2.2	0.0	25.5	
4月30日	8.8	15.2	2.1	9.5	2.0	
5月1日	9.7	13.7	7.0	0.0	16.0	
5月2日	10.7	15.1	7.7	7.3	1.0	
5月3日	9.7	13.7	5.6	10.5	0.0	
5月4日	15.5	24.7	5.6	12.8	0.0	
5月5日	18.3	28.7	7.1	12.9	0.0	
5月6日	18.1	25.8	9.9	11.2	0.0	
5月7日	18.1	24.1	13.0	6.1	0.0	
5月8日	13.5	17.0	10.5	10.9	0.0	
5月9日	10.1	11.7	6.7	0.0	3.5	
5月10日	13.5	22.6	5.7	11.8	0.0	
5月11日	15.2	24.2	4.9	10.2	0.0	
5月12日	19.1	24.4	13.4	7.3	0.0	
5月13日	17.9	20.9	15.5	0.0	12.0	
5月14日	17.4	22.2	12.8	1.8	12.0	

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント） 続き

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
5月15日	15.1	19.5	12.1	4.7	0.0	
5月16日	11.6	12.8	10.5	0.0	6.0	
5月17日	14.0	17.9	11.1	0.0	1.0	
5月18日	16.6	24.2	10.2	11.1	0.0	
5月19日	18.6	26.7	8.4	11.4	0.0	
5月20日	19.5	25.9	13.0	6.5	0.0	
5月21日	17.8	23.1	15.4	1.5	1.5	
5月22日	15.4	18.7	13.1	0.8	3.5	
5月23日	13.9	16.8	12.2	0.1	3.5	
5月24日	17.7	25.4	10.0	10.7	0.0	
5月25日	20.6	28.2	16.5	7.6	0.0	
5月26日	20.2	24.7	16.4	8.6	0.0	
5月27日	17.9	19.9	14.7	3.9	46.5	
5月28日	18.5	21.8	15.6	1.7	0.0	
5月29日	22.4	27.9	15.9	12.5	0.0	
5月30日	19.1	25.8	14.4	11.3	0.0	
5月31日	14.8	17.9	12.2	0.6	7.5	
6月1日	18.3	23.1	13.0	7.4	0.0	
6月2日	19.0	26.5	12.1	9.8	0.0	
6月3日	17.7	22.3	14.7	1.6	0.0	
6月4日	17.5	22.3	14.0	13.0	0.0	
6月5日	16.7	24.7	12.1	6.0	0.0	
6月6日	12.1	13.1	11.5	0.0	32.5	
6月7日	13.8	15.8	12.2	0.0	18.5	
6月8日	12.8	15.0	11.0	0.0	4.5	
6月9日	15.9	22.4	11.9	3.0	3.5	
6月10日	17.6	21.6	14.7	2.9	2.5	
6月11日	19.6	24.5	16.2	2.1	3.0	
6月12日	17.1	19.1	15.3	3.1	54.5	
6月13日	17.2	22.3	13.3	9.3	0.0	
6月14日	15.5	19.6	13.2	4.5	0.0	
6月15日	16.2	18.7	13.4	0.0	0.0	
6月16日	20.6	25.5	16.0	3.8	0.0	
6月17日	20.7	25.3	16.5	5.6	0.0	
6月18日	22.8	28.6	16.7	3.8	0.0	
6月19日	23.1	29.1	18.1	8.4	4.0	
6月20日	23.9	28.1	19.1	10.6	0.0	
6月21日	23.9	28.1	19.5	5.7	0.0	
6月22日	21.0	25.4	17.6	0.1	0.0	
6月23日	21.5	24.4	19.2	0.0	0.0	
6月24日	24.3	29.4	20.4	3.3	0.0	
6月25日	26.6	31.9	22.0	12.1	0.0	
6月26日	26.2	30.8	22.0	9.0	8.0	
6月27日	24.5	30.6	21.1	3.1	1.5	

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント） 続き

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
6月28日	27.3	32.9	22.9	4.9	0.0	
6月29日	27.5	32.2	21.7	12.0	0.0	
6月30日	27.6	31.2	23.6	12.7	0.0	
7月1日	28.2	32.3	22.4	13.8	0.0	
7月2日	28.6	34.8	21.5	12.8	0.0	
7月3日	25.6	34.3	21.6	6.4	4.0	
7月4日	25.7	32.8	22.2	8.1	5.0	
7月5日	25.4	31.1	21.7	4.1	15.5	中葉収穫(収穫後降雨)
7月6日	23.2	26.8	21.5	1.7	4.0	
7月7日	23.2	26.7	20.5	4.1	0.0	
7月8日	22.6	27.4	19.5	7.1	0.0	
7月9日	22.7	27.0	19.2	3.4	0.0	
7月10日	26.5	32.0	21.3	12.0	0.0	
7月11日	26.1	32.5	23.4	3.9	0.0	
7月12日	23.2	25.6	21.6	0.0	22.5	
7月13日	23.4	28.9	21.2	2.6	2.0	
7月14日	20.8	23.4	19.8	0.0	6.0	
7月15日	21.2	23.0	19.3	0.0	33.0	
7月16日	22.6	26.2	19.2	0.0	1.0	
7月17日	24.2	29.4	21.4	3.6	2.5	
7月18日	25.3	30.9	21.3	5.9	0.0	
7月19日	23.8	26.3	21.3	0.1	2.0	
7月20日	24.9	28.7	21.0	7.3	1.5	
7月21日	24.2	29.6	19.6	2.8	4.5	
7月22日	23.8	27.5	21.5	0.1	11.0	
7月23日	24.8	29.4	21.5	8.5	1.0	
7月24日	25.9	31.8	20.8	8.4	0.0	
7月25日	26.3	31.8	22.4	3.2	0.5	
7月26日	27.6	33.5	24.5	4.9	0.0	
7月27日	25.5	29.7	22.4	0.5	18.5	
7月28日	25.4	29.6	21.0	5.2	0.5	
7月29日	26.8	34.0	22.5	7.1	0.0	
7月30日	27.7	34.1	24.2	9.2	0.0	
7月31日	28.2	34.0	23.3	11.5	0.0	
8月1日	28.6	36.2	23.0	12.3	0.0	
8月2日	27.9	32.0	23.9	3.8	0.0	
8月3日	24.9	29.5	20.4	0.3	30.0	
8月4日	20.6	21.5	19.6	0.0	23.0	
8月5日	21.2	24.8	19.3	0.2	1.0	
8月6日	21.6	24.5	18.0	0.0	0.0	
8月7日	25.2	30.2	20.9	7.4	0.0	
8月8日	27.2	32.7	22.8	7.2	0.0	
8月9日	27.2	34.9	23.9	7.6	14.0	上葉収穫(収穫後降雨)

表－2 官能検査

供試着位	調査結果
中葉	ビーラム粒剤、20kg/10a、移植5日前の作条土壌混和处理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ビーラム粒剤、20kg/10a、移植5日前の作条土壌混和处理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	奥井洋、菊池将浩、青木優作、内藤秀明、芳賀正喜、米田基、中島周、松田征大、杵渕竜介、川村壽証、中野翔介、佐々木拓人、中平里歩

1 試験対象 官能検査

- 2 供試器材 ビーラム粒剤(バイエルクロップサイエンス)
 ・有効成分 フルオピラム 0.50%
 ・Lot No. PD21A00002

- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:二宮基史)

- 4 試料採取場所 茨城県稲敷郡阿見町(JTファーム本畑)

5 試験方法

- 1) 供試品種 第4黄色種 つくば1号

2) 試験区別及び供試面積

試験区別	区 別	濃 度	処理量	処理回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	2.1 a
2 区	ビーラム粒剤	—	20 kg/10a	作条土壌混和 1回	2.1 a

3) 処理方法

2区は、4月6日(移植2日前)に、散布器(マルチ散布器SMM-DX)を用いて畦立予定の土壌表面に所定量の試験剤を作条に散布した。その後、成畦被覆機を用いて土壌と混和しながら畦立し被覆した。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	淡色 黒ボク土	壤土	20 ^{cm}	普通

5) 栽培概要

- (1)施肥量 N :7.0、P2O5 :21.0、K2O :21.0
 (2)畦株間距離 120cm×40cm (2,083本/10a)
 (3)被覆方法 折衷マルチ(配色シルバー、全期間)
 (4)移植月日 2022年4月8日
 (5)土寄月日 なし
 (6)心止月日 2022年6月13日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	15 ml/株	6月3日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	20 ml/株	6月14日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20 ml/株	7月2日

7) 試料採取

試料の着位	試験 区別	薬 剤 処 理※		試 料 採 取		薬剤処理から収穫まで		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数 日	降水日数 日	降水量 mm
中 葉	各区 共通	4月6日	晴	6月30日	晴	85	31	267.5
上 葉	各区 共通	4月6日	晴	7月27日	晴	112	38	373.5

※1区は薬剤処理なし。

8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

9) 官能検査 2022年12月2日から12月7日の間、西日本原料本部において調査した。

6 試験成績

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表（土浦アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
4月6日	15.0	21.5	9.8	8.5	0.0	薬剤処理(中葉区、上葉区共通) 移植
4月7日	11.8	15.2	9.5	9.1	0.0	
4月8日	13.9	22.3	8.4	12.0	0.0	
4月9日	15.7	22.9	8.5	11.1	0.0	
4月10日	18.7	26.5	10.4	11.8	0.0	
4月11日	18.8	25.6	13.1	8.5	0.0	
4月12日	19.7	26.6	13.0	12.0	0.0	
4月13日	20.0	27.4	13.0	9.5	0.0	
4月14日	10.6	15.3	8.5	0.0	5.5	
4月15日	9.1	10.7	7.7	0.0	14.5	
4月16日	10.6	16.9	7.4	4.3	0.0	
4月17日	12.2	17.0	5.6	5.2	0.0	
4月18日	14.0	18.1	10.8	1.4	23.5	
4月19日	14.1	21.0	9.1	10.4	0.0	
4月20日	11.9	15.2	8.7	0.0	1.5	
4月21日	16.4	21.1	10.2	4.4	6.0	
4月22日	20.0	26.9	14.3	10.5	15.0	
4月23日	19.8	25.8	14.9	5.9	0.0	
4月24日	17.0	19.7	14.8	1.1	3.0	
4月25日	19.2	26.5	12.5	11.5	0.0	
4月26日	20.5	23.9	16.6	0.0	4.5	
4月27日	22.4	27.7	17.3	1.8	0.5	
4月28日	15.1	18.9	12.0	5.7	0.0	
4月29日	12.1	16.4	7.3	0.0	25.0	
4月30日	10.8	16.0	6.4	11.6	0.0	
5月1日	12.3	17.3	8.4	0.0	7.5	

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表（土浦アメダスポイント） 続き

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
5月2日	12.7	17.6	7.6	5.4	0.0	
5月3日	14.2	21.2	8.2	12.9	0.0	
5月4日	17.3	24.2	9.5	12.8	0.0	
5月5日	19.3	26.3	11.8	12.4	0.0	
5月6日	19.4	24.9	15.5	8.6	0.0	
5月7日	17.5	21.7	14.6	0.6	0.5	
5月8日	17.7	21.8	15.5	7.2	0.0	
5月9日	13.1	16.0	10.7	0.0	7.5	
5月10日	15.7	21.3	10.4	12.8	0.5	
5月11日	16.9	22.5	9.9	8.8	0.0	
5月12日	19.1	23.5	15.0	1.0	0.0	
5月13日	19.3	21.0	17.3	0.0	38.0	
5月14日	21.6	25.6	17.5	0.4	8.5	
5月15日	16.0	18.4	13.2	0.0	2.0	
5月16日	13.9	14.9	12.7	0.0	6.5	
5月17日	15.9	18.3	14.0	0.0	0.0	
5月18日	18.2	25.0	11.6	10.6	0.0	
5月19日	20.0	27.7	12.5	8.4	0.0	
5月20日	20.8	27.1	14.5	7.4	0.0	
5月21日	19.4	22.2	15.7	0.0	2.5	
5月22日	17.4	22.3	14.6	3.9	1.5	
5月23日	16.7	22.5	14.0	7.3	18.5	
5月24日	20.0	26.9	13.5	9.4	0.0	
5月25日	21.7	28.4	16.5	11.6	0.0	
5月26日	21.3	25.9	16.5	7.3	0.0	
5月27日	20.2	23.7	17.0	0.6	29.0	
5月28日	21.8	29.0	15.7	11.3	0.0	
5月29日	24.1	32.9	15.8	13.5	0.0	
5月30日	19.0	22.4	16.1	9.9	0.0	
5月31日	17.3	20.0	14.7	0.0	7.5	
6月1日	20.9	26.5	16.9	7.9	0.0	
6月2日	22.2	28.9	15.8	12.2	0.0	
6月3日	19.7	26.5	15.3	2.8	4.5	
6月4日	19.0	24.6	14.2	11.5	0.0	
6月5日	18.4	22.0	15.5	1.0	0.0	
6月6日	15.7	17.1	14.3	0.0	18.0	
6月7日	16.8	19.0	14.7	0.7	3.0	
6月8日	16.2	18.4	14.0	0.2	0.0	
6月9日	17.6	22.6	14.9	4.2	5.5	
6月10日	20.2	26.2	15.6	4.4	0.0	
6月11日	21.2	25.0	19.1	0.0	2.5	
6月12日	19.6	24.6	15.9	4.8	1.0	
6月13日	19.0	24.0	13.9	10.0	0.0	

表ー1 薬剤処理から試料採取までの気象表（土浦アメダスポイント） 続き

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
6月14日	16.5	18.9	14.9	0.3	0.0	
6月15日	17.3	19.3	14.6	0.0	2.0	
6月16日	20.3	23.9	17.2	0.0	0.0	
6月17日	22.9	27.6	18.5	4.3	0.0	
6月18日	22.8	26.8	18.5	0.0	2.0	
6月19日	24.6	31.0	19.0	10.1	0.0	
6月20日	25.6	31.4	21.3	7.5	0.0	
6月21日	24.2	28.5	21.6	3.1	0.0	
6月22日	22.3	25.7	20.3	0.5	0.0	
6月23日	22.7	26.5	20.6	0.1	0.0	
6月24日	26.5	31.9	22.0	7.7	0.0	
6月25日	29.3	35.3	25.4	13.2	0.0	
6月26日	28.6	36.0	23.6	11.4	0.0	
6月27日	29.0	38.0	23.4	11.8	0.0	
6月28日	28.3	34.8	23.2	11.8	0.0	
6月29日	29.7	36.7	24.5	11.9	0.0	
6月30日	29.9	35.8	24.3	12.8	0.0	中葉収穫
7月1日	29.7	36.8	23.7	12.5	0.0	
7月2日	29.8	36.4	25.6	11.9	0.0	
7月3日	28.4	35.2	24.4	6.6	0.0	
7月4日	26.8	30.3	24.5	0.4	0.0	
7月5日	26.7	32.2	23.3	2.9	0.0	
7月6日	24.6	29.0	22.5	2.7	0.0	
7月7日	24.4	28.1	21.7	3.8	0.0	
7月8日	24.8	30.0	21.6	8.1	0.0	
7月9日	25.1	31.5	20.4	6.8	0.0	
7月10日	26.8	33.0	22.5	5.9	0.0	
7月11日	26.6	32.7	23.1	10.8	0.0	
7月12日	24.7	28.6	22.7	0.1	4.0	
7月13日	23.4	25.4	22.5	0.0	16.5	
7月14日	23.2	25.6	22.1	0.2	2.0	
7月15日	23.5	25.3	22.4	0.0	27.0	
7月16日	23.7	26.2	22.2	0.0	2.0	
7月17日	25.5	29.8	22.1	3.2	3.5	
7月18日	27.5	32.8	23.0	6.7	0.0	
7月19日	26.8	29.9	24.1	0.9	0.0	
7月20日	28.1	33.5	23.6	4.8	0.0	
7月21日	27.0	31.8	23.5	4.8	0.0	
7月22日	28.3	33.7	25.5	3.7	0.0	
7月23日	28.8	35.8	24.5	9.3	0.0	
7月24日	28.0	33.4	23.8	10.3	0.0	
7月25日	29.5	35.4	24.9	9.7	0.0	
7月26日	26.7	29.1	25.2	0.0	51.0	
7月27日	29.2	33.7	25.3	8.7	0.0	上葉収穫

表ー2 官能検査

供試着位	調査結果
中葉	ビーラム粒剤 20kg/10a、移植2日前の作条土壌混和で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ビーラム粒剤 20kg/10a、移植2日前の作条土壌混和で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	二宮 基史、泉 拓夫、久保田 健志、大場 康裕、梶原 洋樹、宮元 守、上大田 隆司、福島 章太郎、中島 俊充、岩佐 央基、松野 美里、細川 花栄、菅野 英斗、大坪 克実、柿原 匡佑、中村 祐哉、山田 菜、市村 碧斗、藤原 一樹、熊田 裕信、米倉 佳蓮、陳 之昂、小林 正和、久見木 隼人、山本 将史、森田 貴文、家常 祐弥、福田 竜也、北村 祥一、下川 和馬、井上 琢也、小暮 謙仁

1 試験対象 官能検査

- 2 供試器材 ビーラム粒剤(バイエルクロップサイエンス)
 ・有効成分 フルオピラム 0.50%
 ・Lot No. 25.10PD21K000085440

- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:柿原)

- 4 試料採取場所 宮崎県宮崎市

5 試験方法

- 1) 供試品種 第1黄色種 JT-黄色80

2) 試験区別及び供試面積

試験区別	区 別	濃 度	処 理 量	処理回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	1.8 a
2 区	ビーラム粒剤	—	20 kg/10a	作条土壌混和 1回	2.4 a

3) 処理方法

2区は、2月28日(移植12日前)に、手作業で畦立予定の土壌表面に所定量の試験剤を作条に散布した。その後、成畦被覆機を用いて土壌と混和しながら畦立し被覆した。

4) 試験ほ地の概要

地 目	地 勢	土壌種類	土 性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	赤ホヤ	壤土	30 ^{cm}	良

5) 栽培概要

- (1)施肥量 N :8.4、P2O5 :16.8、K2O :21
 (2)畦株間距離 118cm×40cm (2,119本/10a)
 (3)被覆方法 折衷マルチ(透明、全期間)
 (4)移植月日 2023年3月12日
 (5)土寄月日 2023年4月3日
 (6)心止月日 2023年5月9日

6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農薬名	濃度	施用量	施用月日
各区共通	アドマイヤー水和剤	2,000倍	84 L/10a	4月4日
各区共通	トレボン乳剤	1,000倍	84 L/10a	4月13日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	16 L/10a	4月18日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	16 L/10a	4月28日
各区共通	ベルコート水和剤	1,000倍	90 L/10a	5月2日
各区共通	テルスター水和剤	1,500倍	90 L/10a	5月3日
各区共通	イエローリボンS乳剤	50倍	24 L/10a	5月10日
各区共通	ナイスカップル水和剤	1,000倍	100 L/10a	5月23日
各区共通	イエローリボンS乳剤	50倍	24 L/10a	6月2日
各区共通	ポリオキシシンAL水和剤	2,500倍	100 L/10a	6月7日
各区共通	オラクル顆粒水和剤	2,000倍	100 L/10a	6月26日

7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬剤処理※		試料採取		薬剤処理から収穫まで		
		月日	天候	月日	天候	日数 日	降水日数 日	降水量 mm
中葉	各区共通	2月28日	晴	5月22日	晴	83	31	509.5
上葉	各区共通	2月28日	晴	7月17日	晴	139	58	1,535.0

※1区は薬剤処理なし。

8) 収穫後の処理方法 西日本原料本部において小型乾燥機を用い慣行乾燥した。

9) 官能検査 2023年11月8日から11月22日の間、西日本原料本部において調査した。

6 試験成績

表－1 薬剤処理から試料採取までの気象表（田野アメダスポイント）

月日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
3月上旬	11.2	21.5	0.1	79.1	11.0	薬剤処理:2月28日
3月中旬	13.1	22.9	1.8	57.5	63.5	
3月下旬	14.9	24.1	7.0	31.9	118.5	
4月上旬	15.3	22.6	3.9	50.6	92.0	
4月中旬	17.2	27.6	8.9	57.0	54.0	
4月下旬	15.6	22.1	7.1	45.6	71.0	
5月上旬	17.8	25.1	7.2	64.8	38.0	
5月中旬	19.3	30.5	10.8	65.8	59.0	中葉収穫:5月22日
5月下旬	21.0	32.1	12.0	70.9	32.0	

表－1 薬剤処理から試料採取までの気象表（田野アメダスポイント）続き

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘 要
上葉収穫区						
3月上旬	11.2	21.5	0.1	79.1	11.0	薬剤処理:2月28日
3月中旬	13.1	22.9	1.8	57.5	63.5	
3月下旬	14.9	24.1	7.0	31.9	118.5	
4月上旬	15.3	22.6	3.9	50.6	92.0	
4月中旬	17.2	27.6	8.9	57.0	54.0	
4月下旬	15.6	22.1	7.1	45.6	71.0	
5月上旬	17.8	25.1	7.2	64.8	38.0	
5月中旬	19.3	30.5	10.8	65.8	59.0	
5月下旬	21.0	32.1	12.0	70.9	32.0	
6月上旬	20.5	29.9	15.1	37.4	496.0	
6月中旬	22.1	29.9	17.1	32.6	107.0	
6月下旬	25.4	33.1	18.7	46.9	35.0	
7月上旬	26.7	34.2	20.9	32.1	351.5	
7月中旬	27.9	34.5	22.6	67.6	9.0	上葉収穫:7月17日

表－2 官能検査

供試着位	調査結果
中葉	ビーラム粒剤、20kg/10a、植付前の作条土壌混和处理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ビーラム粒剤、20kg/10a、植付前の作条土壌混和处理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	二宮基史、宮元守、小島慎之介、本晃伸、梶原洋樹、北村祥一、下窪修平、張モウジ、吉田謙造、壬生蓮花

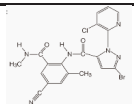
農薬試験成績書審査

資 材 名	ベリマークSC
審査依頼成績書	薬効・薬害（ハリガネムシ）：2024年度実施1件 薬効・薬害（ネキリムシ）：2024年度実施2件
審査依頼試験成績書を適正と判断する理由	審査依頼された試験成績書は、当財団の定めるたばこ耕作資材試験実施要領に基づき実施され、記載されていることから、薬効・薬害の試験結果を確認する成績書として適正であると判断する。
本成績書の結果の概要	ベリマークSC 400倍希釈液 1回 苗床散布のハリガネムシ及びネキリムシ防除効果は認められた。薬害の発生は認められなかった。
備考	

農 薬 試 験 成 績 書 審 査 依 頼 書

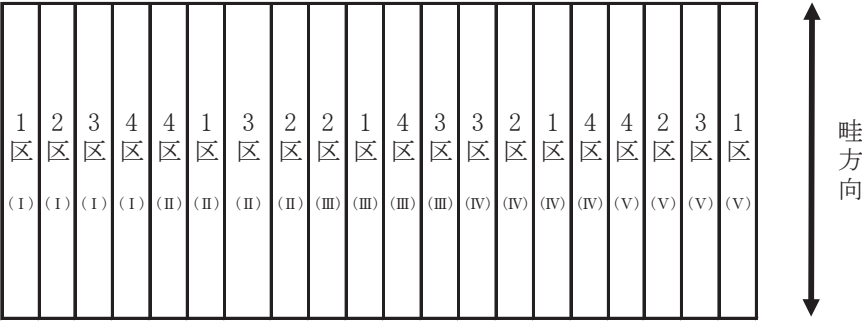
住 所 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1
会社名 エフエムシー・ケミカルズ株式会社

次のとおり審査を依頼いたします。

品 名（旧名称）	ベリマークSC	
製 造 元 (住所・会社名)	東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビル 8階 エフエムシー・ケミカルズ株式会社	
農薬登録済内容 (申請中を含む)	https://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/Verimark を参照して下さい。	
本 農 薬 の 特 徴	ジアミド系殺虫剤。チョウ目、コウチュウ目、ハエ目のほかアザミウマ、アブラムシ、コナジラミ等の吸汁害虫にも効果を示す。	
成分組成	1) 主 成 分 (物質名・構造式・含有率)	シアントラニプロール 18.7% 
	2) 助 剤 (物質名・含有率)	界面活性剤 5.0% その他の成分 75.7 %
理化学的 性状	1) 物 理 性	pKa:8.80-8.87 (20℃) logPow:1.94±0.11 (22℃)
	2) 化 学 性	https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000938299.pdf を参照して下さい。
	3) 毒 性	○人畜毒性 ○水産動植物に対する影響 普通物相当
既往の 成績	1) タ バ コ	なし
	2) 他 作 物	トマトをはじめ果菜類、葉菜類、根菜類などで多数登録済み
審査依頼 の内容	試験種類及び試験数	薬効・薬害 3 (ハリガネムシ:2 ネキリムシ:1)
	試験実施年	2024年
	試験実施機関	JT
備 考 (添付資料)	・技術説明書（添付資料）の内訳… https://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/Verimark/special を参照してください。	

- 1 試験対象 ハリガネムシ(薬効・薬害)
- 2 供試器材 ベリマークSC(エフエムシーケミカルズ)
 ・有効成分 シアントラニリプロール 18.7%
 ・Lot No. NOV22JC003
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当者:杵渕 竜介)
- 4 試験実施場所 岩手県岩手郡岩手町
- 5 試験方法
- 1) 供試品種 第1バーレー種 バーレー21
- 2) 試験区別
- 1区 無処理
- 2区 ベリマークSC 400倍 3L/m² 1回 苗床茎葉散布(移植7日前散布)
- 3区 ベリマークSC 400倍 3L/m² 1回 苗床茎葉散布(移植当日散布)
- 4区 ○ ダイアジノン粒剤 6kg/10a 1回 作条土壌混和
- 3) 供試面積 各区 2.5a(0.5a×5反復) 合計 10.0a

【試験区配置図】



- 4) 処理方法・時期
- 2区は移植7日前に、3区は移植当日に、所定所要量の薬液を苗床茎葉散布にて処理した。
- 4区は4月15日に畦立て時に作条土壌混和によって処理した。
- 5) 調査方法・時期
- たばこ耕作試験実施要領に基づき、4月27日(本畑移植3日後)、5月1日(本畑移植7日後)、5月8日(本畑移植14日後)に薬効及び薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌 種類	土性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	褐色森林土	埴土	20 ^{cm}	良

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日 3月17日	月日 4月4日	月日 4月16日	月日 4月24日	-	月日 -	折衷 高畦

8) 対象病害の発生状況

試験期間中、ハリガネムシの被害は軽微であった。

9) その他病害虫の発生状況

ケラ、ネキリムシ等の発生がみられたが、試験への影響はなかった。

6 試験成績

表ー1 処理後の気象(好摩アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水 量	備考
4月16日	℃ 16.0	℃ 22.6	℃ 9.5	h 1.2	mm 0.0	ダイアジノン粒剤処理
17	13.2	19.3	7.8	0.8	0.0	ベリマークSC移植7日前散布
18	13.1	20.4	5.2	7.4	0.0	
19	12.0	16.1	8.7	1.1	0.0	
20	12.4	17.2	7.9	8.5	0.0	
21	12.1	20.4	3.1	10.3	0.0	
22	12.0	20.6	1.9	12.9	0.0	
23	13.2	20.8	7.4	7.3	0.0	
24	13.8	17.7	10.3	0.2	4.5	ベリマークSC移植当日散布、移植
25	13.7	17.6	11.5	4.0	11.5	
26	17.4	24.8	10.3	10.0	0.0	
27	18.9	28.6	9.1	10.9	0.0	薬効薬害調査1回目(移植3日後)
28	18.9	27.5	10.6	11.2	0.0	
29	17.2	25.8	8.7	9.8	0.0	
30	15.9	20.8	13.4	0.2	7.0	
5月1日	12.4	19.3	4.5	7.2	0.0	薬効薬害調査2回目(移植7日後)
2	13.2	23.0	2.0	12.8	0.0	
3	14.1	21.4	7.1	13.2	0.0	
4	15.5	27.7	3.8	13.1	0.0	
5	18.2	30.3	5.7	10.7	0.0	
6	18.4	22.5	12.5	0.0	0.0	
7	16.9	18.5	15.7	0.1	5.5	
8	11.3	16.2	7.7	3.8	0.0	薬効薬害調査3回目(移植14日後)

表ー2 ハリガネムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度	防除効果 (%)	薬害
				0	1	3	5			
4月 27日	1区 無処理	I	106	106	0	0	0	0.0	—	—
		II	107	107	0	0	0	0.0		
		III	107	107	0	0	0	0.0		
		IV	107	107	0	0	0	0.0		
		V	107	107	0	0	0	0.0		
		合計	534	534	0	0	0	0.0		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	110	110	0	0	0	0.0	—	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	109	109	0	0	0	0.0		
		合計	549	549	0	0	0	0.0		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	110	110	0	0	0	0.0	—	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	550	0	0	0	0.0		
	○4区 ダイアジノン 粒剤	I	110	110	0	0	0	0.0	—	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	550	0	0	0	0.0		
5月 1日	1区 無処理	I	106	106	0	0	0	0.0	—	—
		II	107	107	0	0	0	0.0		
		III	107	107	0	0	0	0.0		
		IV	107	107	0	0	0	0.0		
		V	107	107	0	0	0	0.0		
		合計	534	534	0	0	0	0.0		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	110	110	0	0	0	0.0	—	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	109	109	0	0	0	0.0		
		合計	549	549	0	0	0	0.0		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	110	110	0	0	0	0.0	—	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	550	0	0	0	0.0		
	○4区 ダイアジノン 粒剤	I	110	110	0	0	0	0.0	—	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	550	0	0	0	0.0		

表－2 ハリガネムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度	防除効果 (%)	薬害
				0	1	3	5			
5月 8日	1区 無処理	I	106	102	2	2	0	1.5	—	—
		II	107	104	1	2	0	1.3		
		III	107	104	2	1	0	0.9		
		IV	107	104	1	2	0	1.3		
		V	107	104	2	1	0	0.9		
		合計	534	518	8	8	0	1.20		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	110	110	0	0	0	0.0	97.0	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	109	108	1	0	0	0.2		
		合計	549	548	1	0	0	0.04		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	110	110	0	0	0	0.0	97.0	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	109	1	0	0	0.2		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	549	1	0	0	0.04		
	○4区 ダイアジノン 粒剤	I	110	110	0	0	0	0.0	100.0	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	110	110	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	550	0	0	0	0.0		

注1) 以下の基準・計算式で、被害指数の判定、防除効果の算出を行った。

被害指数0:順調に生育する。指数1:一部の葉が萎凋し、生育がやや劣る。

指数3:全葉が萎凋する。やがて回復するが、生育著しく劣る。

指数5:全葉が完全に萎凋し、回復しない。やがて枯死する。

$$\text{被害程度} = \frac{\Sigma (\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

$$\text{防除効果}(\%) = \frac{\text{無処理区の被害程度} - \text{処理区の被害程度}}{\text{無処理区の被害程度}} \times 100$$

7 結果の要約

本畑移植7日前及び移植当日のベリマークSC 400倍 3L/㎡ 各1回の苗床茎葉散布のハリガネムシ防除効果は高かった。

その効果は対照剤である、ダイアジノン粒剤6kg/10a 1回作条土壌混和処理と比較して同等であった。

薬害の発生は認められなかった。

- 1

試験対象

ネキリムシ(薬効・薬害)
- 2

供試器材

ベリマークSC(エフエムシーケミカルズ)

・有効成分

シアントラニリプロール 18.7%

・Lot No.

NOV22JC003
- 3

試験実施機関

日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当者:熊田 裕信)
- 4

試験実施場所

岩手県九戸郡軽米町
- 5

試験方法

1) 供試品種

第1バーレー種 JT-バーレー19

2) 試験区別

1区

無処理

2区

ベリマークSC 400倍 3L/m² 1回 苗床茎葉散布(移植7日前散布)

3区

ベリマークSC 400倍 3L/m² 1回 苗床茎葉散布(移植当日散布)

4区

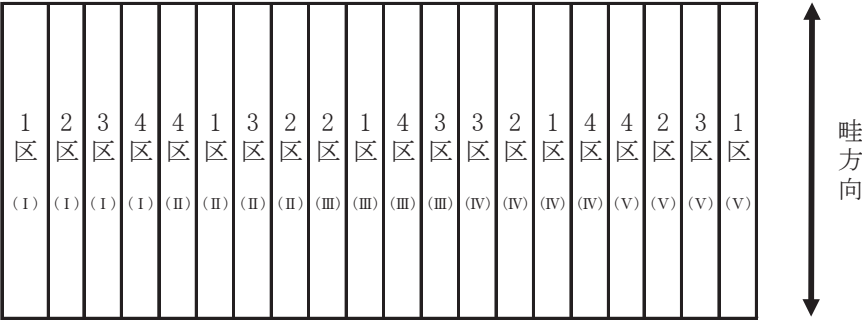
○ オルトラン粒剤 6kg/10a 1回 作条土壌混和

3) 供試面積

各区 2.5a(0.5a×5反復)

合計 10.0a

【試験区配置図】



- 4)

処理方法・時期

2区は移植7日前に、3区は移植当日に、所定量の薬液を苗床茎葉散布にて処理した。

4区は4月16日の畦立て時に作条土壌混和によって処理した。
- 5)

調査方法・時期

たばこ耕作試験実施要領に基づき、4月27日(本畑移植3日後)、5月1日(本畑移植7日後)、5月8日(本畑移植14日後)に薬効及び薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
畑	平坦	褐色森林土	埴土	30 ^{cm}	良

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・畦立て	移植	マルチ除去	心止	栽培形式
月日 3月20日	月日 4月4日	月日 4月16日	月日 4月24日	-	月日 -	折衷高畦

8) 対象病害の発生状況

試験期間中、ネキリムシの被害は軽微であった。

9) その他病害虫の発生状況

ケラ、ハリガネムシ等の発生がみられたが、試験への影響はなかった。

6 試験成績

表ー1 処理後の気象(軽米町アメダスポイント)

年月日	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
4月16日	15.7	24.0	4.8	3.4	0.0	オルトラン粒剤処理
17	11.9	18.3	7.5	0.8	9.5	ベリマークSC移植7日前散布
18	11.2	18.4	4.7	5.8	0.0	
19	11.4	15.5	9.3	1.0	0.0	
20	10.7	14.5	6.8	11.7	0.0	
21	10.3	18.3	3.0	11.1	0.0	
22	8.0	16.5	0.4	11.5	0.0	
23	8.7	15.3	0.5	3.4	0.0	
24	13.1	18.2	9.8	2.0	4.0	ベリマークSC移植当日散布、移植
25	13.4	18.6	11.4	1.5	5.0	
26	17.2	25.3	10.7	10.4	0.0	
27	17.3	30.0	7.6	11.4	0.0	薬効薬害調査1回目(移植3日後)
28	16.2	26.1	7.1	12.8	0.0	
29	13.5	20.6	7.5	12.8	0.0	
30	14.3	19.0	10.6	0.0	1.5	
5月1日	10.3	17.0	2.0	8.6	0.0	薬効薬害調査2回目(移植7日後)
2	10.0	20.4	-0.6	13.2	0.0	
3	13.5	21.5	2.4	13.3	0.0	
4	15.1	25.0	6.7	13.0	0.0	
5	17.3	29.2	5.0	10.6	0.0	
6	17.5	23.2	12.4	0.0	0.0	
7	17.7	20.6	13.2	0.5	2.0	
8	9.5	14.8	6.4	2.5	1.0	薬効薬害調査3回目(移植14日後)

表－2 ネキリムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度	防除効果 (%)	薬害
				0	1	2	5			
4月 27日	1区 無処理	I	116	116	0	0	0	0.0	－	－
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	580	0	0	0	0.0		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	116	116	0	0	0	0.0	－	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	580	0	0	0	0.0		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	116	116	0	0	0	0.0	－	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	580	0	0	0	0.0		
	○4区 オルトラン粒剤	I	116	116	0	0	0	0.0	－	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	580	0	0	0	0.0		
5月 1日	1区 無処理	I	116	111	4	1	0	1.0	－	－
		II	116	115	0	1	0	0.3		
		III	116	115	1	0	0	0.2		
		IV	116	113	3	0	0	0.5		
		V	116	114	1	1	0	0.5		
		合計	580	568	9	3	0	0.52		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	116	116	0	0	0	0.0	100.0	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	580	0	0	0	0.0		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	116	115	1	0	0	0.2	94.2	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	579	1	0	0	0.03		
	○4区 オルトラン粒剤	I	116	115	1	0	0	0.2	94.2	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	579	1	0	0	0.03		

表－2 ネキリムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度	防除効果 (%)	薬害
				0	1	2	5			
5月 8日	1区 無処理	I	116	109	4	1	2	2.8	—	—
		II	116	113	0	2	1	1.6		
		III	116	115	1	0	0	0.2		
		IV	116	113	3	0	0	0.5		
		V	116	110	1	2	3	3.4		
		合計	580	560	9	5	6	1.69		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	116	116	0	0	0	0.0	100.0	なし
		II	116	116	0	0	0	0.0		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	580	0	0	0	0.0		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	116	115	1	0	0	0.2	89.9	なし
		II	116	114	0	2	0	0.7		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	116	0	0	0	0.0		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	577	1	2	0	0.17		
	○4区 オルトラン粒剤	I	116	115	1	0	0	0.2	85.8	なし
		II	116	113	2	1	0	0.7		
		III	116	116	0	0	0	0.0		
		IV	116	115	0	1	0	0.3		
		V	116	116	0	0	0	0.0		
		合計	580	575	3	2	0	0.24		

注1) 以下の基準・計算式で、被害指数の判定、防除効果の算出を行った。

被害指数0:食害なし、指数1:下位葉1, 2枚の10%未満が食害される

指数2:下位葉1, 2枚の10%以上、あるいは茎の一部が食害される

指数5:茎が切断される

被害程度 =
$$\frac{\sum (\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

防 除 効 果 (%) =
$$\frac{\text{無処理区の被害程度} - \text{処理区の被害程度}}{\text{無処理区の被害程度}} \times 100$$

7 結果の要約

本畑移植7日前のベリマークSC 400倍 3L/㎡ 1回の苗床茎葉散布のネキリムシ防除効果は高かった。

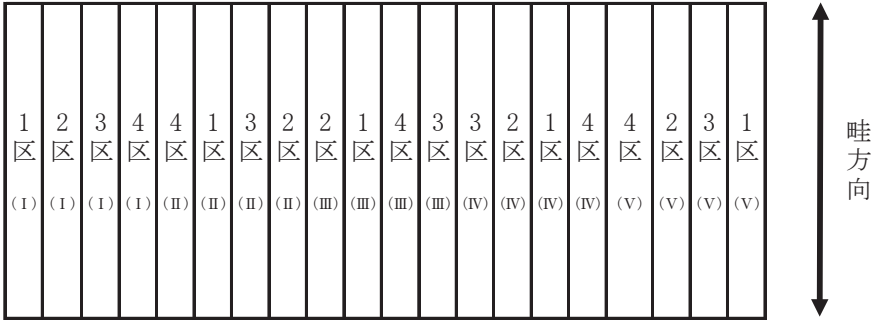
また、移植当日のベリマークSC 400倍3L/㎡ 1回の苗床茎葉散布のネキリムシ防除効果は認められた。

その効果は対照剤である、オルトラン粒剤6kg/10a 1回作条土壌混和处理と比較して、移植7日前散布は効果が優り、移植当日散布の効果は同等であった。

薬害の発生は認められなかった。

- 1 試験対象 ネキリムシ(薬効・薬害)
- 2 供試器材 ベリマークSC(エフエムシーケミカルズ)
 ・有効成分 シアントラニプロール 18.7%
 ・Lot No. NOV22JC003
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当者:家常 祐弥)
- 4 試験実施場所 秋田県仙北市
- 5 試験方法
- 1) 供試品種 第1バーレー種 たいへい
- 2) 試験区別
- 1区 無処理
- 2区 ベリマークSC 400倍 3L/m² 1回 苗床茎葉散布(移植7日前散布)
- 3区 ベリマークSC 400倍 3L/m² 1回 苗床茎葉散布(移植当日散布)
- 4区 ○ オルトラン粒剤 6kg/10a 1回 作条土壌混和
- 3) 供試面積 各区 2.5a(0.5a×5反復) 合計 10.0a

【試験区配置図】



- 4) 処理方法・時期
- 2区は移植7日前に、3区は移植当日に、所定量の薬液を苗床茎葉散布にて処理した。
- 4区は4月15日に畦立て時の作条土壌混和によって処理した。
- 5) 調査方法・時期
- たばこ耕作試験実施要領に基づき、4月27日(本畑移植3日後)、5月1日(本畑移植7日後)、5月8日(本畑移植14日後)に薬効及び薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌 種類	土性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	褐色森林土	埴土	cm 20	良

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日 3月16日	月日 4月6日	月日 4月15日	月日 4月24日	-	月日 -	折衷 高畦

8) 対象病害の発生状況

試験期間中、ネキリムシの被害は軽微であった。

9) その他病害虫の発生状況

ケラ、ハリガネムシ等の発生がみられたが、試験への影響はなかった。

6 試験成績

表ー1 処理後の気象(角館アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水 量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
4月15日	17.0	29.0	6.1	12.4	0.0	オルトラン粒剤処理
16	15.5	25.1	10.1	2.2	1.5	
17	12.9	16.1	10.3	0.2	2.5	ベリマークSC移植7日前散布
18	13.3	19.2	9.3	5.4	0.0	
19	10.8	15.0	8.8	1.5	0.5	
20	9.7	14.5	4.0	5.6	0.0	
21	10.1	18.9	3.1	9.4	0.0	
22	14.8	24.9	4.0	12.1	0.0	
23	15.0	22.3	7.4	11.2	0.0	
24	14.1	18.3	8.1	2.6	9.0	ベリマークSC移植当日散布、移植
25	11.7	13.3	10.1	0.0	20.0	
26	15.3	23.1	9.0	11.4	1.0	
27	17.3	29.8	9.0	9.7	0.0	薬効薬害調査1回目(移植3日後)
28	15.7	24.8	8.0	13.0	0.0	
29	17.5	26.9	8.4	9.7	0.0	
30	15.4	18.6	11.5	0.0	6.0	
5月1日	11.5	17.8	6.9	7.5	0.0	薬効薬害調査2回目(移植7日後)
2	12.5	22.6	3.8	13.1	0.0	
3	12.8	19.8	3.8	12.9	0.0	
4	15.4	24.4	7.8	13.2	0.0	
5	18.2	29.6	7.1	12.3	0.0	
6	17.9	23.5	13.3	0.0	0.0	
7	15.3	16.8	13.0	0.0	19.5	
8	9.5	13.8	7.5	0.7	0.0	薬効薬害調査3回目(移植14日後)

表ー2 ネキリムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度	防除効果 (%)	薬害
				0	1	2	5			
4月 27日	1区 無処理	I	111	110	1	0	0	0.2	—	—
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	109	107	1	1	0	0.6		
		IV	111	109	0	0	2	1.8		
		V	109	107	2	0	0	0.4		
		合計	550	543	4	1	2	0.58		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	109	109	0	0	0	0.0	87.9	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	111	111	0	0	0	0.0		
		IV	110	109	0	1	0	0.4		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	549	0	1	0	0.07		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	109	109	0	0	0	0.0	100.0	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	111	111	0	0	0	0.0		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	550	0	0	0	0.0		
	○4区 オルトラン粒剤	I	110	110	0	0	0	0.0	87.9	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	111	109	2	0	0	0.4		
		IV	111	111	0	0	0	0.0		
		V	111	111	0	0	0	0.0		
		合計	553	551	2	0	0	0.07		
5月 1日	1区 無処理	I	111	107	4	0	0	0.7	—	—
		II	110	108	2	0	0	0.4		
		III	109	103	5	1	0	1.3		
		IV	111	102	7	0	2	3.1		
		V	109	95	14	0	0	2.6		
		合計	550	515	32	1	2	1.60		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	109	109	0	0	0	0.0	81.9	なし
		II	110	110	0	0	0	0.0		
		III	111	109	2	0	0	0.4		
		IV	110	108	1	0	1	1.1		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	546	3	0	1	0.29		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	109	109	0	0	0	0.0	81.9	なし
		II	110	108	2	0	0	0.4		
		III	111	107	4	0	0	0.7		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	108	2	0	0	0.4		
		合計	550	542	8	0	0	0.29		
	○4区 オルトラン粒剤	I	110	109	1	0	0	0.2	25.6	なし
		II	110	108	2	0	0	0.4		
		III	111	103	5	1	2	3.1		
		IV	111	106	5	0	0	0.9		
		V	111	104	6	1	0	1.4		
		合計	553	530	19	2	2	1.19		

表ー2 ネキリムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度	防除効果 (%)	薬害
				0	1	2	5			
5月 8日	1区 無処理	I	111	105	2	4	0	1.8	—	—
		II	110	107	1	1	1	1.5		
		III	109	101	6	1	1	2.4		
		IV	111	102	7	0	2	3.1		
		V	109	95	12	0	2	4.0		
		合計	550	510	28	6	6	2.55		
	2区 ベリマークSC (7日前散布)	I	109	109	0	0	0	0.0	84.3	なし
		II	110	109	1	0	0	0.2		
		III	111	108	2	1	0	0.7		
		IV	110	108	1	0	1	1.1		
		V	110	110	0	0	0	0.0		
		合計	550	544	4	1	1	0.40		
	3区 ベリマークSC (当日散布)	I	109	109	0	0	0	0.0	75.7	なし
		II	110	104	2	4	0	1.8		
		III	111	107	4	0	0	0.7		
		IV	110	110	0	0	0	0.0		
		V	110	107	3	0	0	0.5		
		合計	550	537	9	4	0	0.62		
	○4区 オルトラン粒剤	I	110	106	1	3	0	1.3	38.8	なし
		II	110	107	2	1	0	0.7		
		III	111	103	5	1	2	3.1		
		IV	111	106	5	0	0	0.9		
		V	111	103	6	2	0	1.8		
		合計	553	525	19	7	2	1.56		

注1) 以下の基準・計算式で、被害指数の判定、防除効果の算出を行った。

被害指数0: 食害痕なし、指数1: 下位葉1, 2枚の10%未満が食害される
指数2: 下位葉1, 2枚の10%以上、あるいは茎の一部が食害される
指数5: 茎が切断される

被害程度 =
$$\frac{\sum (\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

防 除 効 果 (%) =
$$\frac{\text{無処理区の被害程度} - \text{処理区の被害程度}}{\text{無処理区の被害程度}} \times 100$$

7 結果の要約

本畑移植7日前及び移植当日のベリマークSC 400倍 3L/㎡ 各1回の苗床茎葉散布のネキリムシ防除効果は認められた。

その効果は対照剤であるオルトラン粒剤6kg/10a 1回作条土壌混和処理と比較して優った。
薬害の発生は認められなかった。


農薬試験成績書審査

資 材 名	ロムダンフロアブル
審査依頼 成績書	薬効・薬害（ヨトウムシ）：2024年度実施2件 官能検査：2023年度実施2件、2024年度実施1件
審査依頼試験成績書を 適正と判断 する理由	審査依頼された試験成績書は、当財団の定めるたばこ耕作資材試験実施要領に基づき実施され、記載されていることから、薬効・薬害及び官能検査の試験結果を確認する成績書として適正であると判断する。
本成績書の 結果の概要	薬効・薬害：ロムダンフロアブル 2,000倍希釈 1回 茎葉散布のヨトウムシ防除効果は認められた。薬害の発生は認められなかった。 官能検査：収穫14日前および7日前のロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 2回茎葉散布で喫味に影響は認められなかった。
備考	

農 薬 試 験 成 績 書 審 査 依 頼 書

住 所 〒100-7010 東京都千代田区丸の内2-7-2
会社名 日本曹達株式会社

次のとおり審査を依頼いたします。

品 名	ロムダンフロアブル
製 造 元 (住所・会社名)	東京都千代田区丸の内二丁目7番2号 日本曹達株式会社
農薬登録済内容 (申請中を含む)	登録票(写)、登録申請書の第8項(写)、畑作の土壌残留分析結果資料を添付します
本 農 薬 の 特 徴	殺虫剤でチョウ目害虫のみに有効で遅効的です
成分組成	1) 主 成 分 (物質名・構造式・含有率) テブフェノジド【 <i>N-tert-ブチル-N'-(4-エチルベンゾイル)-3,5-ジメチルベンゾヒドラジド</i> 】、含有率20.0% 
	2) 助 剤 (物質名・含有率) エチレングリコール6.3%、スルホコハク酸ジ-2-エチルヘキシルナトリウム0.49%、1,2-プロパンジオール0.105%、その他は企業秘密のため記載しません
理化学的 性状	1) 物 理 性 類白色水性和性粘稠懸濁液体
	2) 化 学 性 土壌残留性は散布当日に最大残留値を確認。その後経時的に減少。推定半減期は6～9日であった。
	3) 毒 性 LD50経口（ラット）：> 5000 mg/kg。皮膚・眼刺激性：区分該当しない コイの96時間LC50 > 200 mg/L、オオミジンコの48時間EC50 = 2.3 mg/L、 藻類の72時間ErC50 > 1000 mg/L
既往の 成績	1) タ バ コ 無し
	2) 他 作 物 ニンジン/ヨトウムシ成績概評を添付します
審査依頼 の内容	試験種類及び試験数 官能検査3件、薬効薬害試験(ヨトウムシ)2件
	試験実施年 2023年、2024年
	試験実施機関 日本たばこ産業株式会社、福島県農業総合センター
備 考 (添付資料)	テブフェノジド特許、②ロムダンフロアブル登録票、③ロムダンフロアブル申請書第8項、④ロムダンフロアブル畑地の土壌残留分析結果、⑤ロムダンフロアブルニンジンヨトウムシ成績概評、⑥2023_East_官能_ロムダン、⑦2023_West_官能_ロムダン、⑧2024_West_官能_ロムダン、⑨2024_薬効薬害_ロムダン_ヨトウムシ

- 1

試験対象

ヨトウムシ(薬効・薬害)

・対象病害虫

ヨトウムシ(*Mamestra brassicae*)
- 2

供試器材

ロムダンフロアブル(日本曹達株式会社)

・有効成分

テブフェノジド 20.0%

・Lot No.

HCL-023SK
- 3

試験実施機関

福島県農業総合センター(担当者:大寺 真史)
- 4

試験実施場所

福島県郡山市(センター内圃場)
- 5

試験方法

1)

供試品種

第1バーレー種 たいへい

2)

試験区別

1区

無処理

2区

ロムダンフロアブル

2,000倍希釈

180L/10a

1回

茎葉散布

3区

○ オルトラン水和剤

1,500倍希釈

180L/10a

1回

茎葉散布

3)

供試面積

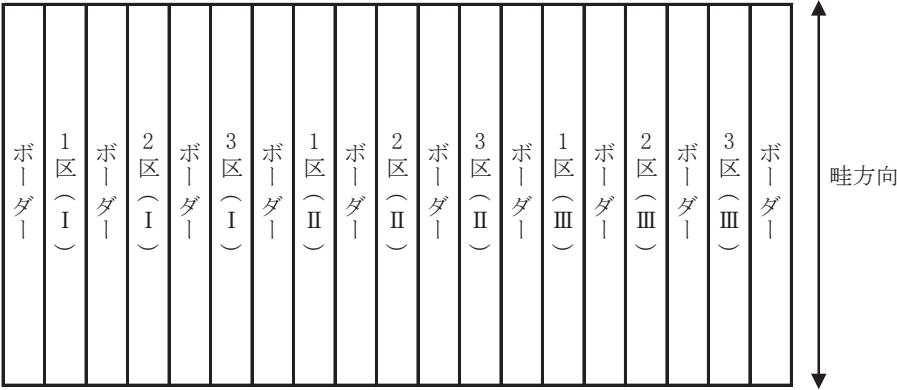
各区

0.6a(0.2a×3反復)

合計

1.8a

【試験区配置図】



- 4)

処理方法・時期

2区及び3区は、7月1日に背負式動力噴霧器で、所定濃度及び所定量の薬剤を全葉の表裏にむらなく散布した
- 5)

調査方法・時期

ヨトウムシの発生が少なかったため、6月30日に3～4齢虫を1株当たり3頭ずつ放飼した。
たばこ耕作資材試験実施要領に基づき、6月30日(散布前日)、7月4日(薬剤散布3日後)、7月8日(薬剤散布7日後)、7月15日(薬剤散布14日後)の計4回の被害調査、7月4日、7月8日及び7月15日の計3回の薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	灰色低地土	壤土	30 ^{cm}	普通

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日 3月8日	月日 3月27日	月日 4月15日	月日 4月22日	-	月日 6月26日	折衷 マルチ

8) 対象病害の発生状況

ヨトウムシの自然発生が少なかったため、放飼試験を行った。

9) その他病害虫の発生状況

特になし

6 試験成績

表ー1 処理後の気象(郡山アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
6月30日	23.2	26.7	19.1	1.5	0.5	被害調査(散布前日)・ヨトウムシ放飼
7月1日	24.2	26.6	21.7	0.6	0.5	薬剤散布(散布5時間前に降雨)
2日	23.7	26.8	19.5	8.7	0.0	
3日	23.9	27.3	20.8	0.3	2.5	
4日	26.0	29.5	22.8	8.7	5.0	被害調査(散布3日後)
5日	26.9	32.8	22.2	10.9	18.5	
6日	25.1	27.0	22.9	1.2	2.0	
7日	27.7	33.7	22.6	11.3	0.5	
8日	25.8	28.8	23.2	0.0	7.0	被害調査(散布7日後)
9日	24.9	29.1	22.6	1.0	3.5	
10日	24.1	28.6	22.1	0.6	18.5	
11日	23.7	26.6	21.7	1.4	5.5	
12日	22.1	24.2	19.9	0.0	6.0	
13日	24.7	31.0	18.6	9.8	0.0	
14日	23.5	29.1	19.4	4.1	16.5	
15日	22.3	26.8	19.7	1.0	18.5	被害調査(散布14日後)

表－2 ヨトウムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度		防除効果 (%)	被害
				0	1	3	5	観察値	補正值		
6月 30日	1区 無処理	I	10	10	0	0	0	0.0		－	－
		II	10	10	0	0	0	0.0			
		III	10	10	0	0	0	0.0			
		合計	30	30	0	0	0	0.0	－		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	10	0	0	0	0.0		－	－
		II	10	10	0	0	0	0.0			
		III	10	10	0	0	0	0.0			
		合計	30	30	0	0	0	0.0	－		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	10	0	0	0	0.0		－	－
		II	10	10	0	0	0	0.0			
		III	10	10	0	0	0	0.0			
		合計	30	30	0	0	0	0.0	－		
7月 4日	1区 無処理	I	10	4	0	6	0	36.0		－	－
		II	10	0	6	4	0	36.0			
		III	10	1	6	3	0	30.0			
		合計	30	5	12	13	0	34.0	－		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	2	8	0	0	16.0		43.2	なし
		II	10	2	8	0	0	16.0			
		III	10	1	7	2	0	26.0			
		合計	30	5	23	2	0	19.3	－		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	5	5	0	0	10.0		66.8	なし
		II	10	4	6	0	0	12.0			
		III	10	4	6	0	0	12.0			
		合計	30	13	17	0	0	11.3	－		
7月 8日	1区 無処理	I	10	1	1	8	0	50.0		－	－
		II	10	0	2	8	0	52.0			
		III	10	0	5	4	1	44.0			
		合計	30	1	8	20	1	48.7	－		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	2	8	0	0	16.0		58.9	なし
		II	10	1	9	0	0	18.0			
		III	10	1	7	2	0	26.0			
		合計	30	4	24	2	0	20.0	－		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	3	7	0	0	14.0		68.6	なし
		II	10	1	9	0	0	18.0			
		III	10	3	7	0	0	14.0			
		合計	30	7	23	0	0	15.3	－		

表ー2 ヨトウムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度		防除効果 (%)	薬害
				0	1	3	5	観察値	補正值		
7月 15日	1区 無処理	I	10	0	1	2	7	84.0		-	-
		II	10	0	2	4	4	68.0			
		III	10	0	3	3	4	64.0			
		合計	30	0	6	9	15	72.0	-		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	1	9	0	0	18.0		70.4	なし
		II	10	0	10	0	0	20.0			
		III	10	1	7	2	0	26.0			
		合計	30	2	26	2	0	21.3	-		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	2	6	2	0	24.0		72.2	なし
		II	10	0	10	0	0	20.0			
		III	10	2	8	0	0	16.0			
		合計	30	4	24	2	0	20.0	-		

注1) 以下の基準・計算式で、被害指数の判定、防除効果の算出を行った。

被害指数0:無食害の株、あるいは軽度の食痕が1～2枚の葉に止まる。

被害指数1:1～3枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

被害指数3:4～8枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

あるいは激しく食害された葉(食害部が30%以上)が2、3枚認められる。

被害指数5:9枚以上の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる株、

激しく食害された葉(食害部が30%以上)が4枚以上認められる株、

あるいは心葉が激しく食害された株。

被害指数 =
$$\frac{\Sigma(\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

防 除 効 果 (%) =
$$\frac{\text{無処理区の被害程度} - \text{処理区の被害程度}}{\text{無処理区の被害程度}} \times 100$$

7 結果の要約

ロムダンフロアブル2,000倍の茎葉散布によるヨトウムシ防除効果は認められ、対照剤のオルトラン水和剤1,500倍希釈と効果は同等であった。

薬害の発生は認められなかった。

- 1

試験対象

ヨトウムシ(薬効・薬害)
・対象病害虫
ヨトウムシ(*Mamestra brassicae*)
- 2

供試器材

ロムダンフロアブル(日本曹達)
・有効成分
テブフェノジド 20.0%
・Lot No.
HCL-023SK
- 3

試験実施機関

日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:川村 壽柁)
- 4

試験実施場所

熊本県合志市 ひのくにふれあいセンター内圃場
- 5

試験方法

1)

供試品種

第1黄色種 JT-黄色80

2)

試験区別

1区

無処理

2区

ロムダンフロアブル

2,000倍希釈 180L/10a 1回 茎葉散布

3区

○ オルトラン水和剤

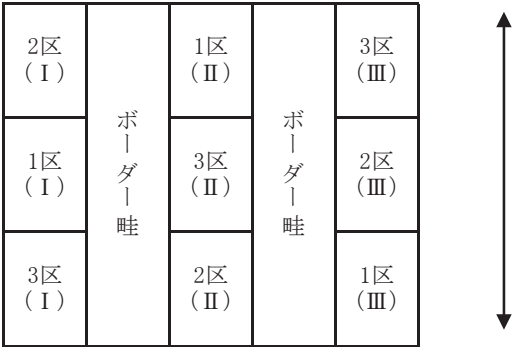
1,500倍希釈 180L/10a 1回 茎葉散布

3)

供試面積

各区 0.6a(0.2a×3反復) 合計 1.8a

【試験区配置図】



- 4)

処理方法・時期

2区及び3区は6月17日に背負式動力噴霧器で、所定濃度及び所定量の薬剤を全葉の表裏にむらなく散布した
- 5)

調査方法・時期

ヨトウムシの発生が少なかったため、6月16日に3～4齢虫を1株当たり3頭ずつ放飼した。
たばこ耕作資材試験実施要領に基づき、6月16日(散布前日)、6月20日(薬剤散布3日後)、6月24日(薬剤散布7日後)及び7月1日(薬剤散布14日後)の計4回の被害調査、6月20日、6月24日及び7月1日の計3回の薬害発生調査を行った。

6) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の 深さ	排水の 良否
畑	平坦	淡色黒ボク土	壤土	20 ^{cm}	良

7) 耕種概要

播種	仮植	施肥・ 畦立て	移植	マルチ 除去	心止	栽培 形式
月日 1月30日	月日 2月18日	月日 1月17日	月日 3月18日	-	月日 5月22日	折衷 マルチ

8) 対象病害の発生状況

ヨトウムシの自然発生が少なかったため、放飼試験を行った。

9) その他病害虫の発生状況

特になし

6 試験成績

表ー1 処理後の気象(菊池アメダスポイント)

年月日	平均 気温	最高 気温	最低 気温	日照 時間	降水量	備考
	℃	℃	℃	h	mm	
6月16日	25.7	30.2	22.1	6.1	0.0	被害調査(散布前日)・ヨトウムシ放飼
17日	23.2	28.4	18.6	0.4	22.5	薬剤散布(散布10時間後に降雨)
18日	23.6	30.5	18.6	8.9	36.5	
19日	24.4	31.2	17.5	9.1	0.0	
20日	21.2	22.8	20.0	0.0	60.0	被害調査(散布3日後)
21日	25.1	29.7	21.2	2.6	14.5	
22日	24.9	28.1	21.6	0.0	16.5	
23日	25.5	28.4	24.0	0.0	7.0	
24日	23.4	25.7	21.3	0.0	23.5	被害調査(散布7日後)
25日	22.6	25.7	21.0	0.0	8.5	
26日	22.5	24.3	20.6	0.0	2.0	
27日	22.6	24.1	21.4	0.0	62.0	
28日	23.5	24.6	22.9	0.0	92.5	
29日	24.9	28.5	22.6	0.0	7.5	
30日	27.1	31.3	24.0	1.1	3.5	
7月1日	25.3	27.8	23.4	0.0	52.5	被害調査(散布14日後)

表－2 ヨトウムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度		防除効果 (%)	被害
				0	1	3	5	観察値	補正值		
6月 16日	1区 無処理	I	10	10	0	0	0	0.0		－	－
		II	10	10	0	0	0	0.0			
		III	10	10	0	0	0	0.0			
		合計	30	30	0	0	0	0.0	－		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	10	0	0	0	0.0		－	－
		II	10	10	0	0	0	0.0			
		III	10	10	0	0	0	0.0			
		合計	30	30	0	0	0	0.0	－		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	10	0	0	0	0.0		－	－
		II	10	10	0	0	0	0.0			
		III	10	10	0	0	0	0.0			
		合計	30	30	0	0	0	0.0	－		
6月 20日	1区 無処理	I	10	3	3	4	0	30.0		－	－
		II	10	3	5	2	0	22.0			
		III	10	8	1	1	0	8.0			
		合計	30	14	9	7	0	20.0	－		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	7	3	0	0	6.0		36.5	なし
		II	10	2	6	2	0	24.0			
		III	10	8	1	1	0	8.0			
		合計	30	17	10	3	0	12.7	－		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	5	5	0	0	10.0		70.0	なし
		II	10	9	1	0	0	2.0			
		III	10	7	3	0	0	6.0			
		合計	30	21	9	0	0	6.0	－		
6月 24日	1区 無処理	I	10	1	1	8	0	50.0		－	－
		II	10	0	4	6	0	44.0			
		III	10	0	4	6	0	44.0			
		合計	30	1	9	20	0	46.0	－		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	5	5	0	0	10.0		65.2	なし
		II	10	2	6	2	0	24.0			
		III	10	5	4	1	0	14.0			
		合計	30	12	15	3	0	16.0	－		
	○3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	2	7	1	0	20.0		69.6	なし
		II	10	6	4	0	0	8.0			
		III	10	5	4	1	0	14.0			
		合計	30	13	15	2	0	14.0	－		

表－2 ヨトウムシ防除効果

調査 月日	試験区別	反復	調査 株数	被害指数別株数				被害程度		防除効果 (%)	薬害
				0	1	3	5	観察値	補正值		
7月 1日	1区 無処理	I	10	0	1	8	1	60.0		-	-
		II	10	0	3	5	2	56.0			
		III	10	0	2	8	0	52.0			
		合計	30	0	6	21	3	56.0	-		
	2区 ロムダンフ ロアブル 2,000倍	I	10	5	5	0	0	10.0		70.2	なし
		II	10	2	5	3	0	28.0			
		III	10	6	3	1	0	12.0			
		合計	30	13	13	4	0	16.7	-		
	3区 オルトラン 水和剤 1,500倍	I	10	2	7	1	0	20.0		72.7	なし
		II	10	5	5	0	0	10.0			
		III	10	4	5	1	0	16.0			
		合計	30	11	17	2	0	15.3	-		

注1) 以下の基準・計算式で、被害指数の判定、防除効果の算出を行った。

被害指数0: 無食害の株、あるいは軽度の食痕が1～2枚の葉に止まる。

被害指数1: 1～3枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

被害指数3: 4～8枚の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる。

あるいは激しく食害された葉(食害部が30%以上)が2、3枚認められる。

被害指数5: 9枚以上の葉に中程度の食痕(食害部が5～30%)が認められる株、

激しく食害された葉(食害部が30%以上)が4枚以上認められる株、

あるいは心葉が激しく食害された株。

$$\text{被害指数} = \frac{\Sigma (\text{被害指数} \times \text{株数})}{\text{調査株数} \times 5} \times 100$$

$$\text{防 除 効 果 (\%)} = \frac{\text{無処理区の被害程度} - \text{処理区の被害程度}}{\text{無処理区の被害程度}} \times 100$$

7 結果の要約

ロムダンフロアブル2,000倍の茎葉散布によるヨトウムシ防除効果は認められ、対照剤のオルトラン水和剤1,500倍希釈と効果は同等であった。

薬害の発生は認められなかった。

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 ロムダンフロアブル(日本曹達)
・有効成分 テブフェノジド(20.0%)
・Lot No. A2B01
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当者:熊田裕信)
- 4 試料採取場所 福島県郡山市 福島県農業総合センター所内圃場
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第1バーレー種 たいへい

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	対照区	—	—	—	1.77a
2 区	ロムダンフロアブル (中葉)	2,000倍	180L/10a	中葉収穫14日及び7 日前に茎葉散布	1.11a
3 区	ロムダンフロアブル (上葉)	2,000倍	180L/10a	上葉収穫14日及び7 日前に茎葉散布	1.11a

(3) 処理方法

2区は6月19日(中葉収穫14日前)及び6月26日(中葉収穫7日前)に、3区は7月21日(上葉収穫14日前)及び7月28日(上葉収穫7日前)に、背負式動力噴霧器を用いて、所定濃度及び所定量の薬液を葉の表裏にむらなく散布した。

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否	肥沃度	腐食の含量
畑	平坦	灰色 低地土	壤土	cm 30	やや否	中庸	普通

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量(kg/10a) N:14.0、P₂O₅:26.0、K₂O:34.0
- 2) 畦株間距離 130cm×33cm(2,331本/10a)
- 3) 被覆方法 折衷マルチ(シルバー、全期間)
- 4) 移植月日 2023年4月24日
- 5) 土寄月日 —
- 6) 心止月日 2023年6月26日

(6) 供試農薬以外に使用した薬剤
なし

(7) 試料採取

試料の 着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		薬剤処理から収穫までの		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中 葉	2区	6月19日	晴	7月3日	曇	14	7	101.0
		6月26日	晴のち雨			7	5	84.0
上 葉	3区	7月21日	曇	8月4日	晴	14	1	25.5
		7月28日	晴			7	1	25.5

(8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

(9) 官能検査 2024年1月9日から1月12日の間、東日本原料本部において調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月19日	21.2	26.4	16.0	10.0	0.0	2区に散布(収穫14日前)
6月20日	20.2	26.8	13.8	13.6	0.0	
6月21日	21.5	28.2	17.2	8.0	0.0	
6月22日	17.5	19.9	15.7	0.0	15.5	
6月23日	19.1	23.5	15.8	0.0	1.5	
6月24日	22.5	26.6	18.7	5.9	0.0	
6月25日	23.5	29.0	17.6	11.6	0.0	2区に散布(収穫7日前) *農薬散布10時間後に降雨
6月26日	23.7	29.4	20.3	5.4	1.5	
6月27日	23.8	26.9	21.2	0.2	0.0	
6月28日	23.1	30.5	20.7	1.6	68.5	
6月29日	24.3	28.0	19.7	8.6	3.0	
6月30日	23.3	26.0	21.2	0.0	7.0	
7月1日	24.3	27.6	22.0	0.2	4.0	
7月2日	25.5	32.4	20.9	10.7	0.0	
7月3日	23.9	27.3	19.3	5.6	0.0	
						中葉収穫

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月21日	23.4	27.7	20.9	0.7	0.0	3区に散布(収穫14日前)
7月22日	24.7	31.8	20.9	7.0	0.0	
7月23日	26.1	32.7	22.7	7.0	0.0	
7月24日	26.7	34.5	19.7	12.9	0.0	
7月25日	28.3	34.3	21.9	10.8	0.0	
7月26日	28.4	33.5	23.0	12.5	0.0	
7月27日	28.2	33.7	23.0	11.0	0.0	
7月28日	28.7	35.8	22.8	10.1	0.0	3区に散布(収穫7日前)
7月29日	29.2	36.5	23.6	10.6	0.0	
7月30日	29.2	34.4	23.4	11.1	0.0	
7月31日	28.8	33.4	24.9	10.3	0.0	
8月1日	24.2	30.4	19.8	3.7	25.5	上葉収穫
8月2日	26.6	34.9	20.9	11.2	0.0	
8月3日	27.4	35.0	22.8	9.2	0.0	
8月4日	27.3	33.8	22.3	9.1	0.0	

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の2回茎葉散布で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の2回茎葉散布で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	奥井洋、泉拓夫、家常祐哉、松田征大、杵渕竜介、佐々木拓人、菅野英人、中村祐哉、大林桃花、高水琢也、熊田裕信、濱田果歩、大城研人

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 ロムダンフロアブル(日本曹達)
・有効成分 テブフェノジド(20.0%)
・Lot No. A0D01
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:宮元 守)
- 4 試料採取場所 茨城県稲敷郡阿見町 JTファーム所内圃場
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第1黄色種 JT-黄色80

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	2.10a
2 区	ロムダンフロアブル	2,000倍	180L/10a	中葉収穫14日及び7 日前に茎葉散布	2.10a
3 区	ロムダンフロアブル	2,000倍	180L/10a	上葉収穫14日及び7 日前に茎葉散布	2.10a

(3) 処理方法

2区は6月7日(中葉収穫14日前)及び6月14日(中葉収穫7日前)に、3区は7月12日(上葉収穫14日前)及び7月19日(上葉収穫7日前)に、背負式動力噴霧器を用いて、所定濃度及び所定量の薬液を葉の表裏にむらなく散布した。

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否	肥沃度	腐食の含量
畑	平坦	黒ボク土	壤土	cm 20	普通	中庸	普通

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量(kg/10a) N :7.0、P2O5 :25.5、K2O :21.0
- 2) 畦株間距離 120cm×40cm (2,083本/10a)
- 3) 被覆方法 折衷マルチ(配色シルバー、全期間)
- 4) 移植月日 2023年4月4日
- 5) 土寄月日 —
- 6) 心止月日 2023年6月8日

(6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農薬名	濃度	施用量	施用月日
各区共通	クレマートU粒剤	－	4kg/10a	3月15日
各区共通	テルスター水和剤	1,500倍	1000/10a	4月27日
各区共通	トレボン乳剤	1,000倍	1500/10a	5月11日
各区共通	ザクサ液剤	200倍	1000/10a	5月19日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	15ml/株	5月31日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	20ml/株	6月8日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20ml/株	6月23日

(7) 試料採取

試料の 着位	試験区別	薬剤処理		試料採取		1回目薬剤処理から収穫までの		
		月日	天候	月日	天候	日数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中葉	2区	6月7日	晴	6月21日	晴	14	9	97.0
		6月14日	曇り一時雨					
上葉	3区	7月12日	晴一時雨	7月26日	晴	14	2	8.0
		7月19日	曇り					

(8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

(9) 官能検査 2023年11月9日から11月28日の間、日本たばこ産業(株)西日本原料本部
において調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表 (土浦アメダスポイント)

月日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月7日	21.9	28.0	16.8	11.2	3.5	2区に散布(収穫14日前)
6月8日	22.7	28.5	18.7	7.2	1.5	*6/7未明に降雨があったものの、
6月9日	21.2	23.9	19.0	0.1	37.0	薬剤散布時には完全に乾いていた
6月10日	22.6	26.5	19.1	2.3	0.0	
6月11日	20.6	22.1	19.7	0.0	17.5	
6月12日	20.3	21.7	19.5	0.0	5.0	
6月13日	22.7	27.9	19.4	6.2	2.0	
6月14日	22.2	25.2	20.5	0.0	26.0	2区に散布(収穫7日前)
6月15日	21.3	23.8	19.9	0.0	3.0	*薬剤散布7時間後に降雨
6月16日	23.8	30.1	19.7	7.7	1.5	
6月17日	25.0	32.2	17.6	13.9	0.0	
6月18日	25.9	32.6	19.9	11.4	0.0	
6月19日	22.1	25.6	19.6	8.0	0.0	
6月20日	21.8	26.4	18.9	6.6	0.0	
6月21日	21.4	26.5	17.7	7.0	0.0	中葉収穫

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（土浦 アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月12日	28.7	37.0	24.2	10.6	7.5	3区に散布(収穫14日前)
7月13日	27.2	31.5	23.6	0.2	0.5	*薬剤散布9時間後に降雨
7月14日	25.7	29.1	23.1	0.3	0.0	
7月15日	27.8	31.9	24.7	0.2	0.0	
7月16日	30.8	36.6	25.6	13.2	0.0	
7月17日	30.6	35.4	26.3	13.5	0.0	
7月18日	30.3	36.7	25.7	12.1	0.0	
7月19日	27.3	31.3	25.1	5.0	0.0	3区に散布(収穫7日前)
7月20日	26.4	31.6	23.7	10.7	0.0	
7月21日	25.9	30.4	23.3	5.4	0.0	
7月22日	25.8	30.5	22.2	11.2	0.0	
7月23日	26.4	32.4	21.7	13.4	0.0	
7月24日	27.9	35.4	21.8	12.9	0.0	
7月25日	29.3	36.4	23.4	13.5	0.0	
7月26日	30.1	37.5	24.2	12.4	0.0	上葉収穫

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の2回茎葉散布処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の2回茎葉散布処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	上大田 隆司、大場 康裕、久富 浩介、井上 琢也、二宮 基史、岩佐 央基、久保田 健志、山本 将史、小島 慎之介、小林 正和、森田 貴文、中島 俊光、柿原 匡祐、張 モウジ、本 晃伸、久見木 隼人、北村 祥一、下川 和馬、下窪 修平、福田 竜也、川村 壽証、小暮 謙仁

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 ロムダンフロアブル(日本曹達)
・有効成分 テブフェノジド(20.0%)
・Lot No. HCL-023SK
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:川村 壽証)
- 4 試料採取場所 熊本県合志市 ひのくにふれあいセンター内圃場
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第1黄色種 JT-黄色80

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	1.2a
2 区	ロムダンフロアブル	2,000倍	180L/10a	中葉収穫15日及び7 日前に茎葉散布	0.6a
3 区	ロムダンフロアブル	2,000倍	180L/10a	上葉収穫15日及び7 日前に茎葉散布	0.6a

(3) 処理方法

2区は6月13日(中葉収穫15日前)及び6月21日(中葉収穫7日前)に、3区は7月8日(上葉収穫15日前)及び7月16日(上葉収穫7日前)に、背負式動力噴霧器を用いて、所定濃度及び所定量の薬液を葉の表裏にむらなく散布した。

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否	肥沃度	腐食の含量
畑	平坦	淡色 黒ボク土	壤土	cm 20	普通	中庸	普通

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量(kg/10a) N:10.9、P2O5:25.8、K2O:22.9
- 2) 畦株間距離 117cm×42cm(2,035本/10a)
- 3) 被覆方法 折衷マルチ(配色シルバー、全期間)
- 4) 移植月日 2024年3月18日
- 5) 土寄月日 なし
- 6) 心止月日 2024年5月22日

官能検査
ロムダンフロアブル
西日本原

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
各区共通	アグレプト水和剤	1,000倍	180L/10a	5月29日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	15ml/株	5月24日
各区共通	コンタクト乳剤	30倍	30ml/株	6月5日
各区共通	コンタクト乳剤	30倍	30ml/株	6月16日
各区共通	コンタクト乳剤	30倍	30ml/株	7月9日

試料の 着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		1回目薬剤処理から収穫までの		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中 葉	各区 共通	6月13日	晴	6月28日	雨	15	11	345.5
		6月21日	曇り					
上 葉	各区 共通	7月8日	晴	7月23日	晴	15	9	286.0
		7月16日	曇り					

(8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

(9) 官能検査 2024年12月2日から12月27日の間、日本たばこ産業株式会社西日本原料本
において調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表 (菊池アメダスポイント)

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月13日	26.4	34.3	19.5	10.1	0.0	2区に散布(収穫15日前)
6月14日	26.8	34.0	19.9	8.2	0.0	
6月15日	26.3	31.0	21.6	1.8	0.0	
6月16日	25.7	30.2	22.1	6.1	0.0	
6月17日	23.2	28.4	18.6	0.4	22.5	
6月18日	23.6	30.5	18.6	8.9	36.5	
6月19日	24.4	31.2	17.5	9.1	0.0	
6月20日	21.2	22.8	20.0	0.0	60.0	
6月21日	25.1	29.7	21.2	2.6	14.5	2区に散布(収穫7日前)
6月22日	24.9	28.1	21.6	0.0	16.5	*6/21未明に降雨があったものの
6月23日	25.5	28.4	24.0	0.0	7.0	薬剤散布時には完全に乾いていた
6月24日	23.4	25.7	21.3	0.0	23.5	
6月25日	22.6	25.7	21.0	0.0	8.5	
6月26日	22.5	24.3	20.6	0.0	2.0	
6月27日	22.6	24.1	21.4	0.0	62.0	
6月28日	23.5	24.6	22.9	0.0	92.5	中葉収穫

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（菊池 アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月8日	29.4	33.2	26.3	10.6	0.0	3区に散布(収穫15日前)
7月9日	29.2	33.6	25.8	5.5	0.0	
7月10日	27.8	31.9	25.4	1.6	10.0	
7月11日	25.1	27.6	22.8	0.0	85.0	
7月12日	24.2	28.7	21.4	0.9	19.5	
7月13日	24.4	27.1	23.1	0.0	39.0	
7月14日	23.3	24.0	22.6	0.0	72.5	
7月15日	24.1	27.7	22.8	0.4	57.5	3区に散布(収穫7日前)
7月16日	26.7	31.7	22.8	1.1	0.5	
7月17日	28.3	33.8	24.0	9.5	0.0	*7/16早朝に降雨があったものの
7月18日	27.8	32.4	23.1	2.0	0.5	完全に乾いたことを確認した後に
7月19日	29.6	33.5	26.6	8.6	0.0	薬剤散布
7月20日	30.1	34.8	26.3	11.6	0.0	
7月21日	28.7	33.3	25.8	6.1	1.5	
7月22日	30.0	35.1	25.9	12.0	0.0	
7月23日	30.1	34.6	25.8	8.9	0.0	上葉収穫

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫15日前及び7日前の2回茎葉散布処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ロムダンフロアブル 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫15日前及び7日前の2回茎葉散布処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	一條 清志、山本 将史、二宮 基史、上大田 隆司、古閑 新、松井 司、橋本 詩郎、小島 慎之介、福田 竜也、下窪 修平、中島 俊光、木村 尚史、遠山 里菜、陳 之昂

農薬試験成績書審査

資 材 名	プロフレアSC
審査依頼成績書	官能検査：2023年度実施2件、2024年度実施1件
審査依頼試験成績書を適正と判断する理由	審査依頼された試験成績書は、当財団の定めるたばこ耕作資材試験実施要領に基づき実施され、記載されていることから、官能検査の試験結果を確認する成績書として適正であると判断する。
本成績書の結果の概要	収穫14日前及び7日前のプロフレアSC 2,000倍希釈液 2回 茎葉散布で喫味に影響は認められなかった。
備考	薬効・薬害の試験年（例数）：2016年（タバコアオムシ2、ヨトウムシ2）

農 薬 試 験 成 績 書 審 査 依 頼 書

住 所 〒103-0027 東京都中央区日本橋一丁目19番1号
会社名 三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社

次のとおり審査を依頼いたします。

品 名（旧名称）	プロフレアSC（MIE-1209フロアブル）	
製 造 元 （住所・会社名）	東京都中央区日本橋一丁目19番1号 三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社	
農薬登録済内容 （申請中を含む）	添付資料（登録票、登録申請書の第8項（使用上の注意事項）の写）参照	
本 農 薬 の 特 徴	チョウ目・ハムシ類専門剤	
成分組成	1) 主 成 分 （物質名・構造式・含有率）	プロフラニリド・N-[2-フルオロ-4-(ヘキシルオロプロパノ-2-イル)-6-(トリフルオロメチル)フェニル]-2-フルオロ-3-(N-メチルヘンズアミド)ヘンズアミド・5.0%
	2) 助 剤 （物質名・含有率）	水、界面活性剤等・95.0%
理化学的 性状	1) 物 理 性	物理状態：粘調性液体、色：淡褐色不透明、臭い：無臭
	2) 化 学 性	通常の保管条件下で安定。燃焼時、有害ガス（窒素酸化物、ハロゲン化物）を発生する
	3) 毒 性	○人畜毒性：普通物相当 ○水産動植物に対する影響：水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖地等に悲惨、流入しないよう注意して使用すること
既往の 成績	1) タ バ コ	薬効薬害試験（2016年）：タバコアオムシ 2、ヨトウムシ 2
	2) 他 作 物	日植防新農薬実用化試験（2013年～）
審査依頼 の内容	試験種類及び試験数	官能試験：3
	試験実施年	官能試験：2023年、2024年
	試験実施機関	官能試験：日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部、東日本原料本部
備 考 （添付資料）	・技術説明書（添付資料）の内訳… 登録票の写、登録申請書の第8項（使用上の注意事項）の写	

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 プロフレアSC(三井化学クロップ&ライフソリューション)
・有効成分 プロフラニリド 5.0%
・Lot No. 1YF60031
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 東日本原料本部(担当者:熊田 裕信)
- 4 試料採取場所 福島県郡山市 福島県農業総合センター所内圃場
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第1バーレー種 たいへい

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	対照区	—	—	—	1.77a
2 区	プロフレアSC (中葉)	2,000倍	180L/10a	中葉収穫14日及び7日 前に茎葉散布	1.11a
3 区	プロフレアSC (上葉)	2,000倍	180L/10a	上葉収穫14日及び7日 前に茎葉散布	1.11a

(3) 処理方法

2区は6月19日(中葉収穫14日前)及び6月26日(中葉収穫7日前)に、3区は7月21日(上葉収穫14日前)及び7月28日(上葉収穫7日前)に、背負式動力噴霧器を用いて、所定濃度及び所定量の薬液を葉の表裏にむらなく散布した。

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否	肥沃度	腐食の含量
畑	平坦	灰色低地土	壤土	30 ^{cm}	やや否	中庸	普通

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量(kg/10a) N:14.0、P₂O₅:26.0、K₂O:34.0
- 2) 畦株間距離 130cm×33cm (2,331本/10a)
- 3) 被覆方法 折衷マルチ(シルバー、全期間)
- 4) 移植月日 2023年4月24日
- 5) 土寄月日 なし
- 6) 心止月日 2023年6月26日

(6) 供試農薬以外に使用した薬剤
なし

(7) 試料採取

試料の 着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		1回目薬剤処理から収穫までの		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中 葉	2区	6月19日	晴	7月3日	曇	14	7	101.0
		6月26日	晴のち雨					
上 葉	3区	7月21日	曇	8月4日	晴	14	1	25.5
		7月28日	晴					

(8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

(9) 官能検査 2024年1月9日から1月17日の間、日本たばこ産業株式会社
東日本原料本部において調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月19日	21.2	26.4	16.0	10.0	0.0	2区に散布(収穫14日前)
6月20日	20.2	26.8	13.8	13.6	0.0	
6月21日	21.5	28.2	17.2	8.0	0.0	
6月22日	17.5	19.9	15.7	0.0	15.5	
6月23日	19.1	23.5	15.8	0.0	1.5	
6月24日	22.5	26.6	18.7	5.9	0.0	
6月25日	23.5	29.0	17.6	11.6	0.0	
6月26日	23.7	29.4	20.3	5.4	1.5	2区に散布(収穫7日前)
6月27日	23.8	26.9	21.2	0.2	0.0	*農薬散布10時間後に降雨
6月28日	23.1	30.5	20.7	1.6	68.5	
6月29日	24.3	28.0	19.7	8.6	3.0	
6月30日	23.3	26.0	21.2	0.0	7.0	
7月1日	24.3	27.6	22.0	0.2	4.0	
7月2日	25.5	32.4	20.9	10.7	0.0	
7月3日	23.9	27.3	19.3	5.6	0.0	中葉収穫

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月21日	23.4	27.7	20.9	0.7	0.0	3区に散布(収穫14日前)
7月22日	24.7	31.8	20.9	7.0	0.0	
7月23日	26.1	32.7	22.7	7.0	0.0	
7月24日	26.7	34.5	19.7	12.9	0.0	
7月25日	28.3	34.3	21.9	10.8	0.0	
7月26日	28.4	33.5	23.0	12.5	0.0	
7月27日	28.2	33.7	23.0	11.0	0.0	
7月28日	28.7	35.8	22.8	10.1	0.0	3区に散布(収穫7日前)
7月29日	29.2	36.5	23.6	10.6	0.0	
7月30日	29.2	34.4	23.4	11.1	0.0	
7月31日	28.8	33.4	24.9	10.3	0.0	
8月1日	24.2	30.4	19.8	3.7	25.5	上葉収穫
8月2日	26.6	34.9	20.9	11.2	0.0	
8月3日	27.4	35.0	22.8	9.2	0.0	
8月4日	27.3	33.8	22.3	9.1	0.0	

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	プロフレアSC 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	プロフレアSC 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	奥井洋、泉拓夫、家常祐哉、松田征大、杵渕竜介、佐々木拓人、菅野英人、中村祐哉、大林桃花、高水琢也、熊田裕信、濱田果歩、大城研人

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 プロフレアSC(三井化学クロップ&ライフソリューション)
・有効成分 プロフラニリド(5.0%)
・Lot No. 24F60005
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部(担当者:宮元 守)
- 4 試料採取場所 茨城県稲敷郡阿見町 JTファーム所内圃場
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第1黄色種 JT-黄色80

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理	—	—	—	2.10a
2 区	プロフレアSC	2,000倍	180L/10a	中葉収穫14日及び7日 前に茎葉散布	2.10a
3 区	プロフレアSC	2,000倍	180L/10a	上葉収穫14日及び7日 前に茎葉散布	2.10a

(3) 処理方法

2区は6月7日(中葉収穫14日前)及び6月14日(中葉収穫7日前)に、3区は7月12日(上葉収穫14日前)及び7月19日(上葉収穫7日前)に、背負式動力噴霧器を用いて、所定濃度及び所定量の薬液を葉の表裏にむらなく散布した。

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否	肥沃度	腐食の含量
畑	平坦	黒ボク土	壤土	20 ^{cm}	普通	中庸	普通

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量(kg/10a) N :7.0、P2O5 :25.5、K2O :21.0
- 2) 畦株間距離 120cm×40cm (2,083本/10a)
- 3) 被覆方法 折衷マルチ(配色シルバー、全期間)
- 4) 移植月日 2023年4月4日
- 5) 土寄月日 なし
- 6) 心止月日 2023年6月8日

(6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農薬名	濃度	施用量	施用月日
各区共通	クレマートU粒剤	－	4kg/10a	3月15日
各区共通	テルスター水和剤	1,500倍	100ℓ/10a	4月27日
各区共通	トレボン乳剤	1,000倍	150ℓ/10a	5月11日
各区共通	ザクサ液剤	200倍	100ℓ/10a	5月19日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	15ml/株	5月31日
各区共通	コンタクト乳剤	40倍	20ml/株	6月8日
各区共通	エキガゾール乳剤	40倍	20ml/株	6月23日

(7) 試料採取

試料の 着位	試験区別	薬剤処理		試料採取		1回目薬剤処理から収穫までの		
		月日	天候	月日	天候	日数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中葉	各区共通	6月7日	晴	6月21日	晴	14	9	97.0
		6月14日	曇り一時雨					
上葉	各区共通	7月12日	晴一時雨	7月26日	晴	14	2	8.0
		7月19日	曇り					

(8) 収穫後の処理方法

産地慣行乾燥

(9) 官能検査

2023年11月9日から11月28日の間、日本たばこ産業(株)西日本原料本部において調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表(土浦アメダスポイント)

月日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月7日	21.9	28.0	16.8	11.2	3.5	2区に散布(収穫14日前)
6月8日	22.7	28.5	18.7	7.2	1.5	*6/7未明に降雨があったものの、
6月9日	21.2	23.9	19.0	0.1	37.0	薬剤散布時には完全に乾いて
6月10日	22.6	26.5	19.1	2.3	0.0	いた
6月11日	20.6	22.1	19.7	0.0	17.5	
6月12日	20.3	21.7	19.5	0.0	5.0	
6月13日	22.7	27.9	19.4	6.2	2.0	
6月14日	22.2	25.2	20.5	0.0	26.0	2区に散布(収穫7日前)
6月15日	21.3	23.8	19.9	0.0	3.0	*薬剤散布7時間後に降雨
6月16日	23.8	30.1	19.7	7.7	1.5	
6月17日	25.0	32.2	17.6	13.9	0.0	
6月18日	25.9	32.6	19.9	11.4	0.0	
6月19日	22.1	25.6	19.6	8.0	0.0	
6月20日	21.8	26.4	18.9	6.6	0.0	
6月21日	21.4	26.5	17.7	7.0	0.0	中葉収穫

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（土浦 アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月12日	28.7	37.0	24.2	10.6	7.5	3区に散布(収穫14日前)
7月13日	27.2	31.5	23.6	0.2	0.5	*薬剤散布9時間後に降雨
7月14日	25.7	29.1	23.1	0.3	0.0	
7月15日	27.8	31.9	24.7	0.2	0.0	
7月16日	30.8	36.6	25.6	13.2	0.0	
7月17日	30.6	35.4	26.3	13.5	0.0	
7月18日	30.3	36.7	25.7	12.1	0.0	
7月19日	27.3	31.3	25.1	5.0	0.0	3区に散布(収穫7日前)
7月20日	26.4	31.6	23.7	10.7	0.0	
7月21日	25.9	30.4	23.3	5.4	0.0	
7月22日	25.8	30.5	22.2	11.2	0.0	
7月23日	26.4	32.4	21.7	13.4	0.0	
7月24日	27.9	35.4	21.8	12.9	0.0	
7月25日	29.3	36.4	23.4	13.5	0.0	
7月26日	30.1	37.5	24.2	12.4	0.0	上葉収穫

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	プロフレアSC 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	プロフレアSC 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	上大田 隆司、大場 康裕、久富 浩介、井上 琢也、二宮 基史、岩佐 央基、久保田 健志、山本 将史、小島 慎之介、小林 正和、森田 貴文、中島 俊光、柿原 匡祐、張 モウジ、本 晃伸、久見木 隼人、北村 祥一、下川 和馬、下窪 修平、福田 竜也、川村 壽証、小暮 謙仁

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 プロフレアSC(三井化学クロップ&ライフソリューション)
・有効成分 プロフラニリド 5.0%
・Lot No. 24F60004
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 西日本原料本部 (担当者:川村 壽証)
- 4 試料採取場所 福島県郡山市 福島県農業総合センター内圃場
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第1バーレー種 たいへい

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	対照区	—	—	—	0.66a
2 区	プロフレアSC(中葉)	2,000倍	180L/10a	中葉収穫14、7日前に 茎葉散布	0.66a
3 区	プロフレアSC(上葉)	2,000倍	180L/10a	上葉収穫14、7日前に 茎葉散布	0.66a

(3) 処理方法

2区は6月20日(中葉収穫14日前)及び6月27日(中葉収穫7日前)に、3区は7月22日(上葉収穫14日前)及び7月29日(上葉収穫7日前)に、背負式動力噴霧器を用いて、所定濃度及び所定量の薬液を葉の表裏にむらなく散布した。

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否	肥沃度	腐食の含量
畑	平坦	灰色低地土	壤土	cm 30	やや否	中庸	普通

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量 (kg/10a) N :14.0、P₂O₅ :26.0、K₂O :34.0
- 2) 畦株間距離 130cm×33cm (2,331本/10a)
- 3) 被覆方法 折衷マルチ(シルバー、全期間)
- 4) 移植月日 2024年4月22日
- 5) 土寄月日 なし
- 6) 心止月日 2024年6月26日

(6) 供試農薬以外に使用した薬剤
なし

(7) 試料採取

試料の 着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		薬剤処理から収穫までの		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中 葉	2区	6月20日	晴	7月4日	晴	14	7	25.0
		6月27日	晴			7	6	12.0
上 葉	3区	7月22日	晴	8月5日	晴	14	4	7.0
		7月29日	曇			7	2	4.5

※1区は薬剤処理なし。

(8) 収穫後の処理方法 産地慣行乾燥

(9) 官能検査 2024年12月2日より2025年1月9日の間、西日本原料本部において調査した。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月20日	23.9	31.9	15.9	13.1	0.0	2区1回目散布
6月21日	20.9	24.3	16.1	0.0	0.0	
6月22日	22.8	29.7	14.4	10.9	0.0	
6月23日	20.0	22.9	17.4	0.0	13.0	
6月24日	24.3	27.2	20.7	3.8	0.0	
6月25日	25.3	31.0	21.8	5.6	0.0	
6月26日	22.1	25.3	18.8	3.4	0.0	2区2回目散布
6月27日	22.3	27.7	16.7	9.8	0.0	
6月28日	20.2	22.2	17.7	0.0	3.0	
6月29日	24.4	31.6	18.7	12.2	0.5	
6月30日	23.2	26.7	19.1	1.5	0.5	
7月1日	24.2	26.6	21.7	0.6	0.5	
7月2日	23.7	26.8	19.5	8.7	0.0	中葉収穫
7月3日	23.9	27.3	20.8	0.3	2.5	
7月4日	26.0	29.5	22.8	8.7	5.0	

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表（郡山アメダスポイント）

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
上葉収穫区						
7月22日	28.4	32.2	24.6	12.2	0.0	3区1回目散布
7月23日	26.9	33.4	22.3	8.4	0.5	
7月24日	25.9	30.7	22.7	1.2	0.0	
7月25日	25.5	29.9	22.4	1.5	0.0	
7月26日	27.0	32.1	22.2	3.7	0.0	
7月27日	27.0	32.7	23.8	3.5	2.0	
7月28日	27.4	29.5	24.5	0.2	0.0	3区2回目散布
7月29日	28.1	30.9	25.9	4.3	0.0	
7月30日	27.6	30.5	25.2	3.7	0.0	
7月31日	26.1	30.4	23.2	7.4	0.5	
8月1日	25.7	30.9	20.2	11.4	0.0	
8月2日	27.1	34.5	20.9	13.0	0.0	
8月3日	28.5	34.3	22.8	11.8	0.0	上葉収穫
8月4日	28.3	35.1	23.5	10.1	4.0	
8月5日	27.2	32.1	24.3	3.6	0.0	

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	ブロフレアSC 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
上葉	ブロフレアSC 2,000倍希釈液 180L/10a 収穫14日前及び7日前の茎葉散布2回処理で、喫味に対する影響は認められなかった。
検査員	一條 清志、二宮 基史、古閑 新、伊藤 優太、久富 浩介、北村 祥一、下窪 修平、小島 慎之介、福田 竜也、井上 琢也、鬼丸 直樹、中島 俊光、木村 尚史、遠山 里菜

変更申請の承認

変更申請の承認を受けた資器材	大型熱回収型コンテナバルク乾燥機(機械室部分) (型式:JCD-ES-250-K-MC-ST、JCD-ES-340-K-MC-ST、JCD-ES-350-K-MC-DX)
承認年月日	2024年12月25日
変更申請を承認した理由	既に実用性が認められている「大型コンテナバルク乾燥機(機械室部分)、型式:JCD-**-K-MC-**(1987年度理由書処理)」に「熱回収装置(2024年試験合格)」を追加した乾燥機(機械室部分)の仕様に変更したものである。 提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本機の名称・仕様・型式変更申請を承認します。

申請年月日	2024年12月10日
変更する資器材の名称	大型コンテナバルク乾燥機(機械室部分) (型式:JCD-250-K-MC-ST、JCD-340-K-MC-ST、JCD-350-K-MC-DX)
会社名	三州産業株式会社
変更項目	名称、仕様、型式追加
過去の試験および書類審査	・1987年理由書処理 ・2003年変更申請
添付資料	・仕様書、図面等

1. 仕様の変更

変更の内容	既存大型コンテナバルク乾燥機(機械室部分)を熱回収装置を追加した仕様に変更した。
-------	--

変更箇所

項 目	変更前	変更後
熱回収装置	-	熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)

2. 名称、型式、品番等の変更

項 目	変更前	変更後
名 称	大型コンテナバルク乾燥機 (機械室部分)	大型熱回収型コンテナバルク乾燥機 (機械室部分)
型 式	JCD-250-K-MC-ST	JCD-ES-250-K-MC-ST
	JCD-340-K-MC-ST	JCD-ES-340-K-MC-ST
	JCD-350-K-MC-DX	JCD-ES-350-K-MC-DX

3. 変更前の資器材の取扱い

併売する

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		大型熱回収型コンテナパルク乾燥機（機械室部分）
型 式		JCD-ES-250-K-MC-ST
機 械 室 有 効 床 面 積		1.00m ²
既設乾燥室床面積		13.6m ²
適用吊込段数		2 段
熱 風 発 生 機	送 風 機	名 称 三相誘導電動機静翼型軸流送風機（2台）
		定格出力 三相200V - 750W × 2台
		風 量 125 × 2 m ³ /min
		静 圧 147Pa（15mmAq）
		電 流 4.0A × 2
	燃 焼 器	名 称 ガンタイプバーナ
		使用燃料 灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量 7.6L/H（2.0G/H）
		電動機出力 単相200V 40W 2P（0.4A/0.42A）
		点 火 装 置 1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置 型式：KC-0101（マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤）による制御 ①乾球制御：バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御：自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉（ステンレス製フィン搭載型）
入 力 合 計		三相200V : 送風機 1.5KW（8A） 単相200V : バーナ 0.24KW（1.5A）

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		大型熱回収型コンテナバルク乾燥機（機械室部分）
型 式		JCD-ES-340-K-MC-ST
機 械 室 有 効 床 面 積		1. 18㎡
既設乾燥室床面積		20. 4㎡
適 用 吊 込 段 数		2 段
熱 風 発 生 機	送 風 機	名 称 三相誘導電動機静翼型軸流送風機（2台）
		定 格 出 力 三相200V — 2. 0KW × 2台
		風 量 180 × 2 m ³ /min
		静 圧 196Pa (20mmAq)
		電 流 8. 0A × 2
	燃 焼 器	名 称 ガンタイプバーナ
		使用燃料 灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量 7. 6L/H (2. 0G/H)
		電動機出力 単相200V 40W 2P (0. 4A/0. 42A)
		点 火 装 置 1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置 型式：KC-0101（マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤）による制御 ①乾球制御：バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御：自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉（ステンレス製フィン搭載型）
入 力 合 計		三相200V : 送風機 4. 0KW (16A) 単相200V : バーナ 0. 24KW (1. 5A)

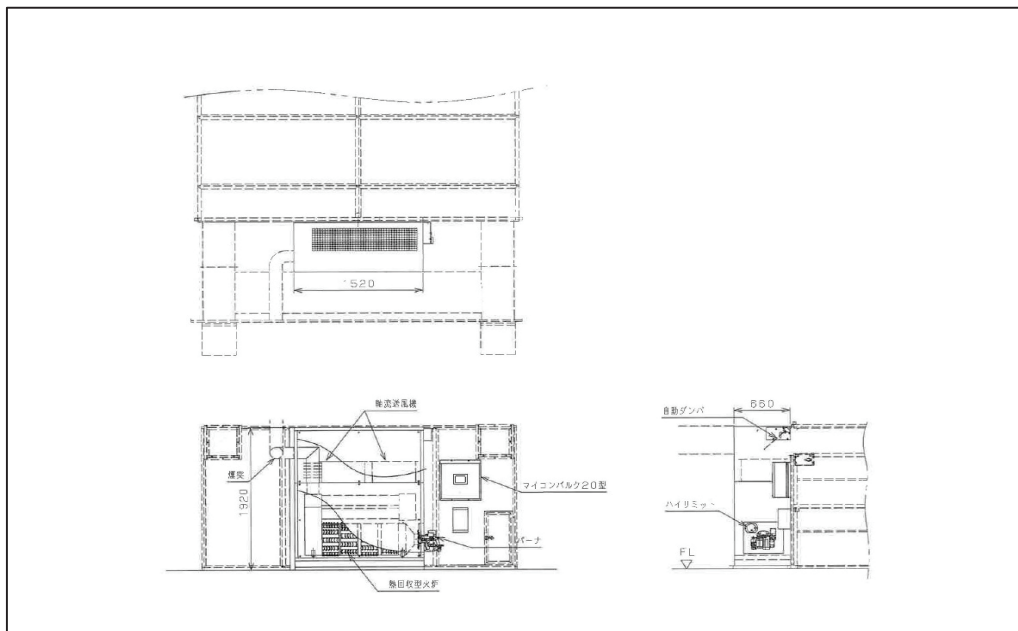
※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

仕 様 書

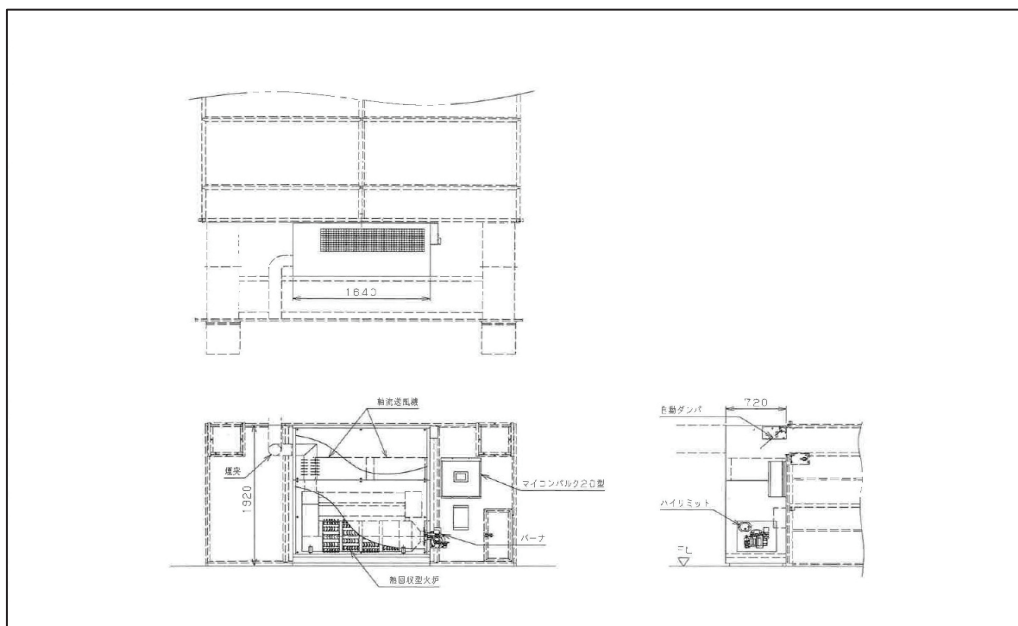
三州産業株式会社

名 称		大型熱回収型コンテナバルク乾燥機（機械室部分）	
型 式		JCD-ES-350-K-MC-DX	
機 械 室 有 効 床 面 積		2. 12㎡	
既設乾燥室床面積		20. 4㎡	
適 用 吊 込 段 数		3 段	
熱 風 発 生 機	送 風 機	名 称	三相誘導電動機静翼型軸流送風機（2台）
		定 格 出 力	三相200V － 2. 0KW × 2台
		風 量	185 × 2 m ³ /min
		静 圧	196Pa（20mmAq）
		電 流	8. 6A × 2
	燃 焼 器	名 称	ガンタイプバーナ
		使用燃料	灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量	11. 4L/H（3. 0G/H）
		電動機出力	単相200V 150W 2P
		点 火 装 置	1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置		型式：KC-0101（マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤）による制御 ①乾球制御：バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御：自動ダンパによるPID制御
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置	
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉（ステンレス製フィン搭載型）	
入 力 合 計		三相200V ： 送風機 4. 0KW（17. 2A） 単相200V ： バーナ 0. 35KW（2. 5A）	

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

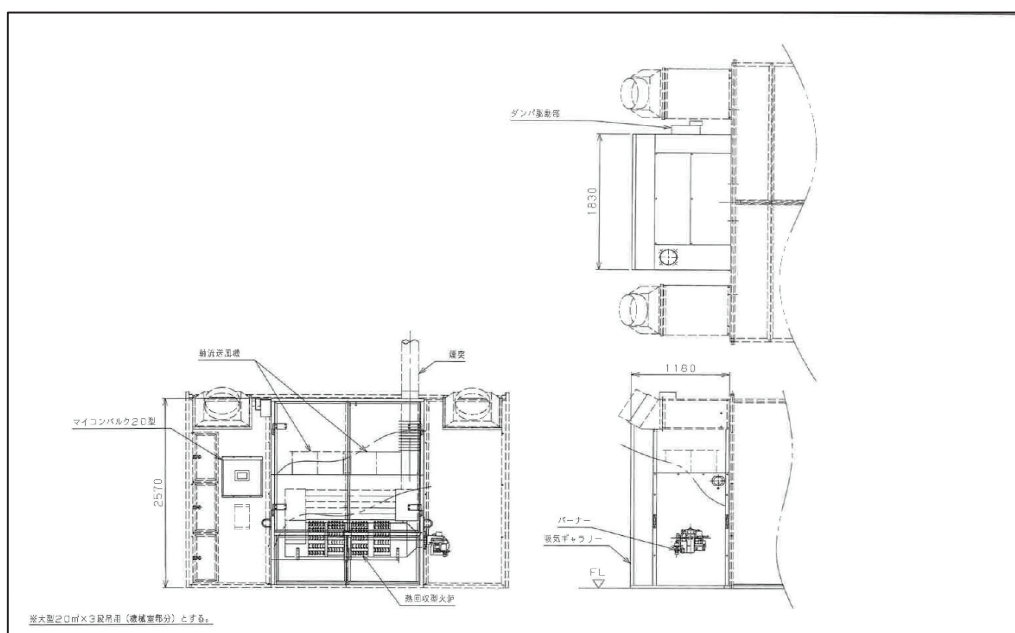


JCD-ES-250-K-MC-ST



JCD-ES-340-K-MC-ST

大型熱回収型コンテナバルク乾燥機(機械室部分)【三州産業】



JCD-ES-350-K-MC-DX

大型熱回収型コンテナバルク乾燥機(機械室部分)【三州産業】

変更申請の承認

変更申請の承認を受けた資器材	熱回収型コンテナバルク乾燥機 (型式:CVD-ES-95-6.6-2-P-MC、CVD-ES-125-8.3-2-P-MC、CVD-ES-125-9.9-2-P-MC)
承認年月日	2024年12月25日
変更申請を承認した理由	既に実用性が認められている「コンテナバルク乾燥機、型式:CVD-**-**-P-MC(2001/2002年度理由書処理)」に「熱回収装置(2024年試験合格)」を追加した機械室部分を搭載した乾燥機の仕様に変更したものである。 提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本機の名称・仕様・型式変更申請を承認します。

申請年月日	2024年12月10日
変更する資器材の名称	三州コンテナバルクV型乾燥機 (型式:CVD-95-6.6-2-P-MC、CVD-125-8.3-2-P-MC、CVD-125-9.9-2-P-MC)
会社名	三州産業株式会社
変更項目	名称、仕様、型式追加
過去の試験および書類審査	・2001/2002年理由書処理 ・2006年変更申請
添付資料	・仕様書、図面等

1. 仕様の変更

変更の内容	既存コンテナバルク乾燥機を熱回収装置を追加した仕様に変更した。
-------	---------------------------------

変更箇所

項 目	変更前	変更後
熱回収装置	-	熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)

2. 名称、型式、品番等の変更

項 目	変更前	変更後
名 称	三州コンテナバルクV型乾燥機	熱回収型コンテナバルク乾燥機
型 式	CVD-95-6.6-2-P-MC	CVD-ES-95-6.6-2-P-MC
	CVD-125-8.3-2-P-MC	CVD-ES-125-8.3-2-P-MC
	CVD-125-9.9-2-P-MC	CVD-ES-125-9.9-2-P-MC

3. 変更前の資器材の取扱い

併売する

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		熱回収型コンテナバルク乾燥機
型 式		CVD-ES-95-6. 6-2-P-MC
乾燥室有効床面積		6. 8㎡
乾燥室寸法 (内寸) (開 口 × 長 × 高)		1, 8 3 5×3, 7 0 1×1, 8 5 9
吊込み段数		2段
吊 具 名		らくらくラック32枠
吊 込 量		900kg
機 械 室 有 効 床 面 積		0. 6㎡
発 生 機	名 称	コンデンサ型単相又は三相誘導電動機静翼型軸流送風機 (1台)
	定 格 出 力	単相200V — 650W 三相200V — 650W
	風 量	95m ³ /min
	静 圧	147Pa(15mmAq)
	電 流	単相200V — 5. 5A 三相200V — 3. 0A
	名 称	ガンタイプバーナ
	使 用 燃 料	灯油 JIS K2203-1号
	燃 焼 量	3. 8L/H (1. 0G/H)
	電動機出力	200V 20W (0. 35A / 0. 4A)
	点 火 装 置	1次側 200V 0. 9A 2次側 15KV 23mA
制 御 装 置		型式: MC-0101 (マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤) による制御 ①乾燥制御: バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御: 自動ダンパによるPID制御
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉 (エコステンフィン装着)
入 力 合 計		単相200V : 1. 0KW (6. 75A / 6. 8A) 三相200V : 0. 9KW (4. 25A / 4. 3A)

※(/)で表す数値はそれぞれ電源周波数の50/60Hzの値を示します

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		熱回収型コンテナバルク乾燥機	
型 式		CVD-ES-125-8.3-2-P-MC	
乾燥室有効床面積		8.5㎡	
乾燥室寸法（内寸） （開口×長×高）		1,835×4,630×1,859	
吊込み段数		2段	
吊 具 名		らくらくラック40枠	
吊 込 量		1,150kg	
機 械 室 有 効 床 面 積		0.6㎡	
発 生 機	送 風 機	名 称	コンデンサ型単相又は三相誘導電動機静翼型軸流送風機（1台）
		定 格 出 力	単相200V — 750W 三相200V — 750W
		風 量	125m³/min
		静 圧	147Pa（15mmAq）
		電 流	単相200V — 7.3A 三相200V — 4.0A
燃 焼 器	燃 焼 器	名 称	ガンタイプバーナ
		使用燃料	灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量	3.8L/H（1.0G/H）
		電動機出力	200V 20W（0.35A）
		点 火 装 置	1次側 200V 0.9A 2次側 15KV 23mA
制 御 装 置		型式：MC-0101（マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤）による制御 ①乾球制御：バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御：自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置	
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉（エコステンフィン装着）	
入 力 合 計		単相200V ： 1.4KW（8.55A / 8.6A） 三相200V ： 1.3KW（5.25A / 5.3A）	

※(/)で表す数値はそれぞれ電源周波数の50/60Hzの値を表します

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

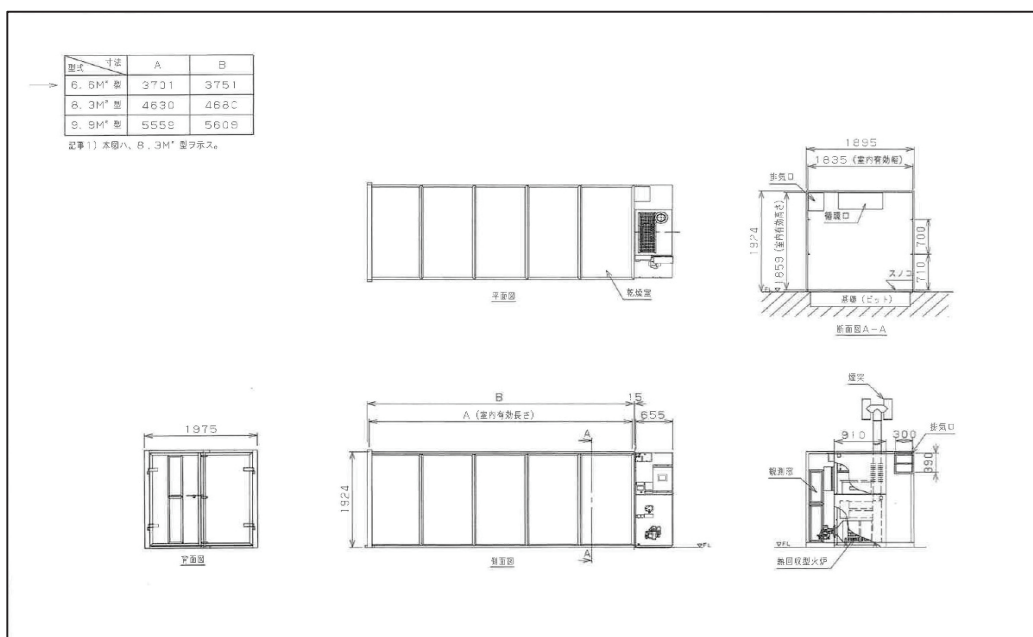
仕 様 書

三州産業株式会社

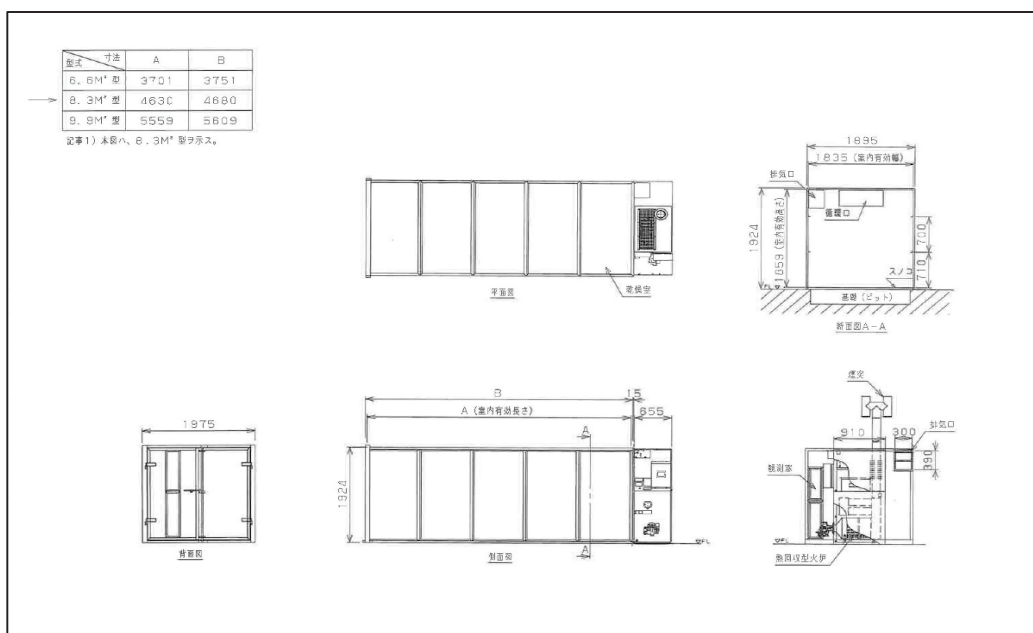
名 称		熱回収型コンテナバルク乾燥機	
型 式		CVD-ES-125-9.9-2-P-MC	
乾燥室有効床面積		10.2㎡	
乾燥室寸法（内寸） （開口×長×高）		1,835×5,559×1,859	
吊込み段数		2段	
吊 具 名		らくらくラック48枠	
吊 込 量		1,350kg	
機 械 室 有 効 床 面 積	0.6㎡		
発 生 機	送 風 機	名 称	コンデンサ型単相又は三相誘導電動機静翼型軸流送風機（1台）
		定 格 出 力	単相200V — 750W 三相200V — 750W
		風 量	125m³/min
		静 圧	147Pa（15mmAq）
		電 流	単相200V — 7.3A 三相200V — 4.0A
燃 焼 器	ガンタイプバーナ	名 称	ガンタイプバーナ
		使用燃料	灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量	3.8L/H（1.0G/H）
		電動機出力	200V 20W（0.35A/0.4A）
		点 火 装 置	1次側 200V 0.9A 2次側 15KV 23mA
制 御 装 置		型式：MC-0101（マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤）による制御 ①乾球制御：バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御：自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置	
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉（エコステンフィン装着）	
入 力 合 計		単相200V：1.4KW（8.55A / 8.6A） 三相200V：1.3KW（5.25A / 5.3A）	

※(/)で表す数値はそれぞれ電源周波数の50/60Hzの値を示します

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

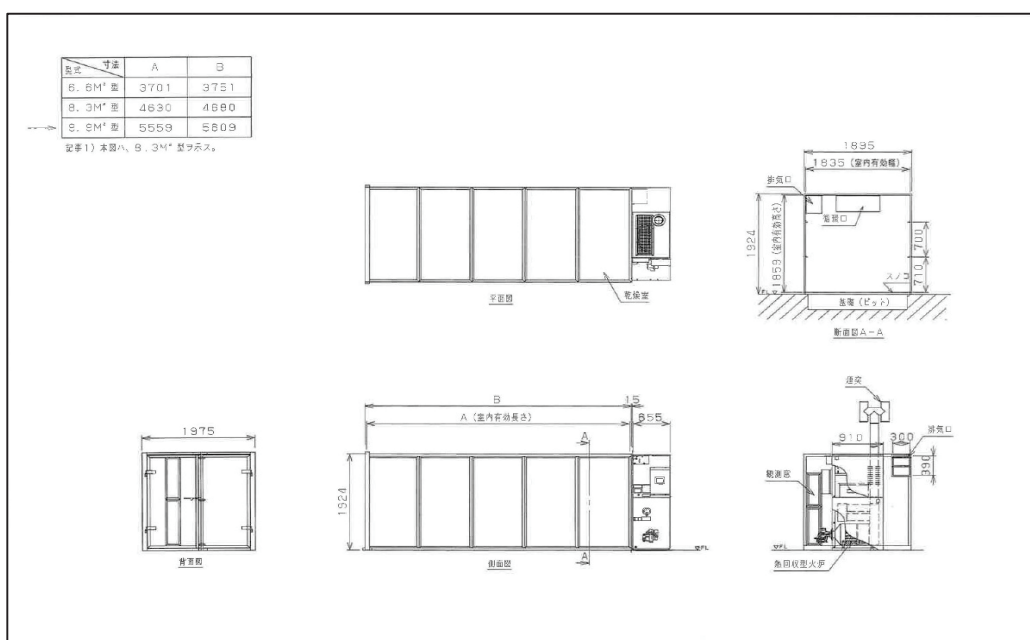


CVD-ES-95-6.6-2-P-MC



CVD-ES-125-8.3-2-P-MC

熱回収型コンテナバルク乾燥機【三州産業】



CVD-ES-125-9.9-2-P-MC

熱回収型コンテナバルク乾燥機【三州産業】

変更申請の承認

変更申請の承認 を受けた資器材	大型熱回収型コンテナバルク乾燥機 (型式:JCD-ES-250-13.2-2-P-MC、JCD-ES-340-16.5-2-P-MC、JCD-ES-340-20-2-P-MC、 JCD-ES-350-20-3-P-MC)
承認年月日	2024年12月25日
変更申請を 承認した理由	既に実用性が認められている「大型コンテナバルク乾燥機、型式:JCD-**-**- *-P-MC(1987年度理由書処理)」に「熱回収装置(2024年試験合格)」を追加し た機械室部分を搭載した乾燥機の仕様に変更したものである。 提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本 機の名称・仕様・型式変更申請を承認します。

申請年月日	2024年12月10日
変更する 資器材の名称	大型コンテナバルク乾燥機 (型式:JCD-250-13.2-2-P-MC、JCD-340-16.5-2-P-MC、 JCD-340-20-2-P-MC、 JCD-350-20-3-P-MC)
会社名	三州産業株式会社
変更項目	名称、仕様、型式追加
過去の試験および 書類審査	・1987年理由書処理 ・2003年変更申請
添付資料	・仕様書、図面等

1. 仕様の変更

変更の内容	既存大型コンテナバルク乾燥機を熱回収装置を追加した仕様に変更した。
-------	-----------------------------------

変更箇所

項 目	変更前	変更後
熱回収装置	-	熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)

2. 名称、型式、品番等の変更

項 目	変更前	変更後
名 称	大型コンテナバルク乾燥機	大型熱回収型コンテナバルク乾燥機
型 式	JCD-250-13.2-2-P-MC	JCD-ES-250-13.2-2-P-MC
	JCD-340-16.5-2-P-MC	JCD-ES-340-16.5-2-P-MC
	JCD-340-20-2-P-MC	JCD-ES-340-20-2-P-MC
	JCD-350-20-3-P-MC	JCD-ES-350-20-3-P-MC

3. 変更前の資器材の取扱い

併売する

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		大型熱回収型コンテナバルク乾燥機
型 式		JCD-ES-250-13. 2-2-P-MC
乾燥室有効床面積		13. 6㎡
乾燥室寸法 (内寸) (開口×長×高)		(1, 835×2) ×3, 707×1, 859
適用吊込段数		2 段
吊 具 名		らくらくラック64枠
吊 込 量		2, 000kg
機 械 室 効 床 面 積		1. 00㎡
熱風発生機	送風機	名 称 三相誘導電動機静翼型軸流送風機 (2台)
		定格出力 三相200V — 750W × 2台
		風 量 125 × 2 m ³ /min
		静 圧 147Pa (15mmAq)
		電 流 4. 0A × 2
	燃焼器	名 称 ガンタイプバーナ
		使用燃料 灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量 7. 6L/H (2. 0G/H)
		電動機出力 単相200V 40W 2P (0. 4A/0. 42A)
		点 火 装 置 1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置 型式: KC-0101 (マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤) による制御 ①乾燥制御: バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御: 自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)
入 力 合 計		三相200V : 送風機 1. 5KW (8A) 単相200V : バーナ 0. 24KW (1. 5A)

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		大型熱回収型コンテナパルク乾燥機
型 式		JCD-ES-340-16. 5-2-P-MC
乾燥室有効床面積		17. 0㎡
乾燥室寸法 (内寸) (開口×長×高)		(1, 835×2) ×4, 636×1, 859
適用吊込段数		2 段
吊 具 名		らくらくラック80枠
吊 込 量		2, 600kg
機 有 効	機 械 室 床 面 積	1. 18㎡
熱 風 発 生 機	送 風 機	名 称 三相誘導電動機静翼型軸流送風機 (2台)
		定格出力 三相200V - 2. 0KW × 2台
		風 量 180 × 2 m ³ /min
		静 圧 196Pa (20mmAq)
		電 流 8. 0A × 2
	燃 焼 器	名 称 ガンタイプバーナ
		使用燃料 灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量 7. 6L/H (2. 0G/H)
		電動機出力 単相200V 40W 2P (0. 4A/0. 42A)
		点 火 装 置 1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置	型式: KC-0101 (マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤) による制御 ①乾球制御: バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御: 自動ダンパによるPID制御
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)
入 力 合 計		三相200V : 送風機 4. 0KW (16A) 単相200V : バーナ 0. 24KW (1. 5A)

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

仕 様 書

三州産業株式会社

名 称		大型熱回収型コンテナバルク乾燥機
型 式		JCD-ES-340-20-2-P-MC
乾燥室有効床面積		20.4m ²
乾燥室寸法 (内寸) (開口 × 長 × 高)		(1,835×2)×5,565×1,859
適用吊込段数		2 段
吊 具 名		らくらくラック96枠
吊 込 量		3,100kg
機 械 室 有 効 床 面 積		1.18m ²
熱 風 発 生 機	送 風 機	名 称 三相誘導電動機静翼型軸流送風機 (2台)
		定格出力 三相200V - 2.0KW × 2台
		風 量 180 × 2 m ³ /min
		静 圧 196Pa(20mmAq)
		電 流 8.0A × 2
	燃 焼 器	名 称 ガンタイプバーナ
		使用燃料 灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量 7.6L/H (2.0G/H)
		電動機出力 単相200V 40W 2P (0.4A/0.42A)
		点火装置 1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置 型式: KC-0101 (マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤) による制御 ①乾球制御: バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御: 自動ダンパによるPID制御	
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)
入 力 合 計		三相200V : 送風機 4.0KW (16A) 単相200V : バーナ 0.24KW (1.5A)

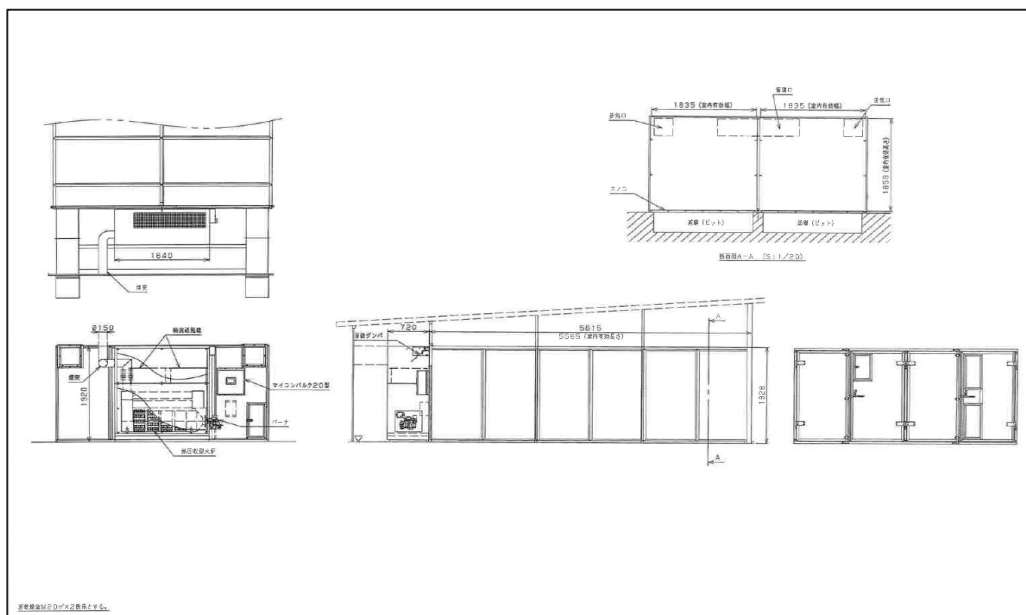
※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります

仕 様 書

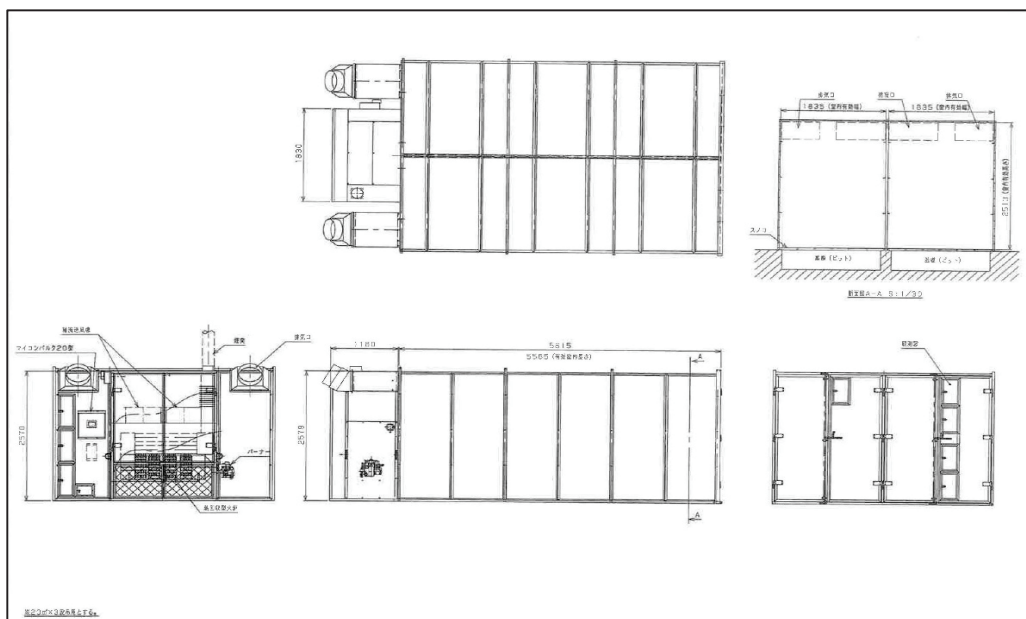
三州産業株式会社

名 称	大型熱回収型コンテナバルク乾燥機		
型 式	JCD-ES-350-20-3-P-MC		
既設乾燥室床面積	20.4m ²		
乾燥室寸法 (内寸) (開口×長×高)	(1,835×2)×5,565×2,153		
適用吊込段数	3 段		
吊 具 名	らくらくラック144枠		
吊 込 量	4,650kg		
機 械 室 有 効 床 面 積	2.12m ²		
熱 風 発 生 機	送 風 機	名 称	三相誘導電動機静翼型軸流送風機 (2台)
		定格出力	三相200V 2.0KW × 2台
		風 量	185 × 2 m ³ /min
		静 圧	196Pa (20mmAq)
		電 流	8.6A × 2
	燃 焼 器	名 称	ガンタイプバーナ
		使用燃料	灯油 JIS K2203-1号
		燃 焼 量	11.4L/H (3.0G/H)
		電動機出力	単相200V 150W 2P
		点火装置	1次側 200V 1A 2次側 16KV 17mA
	制 御 装 置		
	型式: KC-0101 (マイクロコンピュータ方式 共通化制御盤) による制御 ①乾球制御: バーナによるON-OFF制御 ②湿球制御: 自動ダンパによるPID制御		
安 全 装 置		プロテクトリレー及びハイリミットによるバーナ回路の遮断及び警報装置	
熱 回 収 装 置		熱回収型火炉 (ステンレス製フィン搭載型)	
入 力 合 計		三相200V : 送風機 4.0KW (17.2A) 単相200V : バーナ 0.35KW (2.5A)	

※本仕様は、改良のため予告なしに変更する場合があります



JCD-ES-340-20-2-P-MC



JCD-ES-350-20-3-P-MC

大型熱回収型コンテナバルク乾燥機【三州産業】

変更申請の承認

変更申請の承認 を受けた資器材	バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤) (型式:CPC-VS55-0.75、CPC-VS55-1.5)
承認年月日	2024年12月25日
変更申請を 承認した理由	<p>既に実用性が認められている「バーレー種コンパクト乾燥機(Ⅰ型、Ⅱ型 S1/K1)操作盤(1994/1996年度理由書)」の現行部品調達が困難なことから、現行黄色種乾燥機操作盤を活用し、操作機能は維持しつつ新規電装部品による操作盤に変更したものである。</p> <p>提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本機の仕様・型式変更申請を承認します。</p>

申請年月日	2024年12月6日
変更する 資器材の名称	<p>バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤)</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパクト乾燥機Ⅰ型操作盤(型式:CPC-V15) コンパクト乾燥機Ⅱ型S1/K1操作盤(型式:CPC-VS15)
会社名	株式会社木原製作所
変更項目	仕様、型式変更
過去の試験および 書類審査	<ul style="list-style-type: none"> 1994年理由書処理 1996年理由書処理
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> 仕様書、図面等

1. 仕様、型式の変更

変更の内容	<p>既存コンパクト乾燥機操作盤を新規電装部品による操作盤に変更し、それに伴い操作スイッチをタッチパネル式に変更。</p> <p>併せてコンパクト乾燥機Ⅰ型内蔵「黄変乾燥プログラム」を廃止した。 (内蔵各プログラム内容は現行から変更無)</p>
-------	--

変更箇所

・コンパクト乾燥機Ⅰ型

項 目	変更前	変更後	
型 式	CPC-V15	CPC-VS55-0.75	CPC-VS55-1.5
操作スイッチ	選択押ボタン方式	タッチパネル式 5.7インチ	
内蔵プログラム	黄変乾燥・中骨＋調湿運転・中骨乾燥・調湿運転	中骨＋調湿運転・中骨乾燥・調湿運転	
送風機	AC200V 3相0.75(1.5)A インバーター出力	AC200V 3相0.75A インバーター出力	AC200V 3相1.5A インバーター出力
地震警報	-	AC200V 単相0.5A	

・コンパクト乾燥機Ⅱ型 S1/K1

項 目	変更前	変更後	
型 式	CPC-VS15	CPC-VS55-0.75	CPC-VS55-1.5
操作スイッチ	選択押ボタン方式	タッチパネル式 5.7インチ	
内蔵プログラム	中骨＋調湿運転・中骨乾燥・調湿運転		
送風機	AC200V 3相0.75(1.5)A インバーター出力	AC200V 3相0.75A インバーター出力	AC200V 3相1.5A インバーター出力
地震警報	-	AC200V 単相0.5A	

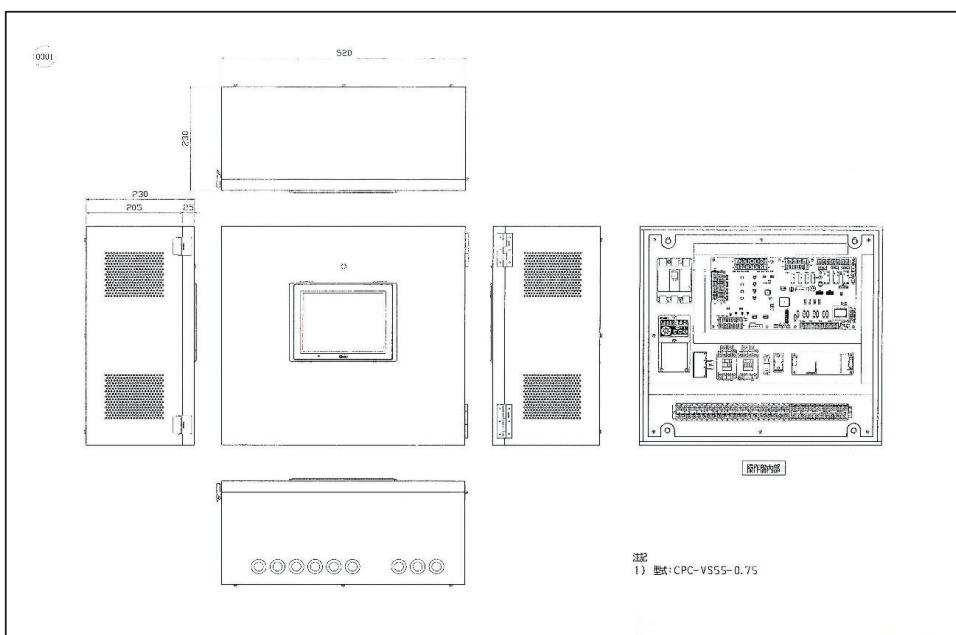
※ 新型型式末尾0.75/1.5の違いは、乾燥機搭載送風機出力違いにより、サーマルリレー容量が違う為別としている。

2. 変更前の資器材の取扱い

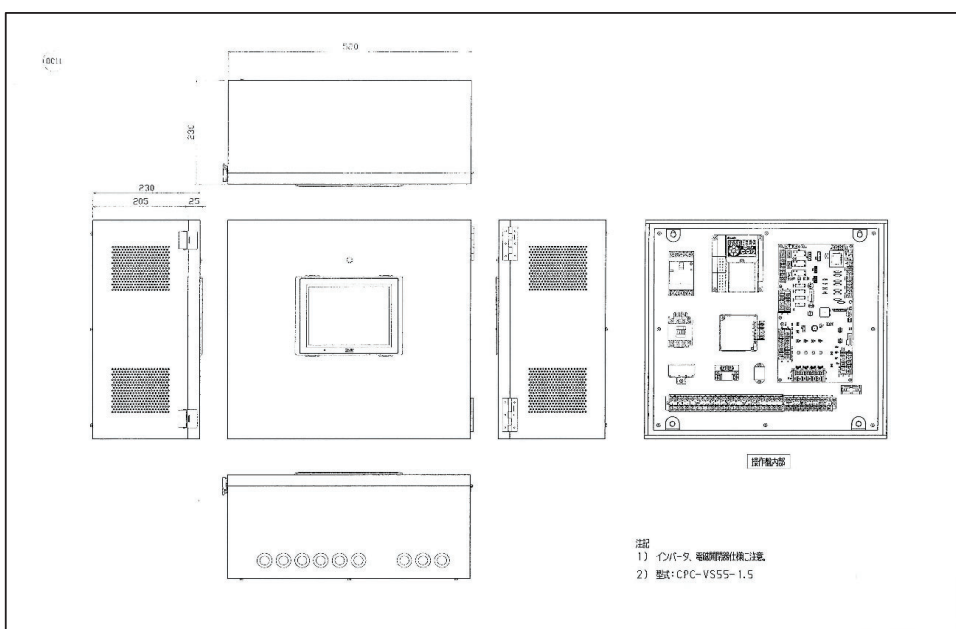
変更前仕様(CPC-V15、CPC-VS15)については今後製造販売しない。

仕 様 書

型 式		CPC-VS55-0.75	CPC-VS55-1.5
名 称		バーレー種 葉たばこ乾燥用プロコン	
電 源		AC200V (50Hz)	
温度センサー		PT100Ω 3導線式 (乾球・湿球)	
使用条件	周辺温度	0～40℃	
	周辺湿度	85%Rh以下 (結露なきこと)	
操作スイッチ		タッチパネル式 5.7インチ	
内蔵プログラム		3種 (中骨+調湿運転・中骨乾燥・調湿運転)	
定格負荷	送風機	AC200V 3相0.75kw インバーター出力	AC200V 3相1.5kw インバーター出力
	換気扇	AC200V 3相0.5A	
	バーナー	AC200V 3相 4A	
	ダンパー	AC200V 3相0.5A	
	ボイラー	AC200V 3相0.7A	
警報出力	ハイリミット	AC200V 3相0.5A	
	熱源警報	AC200V 3相0.5A	
	地震警報	AC200V 3相0.5A	
温度計測	指示温度	-30～60℃	
	分解能	0.1℃	
	精 度	±0.5℃ (0～50℃)	



CPC-VS55-0.75



CPC-VS55-1.5

バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤)【木原製作所】

変更申請の承認

変更申請の承認 を受けた資器材	バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤) (型式:BC0101-S32-0.75i、BC0101-S32-1.5i)
承認年月日	2024年12月25日
変更申請を 承認した理由	<p>既に実用性が認められている「バーレー種コンパクト乾燥機(Ⅰ型、Ⅱ型 S1/K1)操作盤(1994/1996年度理由書)」の現行部品調達が困難なことから、現行黄色種乾燥機操作盤を活用し、操作機能は維持しつつ新規電装部品による操作盤に変更したものである。</p> <p>提出された資料により検討した結果、特段の問題はないと判断されるので、本機の仕様・型式変更申請を承認します。</p>

申請年月日	2024年12月10日
変更する 資器材の名称	バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤) ・コンパクト乾燥機Ⅰ型操作盤(型式:BC3202) ・コンパクト乾燥機Ⅱ型S1/K1操作盤(型式:BC3202)
会社名	三州産業株式会社
変更項目	仕様、型式変更
過去の試験および 書類審査	・1994年理由書処理 ・1996年理由書処理
添付資料	・仕様書、図面等

1. 仕様、型式の変更

変更の内容	<p>既存コンパクト乾燥機操作盤を新規電装部品による操作盤に変更し、それに伴い操作スイッチをタッチパネル式に変更。 併せてコンパクト乾燥機Ⅰ型内蔵「黄変乾燥プログラム」を廃止した。 (内蔵各プログラム内容は現行から変更無)</p>
-------	---

変更箇所

・コンパクト乾燥機Ⅰ型

項 目	変更前	変更後
型 式	BC3202	BC0101-S32-0.75i
操作スイッチ	選択押ボタン方式	タッチパネル式 5.7インチ
内蔵プログラム	黄変乾燥・中骨＋調湿運転 ・中骨乾燥・調湿運転	中骨＋調湿運転・中骨乾燥 ・調湿運転
送風機	AC200V 3相0.75(1.5)A インバーター出力	AC200V 3相0.75A インバーター出力
地震警報	－	AC200V 単相0.5A

・コンパクト乾燥機Ⅱ型 S1/K1

項 目	変更前	変更後	
型 式	BC3202	BC0101-S32-0.75i	BC0101-S32-1.5i
操作スイッチ	選択押ボタン方式	タッチパネル式 5.7インチ	
内蔵プログラム	中骨＋調湿運転・中骨乾燥・調湿運転		
送風機	AC200V 3相0.75(1.5)A インバーター出力	AC200V 3相0.75A インバーター出力	AC200V 3相1.5A インバーター出力
地震警報	－	AC200V 単相0.5A	

※ 新型型式末尾0.75/1.5の違いは、乾燥機搭載送風機出力容量を標記

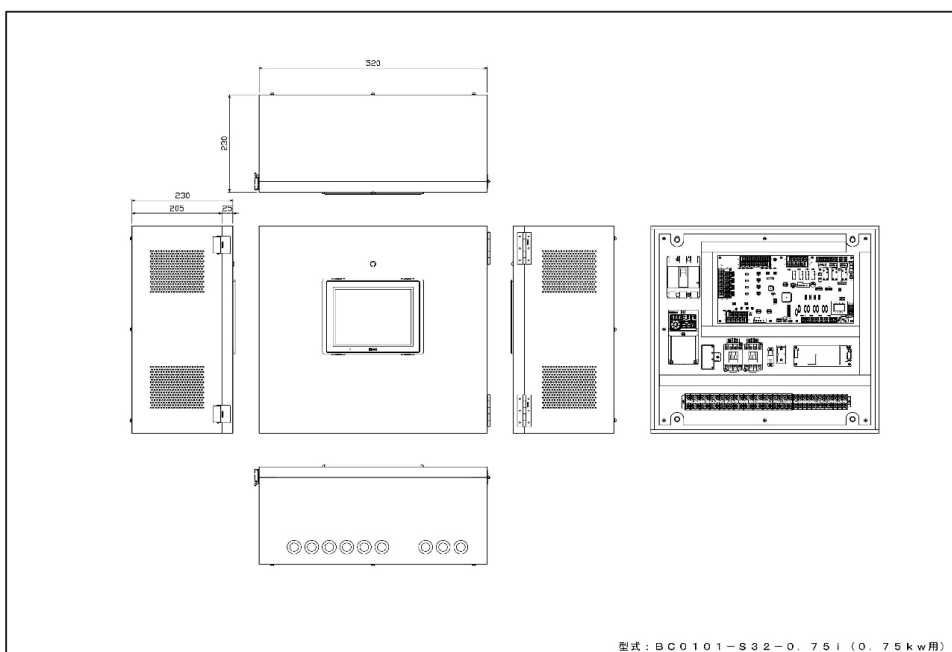
2. 変更前の資器材の取扱い

変更前仕様(BC3202)については今後製造販売しない。

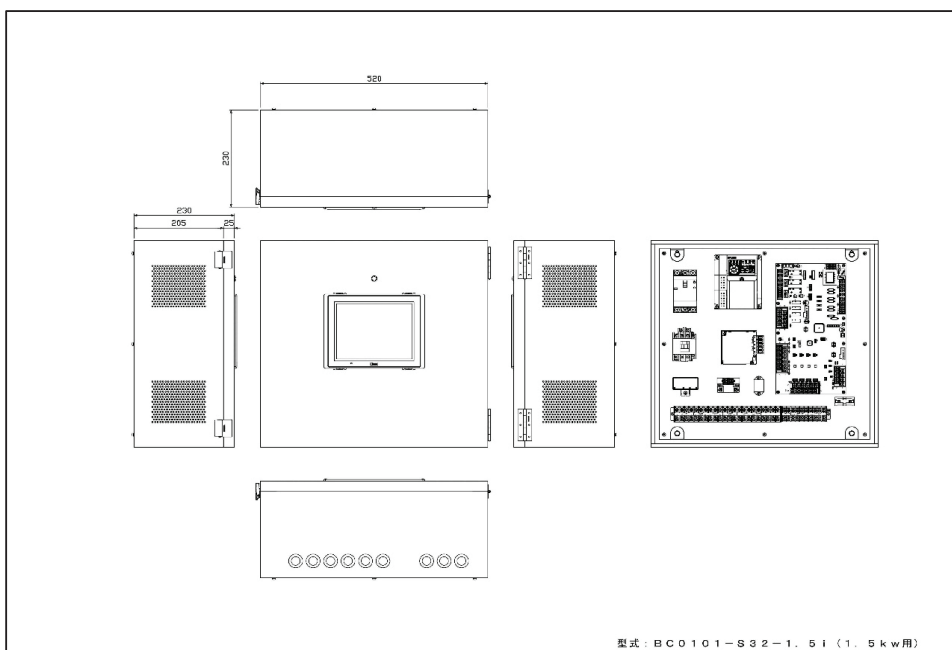
仕 様 書

品 名		バーレー種 葉たばこ乾燥用マイコン	
型 式		BC0101-S32-0.75i	BC0101-S32-1.5i
電 源		AC200V (50Hz)	
温度センサー		Pt100Ω 3導線式 (乾球、湿球)	
使用条件	周辺温度	0~40℃	
	周辺湿度	85%Rh以下 (結露なきこと)	
操作スイッチ		タッチパネル式 5.7インチ	
内蔵プログラム		3種類AC200V 単相0.5A (中骨+調湿運転、中骨乾燥、調湿運転)	
定格負荷	送風機	AC200V 3相0.75kw インバータ出力	AC200V 3相1.5kw インバータ出力
	換気扇	AC200V 単相0.5A	
	バーナ	AC200V 単相 4A	
	ダンパ	AC200V 単相0.5A	
	ボイラー	AC200V 単相0.7A	
警報出力	ハイリミット	AC200V 単相0.5A	
	熱源警報	AC200V 単相0.5A	
	地震警報	AC200V 単相0.5A	
温度計測	指示温度	-30~60℃	
	分解能	0.1℃	
	精 度	±0.5℃ (0~50℃)	

三州産業株式会社



BC0101-S32-0.75i



BC0101-S32-1.5i

バーレー種コンパクト乾燥機(操作盤)【三州産業】

たばこ耕作資材委託試験公開公報
(第56号)

2025年(令和7年) 3月20日 発行

発行: 一般財団法人 葉たばこ財団

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-1 第38荒井ビル7階
